

# 公益社団法人計測自動制御学会

## 第2回 定時社員総会資料(1)

### 【議案3】2011年度(平成23年度) 事業報告(案)・決算書(案) (公社第1期 通算第50期)

#### 目 次

#### 2011年度(平成23年度) 事業報告(案)

##### I. 概況

1. 一般事項.....	1
2. 委員会.....	4
3. 部門.....	13
4. 将来ビジョン.....	16
5. 支部.....	17

##### II. 事業

1. 研究集会・講演会・講習会【公1】.....	21
2. 調査・研究・資料収集【公2】.....	38
3. 資格付与・認定【公3】.....	39
4. 啓発・普及体験活動【公4】.....	40
5. 表彰・コンクール【公5】.....	41
6. その他の事業.....	47
7. 法人管理・運営.....	48

#### 2011年度(平成23年度) 決算書(案).....57

1. 正味財産増減計算書(全体).....	59
2. 貸借対照表(全体).....	61
3. 財務諸表に対する注記.....	62
4. 証明書.....	67
5. 正味財産増減計算書(直轄).....	69
6. 貸借対照表(直轄).....	71
7. 正味財産増減計算書(旧部門).....	73
8. 貸借対照表(旧部門).....	75
9. 旧(支部)会計正味財産増減計算書.....	76
10. 旧(支部)会計貸借対照表.....	78
11. 旧(支部)会計正味財産増減計算書総括表.....	79
12. 旧(支部)会計貸借対照表.....	80



公益社団法人計測自動制御学会 2011 年度事業報告 (案)  
(事業期間 2011 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

なお、定款第 4 条に定められた事業との関連づけについては、「II 事業」(21～56 頁)に示す。

## I 概 況

### 1 一般事項

2011 年度の事業活動は、2 月 22 日に開催された公益社団法人としての第 1 回定時社員総会(計測自動制御学会としては、通算第 50 回定時総会)に報告された 2011 年度事業計画にもとづいて遂行された。

#### 1. 2011 年度の基本方針にもとづく事業運営と 3 つのタスクフォース

2011 年度事業計画の冒頭では、SICE の 2011 年度事業運営にあたっての基本認識と基本方針について次のように述べられている。

2011 年度は、2010 年度に公益法人移行を行った SICE にとって、50 周年を迎える記念する年であり、新たな幕開けの年度となる。しかしながら、経済情勢の悪化、理工系学生の減少、企業における計測・制御の位置づけの変化などによる、会員数の減少傾向はとまっておらず、SICE を取り巻く社会情勢は厳しくなっている。2011 年度の SICE50 周年を機会に SICE の新しい姿への飛躍を本格的に始動する初年度にあたり、さまざまな側面で新たな SICE としての取り組みを行う。

2011 年度も 2010 年度に設定した以下の 3 つの柱を基本方針とし、運営していく。

- 1) SICE Anytime Everywhere (いつでもどこでも SICE)
- 2) 産業界との積極な関わりに対する基盤強化
- 3) SICE 内外での異分野融合・横断型

これら 3 つの柱を実現するため、以下の(1)～(7)の事業を推進する。(各事業の概要記述は以下では割愛)

- (1) 新たな将来ビジョンの創出による事業全体の活性化
- (2) 2011 年 50 周年記念事業の実施
- (3) 新公益法人制度移行に伴う学会基盤の維持・強化の検討継続
- (4) 国際化の推進
- (5) 論文・会誌事業の強化、見直し
- (6) 国際標準化事業の推進
- (7) 教育事業の推進

以上の 2011 年度事業計画の基本方針にしたがって、理事会を中心とした事業運営がなされ、各直轄委員会、各支部、各部門における機関において、とりわけ創立 50 周年記念事業(以下、「Y50」)として、また Y50 を契機とする事業活動が活発に行われた。

一方、3 月 11 日に発生した歴史的な東北地方太平洋沖地震および大津波、さらに福島第一原子力発電所の超重大事故を含む東日本大震災は、計測自動制御学会にとってもきわめて重要な短期、中長期の対応を迫るものとなった。本会の 50 年の節目としての通過点をこの未曾有の悲劇の時に迎えたことは、次の 50 年に向けて新しい時代の学会への脱皮と飛躍をはかる本会の 2011 年度の事業運営の特徴としても特筆すべきものとなった。

2011 年度当初の 3 つの柱と 7 つの主要課題ごとの事業計画に加え、東日本震災対応および未来に向けた復興を計測、制御、システムインテグレーションの立場から本会として考えていく事業活動を慎重に、しかし、積極的に行った。

なお、2011 年度拡大理事会テーマ討議の結果および東日本大震災への対応の観点から、以下の 3 つの重要タスクフォースを設けて検討し、それぞれの成果にもとづく活動が行われ、2012 年度以降に向けて継続中である。

- ①「新法人の魅力ある価値創造」タスクフォース(略称「価値創造」TF) 企画委員会のもとに設置
- ②「新しい国際化のあり方」タスクフォース(略称「国際化」TF) 国際委員会のもとに設置
- ③「東日本大震災対応」タスクフォース(略称「大震災」TF) 総務委員会のもとに設置

## 2. 2011 年度第事業活動概要

2011 年度の会務運営については、公益社団法人移行に伴い、業務執行理事による会務分担での業務の遂行という枠組みが明確になり、監事による監査体制も強化された。内部統制の仕組みやルールの見直しを行い、新たな運営体制を確立しつつある。2009 年度より開始した会務のグループ化を継続し、各委員会にまたがる重要な課題を会務横断型に括ったミッションとし、委員会を次の 4 つのグループに分け、それぞれ副会長が担当して、一層の横断的運営の強化を図りつつ事業運営を行った。

- |                                      |       |
|--------------------------------------|-------|
| ・部門・支部グループ（部門、将来ビジョン、支部）             | 早川副会長 |
| ・知財グループ（会誌編集、論文集、英文論文）               | 早川副会長 |
| ・事業グループ（国際、事業、Annual Conference(AC)） | 白井副会長 |
| ・総務グループ（総務、財務、IT、会員・広報）              | 白井副会長 |

なお、石川会長は、グループ統括、倫理委員会などの学会全般共通事項を担当するとともに東日本大震災関連の短期、中長期施策のリーディングにあたった。

また、2007 年より徹底されつつある 4 月中の理事担当会務および委員会の実質的引継ぎはほぼ達成され、総会での新体制確定から間を置くことなく活動を促進すべく具体的活動が早期にスタートできた。

以下に 7 つの主要課題ごとの事業計画に対応し、主に東日本大震災関連の追加事業も含めて 2011 年度の事業活動の概要を報告する。

### (1) 新たな将来ビジョンの創出による事業全体の活性化

3 つの柱を実現し、SICE を活性化させていくため、将来ビジョン委員会を中心に、部門協議会、支部協議会、産官学連携委員会、学会連合推進委員会が協力・連携し、SICE を特徴づける異分野横断型活動の最初の取り組みとして先端融合システムズアプローチ創出委員会が発足し、インキュベーション型のプロジェクトなどについて企画・立案を行っている。Y50 としてのビジョンプロデュースプログラム（VPP）は、大きなテーマとして「水」と「ワイヤレス」に関する賛助会員からのメンバーとファシリテータとしての大学の研究者による産学共同作業を行っている。9 月の 50 周年記念事業主週間の中間報告会では、「水」テーマからの「SICE Smart Creek」構想についての有意義な討論が行われた。

### (2) Y50：2011 年本番年の実施

東日本大震災の影響などによる計画の見直しや準備の遅れもあったが、Y50 実行委員会以下の多くの会員の献身的な努力により、5 月までに見直した計画通りに実行できた。9 月 15 日の記念式典およびレセプション（早稲田大学井深大記念ホールおよびリーガロイヤルホテル）には、文部科学省、経済産業省、日本学術会議および産業界から社団法人日本電気計測器工業会をはじめとする国内外のご来賓を含む約 250 名が出席し、我が国の科学技術のあり方が転換点にある中での計測・制御・システム工学をカバーする本会の将来に向けた展望を拓く大きな機会となった。石川会長からは、『未来を創る ー新しい SICE が目指すものー』のアナウンスメントが行われ、新しい時代の学会として飛躍するためのビジョンが示された。9 月 13 日より 18 日までの SICE Annual Conference 2011（早稲田大学西早稲田キャンパス）開催に合わせた 50 周年記念主週間における多彩な催しも盛況で、SICE の新しい姿をアピールするものとなった。記念式典に併せて、50 年史を会誌『計測と制御』の 8・9 月合併号として発刊した。約 300 ページにおよぶ SICE の正史ともいべき記念誌となり、約 4 年間におよぶ技術史委員会を中心とする努力が実り、SICE 関連分野の歴史を振り返り、新たな SICE の将来展望を示すものとなった。主週間行事だけでなく、見学会、セミナー、パネルディスカッションなど支部や部門が実施したものも含めて活発な記念行事を多数行った。なお、“未来を創る ー新しい SICE が目指すものー”を SICE 内外に広く訴求すべく、日刊工業新聞の SICE 50 周年記念特集（賛助会員の広告を含む全 4 面）として同社とともに企画を進め、10 月 27 日に発行された。

### (3) 新公益法人制度移行に伴う学会基盤の維持・強化の検討継続

2010 年 10 月の公益社団法人としての新たなスタートの実質初年度の新しい制度・財務両面の管理と実務遂行を総務委員会の下、制度小委員会および予算小委員会を中心に鋭意行っている。ただし、当初計画の四半期毎の制度整備計画や会計の中間見込みについては、Y50 の遂行などの負荷上の問題もあり延期のやむなきに至った。旧法人と同様に第 4 四半期での作業となっているが、確実に遂行して法人としての SICE を維持、発展させていくための将来にわたる活動、財政基盤を確保するための構造的な設計を完了させ、2 年度目の 2012 年度に備える。

### (4) 国際化の推進

50 周年記念となる「SICE Annual Conference 2011」（9 月 13 日～18 日早稲田大学西早稲田キャンパス）

を成功裡に開催した。Y50主週間との並行・同時開催に加え東日本大震災の影響という大きな課題を解決した計画段階から運営にいたる SICE2011 実行委員会の努力は特筆に値する。Technical Session では 12 カ国から 586 件の論文発表があり、約 800 人（うち海外 120 人）の参加者があったが、東日本大震災の影響を考慮すると数値的にも成功であった。海外からの Plenary Talk での招待者をはじめ多くの参加者からの注目を集め、次の 50 年を目指す SICE の国際的な活動の新たな頁を開くものとなった。2008 年の創刊以来 4 年目を迎えた英文論文集 SICE JCMSI も順調に成長しつつあり、国際的な学術誌に向けて新たな飛躍を期している。国際委員会の下に設置された「国際化」TF では、SICE の国際交流を通じた価値創造活動を真に促進・支援するための事業計画を立案し、予算的措置も含めた実施案の策定を進めている。

#### (5) 論文・会誌事業の強化、見直し

学会の基本活動である論文発表を促進させるため、電子化、査読の迅速化、論文数の増加策を行うことを基本とする 2010 年度からの論文集検討委員会での検討の成果を実現すべく鋭意準備を行っている。2012 年度からのエディタ制査読を軸とする現在の産業論文を統合した新計測自動制御学会論文集への移行を実現すべく、体制と仕組み双方の実行計画を作成している。この新論文集は、電子発行と、それに伴った新しい購読形態も特徴である。現在、関連委員会などと調整し、早期の実現に向けて作業を進めている。会誌についても会誌・出版検討委員会において、50 周年記念の 50 年史特集の発行を機会として新時代に向けた会誌を中心とする改善について検討し、6 月の特別会誌編集委員会での新しい試みも含めて立案した。2012 年 1 月には会誌・出版検討委員会より理事会に提案する予定である。

#### (6) 国際標準化事業の推進

2009 年度に設置した国際標準化委員会は 3 年目の本格的な活動に入っているが、昨年度と同様に、国内標準化機関・団体、特に日本電気計測器工業会 (JEMIMA) 連携活動、Annual Conference の場での論文発表および国際標準化賞授与による国際標準化活動の促進を行っている。9 月の創立 50 周年主週間では JIS 原案作成委員会による pH、粘度、比重（密度）の改正 JIS 報告会とタイアップする形で SICE2011 でのオーガナイズドセッションを行った。併せて、9 月 15 日に 2 回目となる SICE 国際標準化功績賞と同奨励賞をそれぞれ 1 名に授与した。2011 年度の重要な新しい活動として、経済産業省がリーディングしている制御システムのセキュリティ WG への協力と消費者機械安全の国際標準規格化の促進があり、鋭意その準備を行っており、後者については 11 月 18 日に JEMIMA 主催の計測展 2011 TOKYO の併設行事としてセミナーを行い、盛況かつ好評であった。

#### (7) 教育事業の推進

2010 年度までと同様に SICE 関連分野で将来の SICE の核となる人材を育成していくため、人材育成・資格認定とその継続的フォローを基本方針として積極的な活動を行っている。SICE 続プロセス塾の 2 年目は、計測技術と鉄鋼分野にも拡張された本格的なカリキュラムによって、スクーリングの場でも 31 名の塾生と講師陣間とで、これまでにない活発でインタラクティブな討論が行われている。計測制御エンジニア資格認定試験では、今年度より教育・認定委員会が支部に呼びかけ、地域における受験者が急増する見込みであり、認定・登録された計測制御エンジニアの計測制御エンジニア会での活動の活性化も含めて、新しい SICE 計測制御エンジニアの時代が開かれる準備が整った。

#### (8) 2011 年度の主要な新しい事業について

##### 1) 新しいタスクフォースの活動状況

7 つの主要課題毎の事業に加え、前述の 2011 年度の 3 タスクフォース、「価値創造」TF、「国際化」TF および「大震災」TF でも活動の成果がまとまりつつあり、11 月下旬に開催された拡大理事会 2011 でのテーマ討議などで充実した検討が行われた。特に「大震災」TF での検討は、Y50 主週間の記念式典やパネルディスカッションの場において石川会長より、以下のアナウンスメントが行われており今年中に準備を行い、2012 年より本格的な実体活動が行われる。

##### 東日本大震災に学ぶ：新組織を創設

計測、制御、システムの視点から俯瞰的に総括し、未来へ向けた提言をまとめる。東日本大震災は、内在していた技術的な問題点を顕然化し、今後のシステム設計に多くの知見を残した。設計条件や設計基準は、確固たるものではないことを再認識し、様々な見地からの社会受容性も技術の深化には不可欠であることも見逃すことはできない。

一方、安全で安心な社会の構築に対し、計測自動制御学会がカバーする分野において、今すべきこととは何か、どのような技術が求められているのかを広く探索的かつ創造的にまとめることも必要である。



そこで、計測自動制御学会では、東日本大震災が50周年の年に発生したことを真摯に受け止め、技術的な視点から東日本大震災を総括し、未来に向けた提言としてまとめる。このための特別の体制を整え、未来へ向けた提言をまとめる。じっくりと腰を落ち着けて、システム設計論を見直す試みであり、目先の「もの」を中心とした活動とは異なり、方法論の根本的な見直しを図る点に特徴がある。

## 2) 新生ライフエンジニアリング部門

Y50主週間の9月14日をもって、部門制本格発足から10年目にふさわしく、新部門ライフエンジニアリング部門が発足した。ライフエンジニアリング部門が対象とする領域は、ライフサイエンス分野であり、社会、家族、個体、臓器、細胞、分子など多様なレベルに広がっている。また解析方法は、生体計測、信号処理、ハードウェアとしてのシステム解析から、脳情報処理のようなソフトウェアシステムの解析、モデリングなど、解析手法も多様であり、SICEの技術基盤であるシステム論的アプローチを駆使して、ライフエンジニアリング領域を先鋭化させることを目指す。特に、人間を含む生物を1つのシステムとして、そのメカニズムを明らかにする構成的解析手法を開発・活用する。世界的な社会の高齢化に伴う健康寿命の延伸や操作心地も含めた広い意味でのユーザーインターフェースの向上など、様々な形で人間を取り巻く環境や技術の変化を体系的に捉え、QoLの向上に寄与する事を目的とする。年1回のライフエンジニアリング部門大会を始め、統合情報生物学、電気生理運動学、ユビキタスヘルスケアの各部会によるシンポジウムなどを開催し、この分野の研究者の交流や情報交換の場を提供する。

## 会員数の推移

	2011年(平成23年)末現在	2010年(平成22年)末現在	増減
名誉会員	38名	40名	▲2名
正会員	5,653名	5,741名	▲88名
学生会員	479名	446名	33名
賛助会員	195社 243口	198社 242口	▲3社 1口

## 2. 委員会

### 2.1 倫理委員会

「倫理委員会に関する規程」第4条に従い、「倫理綱領・行動規範」の点検、会員への周知、教育・研修・啓発、事例収集、対応措置制度の点検・改善案の立案、ならびに遵守活動の立案の必要性を検討した。2011年度におけるSICEを取り巻く状況を調査した結果から綱領、規範および関連規程の改正などの必要はないと判断し、また、申し立てがあった場合には規程に従って判断することとした。

### 2.2 企画委員会

2010年度からのSICEの3カ年前進目標(ホップ、ステップ、ジャンプ)中間年“ステップ”にあたる2011年度は、SICE50周年記念事業を梃子として2012年度の“ジャンプ”へ向けて基礎固めを行う年であるとした。この方針に沿って2011年度の企画委員会では、学会としてのSICEの魅力・価値の創出を最大限発揮できる中長期的な学会のあり方を提案することを目標とした。委員会の下に価値創造タスクフォースを設け、集中的に議論を重ねたうえ、学会の財務体質改善に向けた財務分析と学会の中長期活動方針についての具体的提案を企画委員会に答申した。この答申提案をもとに、2011年11月に行われた拡大理事会では、以下のテーマについてさらに深い討議を行った。

#### (1) 学会の未来

SICEの魅力・価値は、科学技術の分野横断的な視点での取り組みに本質的に適合している点にある。一方、現実問題として会員数減少傾向の中で学会活動の活性度や財務において課題を抱えている。次の50年に向け、財務的に安定かつ真に活気のある学会へ変革するための中長期的展望について議論した。

#### (2) 論文の未来

学会の存在意義の根幹をなす論文に関して、投稿数・掲載数の減少傾向がみられるなど課題を認識している。論文としての質の維持と論文投稿者にとっての使い勝手の良さの向上という2つの要求の両立を目指して、具体的方針について議論を行った。

#### (3) Annual Conference(AC)の未来

学問の分野横断的視点を魅力とするSICEにおいて、ACはそのデモンストレーションに格好の場となりうる。部門活動との関係の中でのACのあり方を再検証するとともに、ACを学会活性化の起爆剤として活用する具体的な方針・施策について議論した。

#### (4) 対外広報の未来

SICE の価値を学会外の一般社会に伝え、発信する情報を社会で共有するために、対外広報は重要な役割を果たす。また、正会員・賛助会員の維持・増加を図るためにも、広い意味での広報活動が鍵となる。中長期的視点から、対外広報の方針と具体的な施策を議論した。

以上の議論で得た成果をもとに、2012年度には学会の中長期的な方向性を具体的な計画で示す「中期事業計画」の策定を目指してゆく。

## 2. 3 学会賞委員会

### (1) 論文賞などの選考

論文賞 10 件、技術賞 4 件、著述賞 2 件、新製品開発賞 2 件、国際標準化賞功績賞 1 件、国際標準化賞奨励賞 1 件それぞれの候補を選考し、理事会に報告した（教育貢献賞は応募がなかった）。この選考にあたっては、部門制度に対応した計測、制御、システム・情報、システムインテグレーション、産業応用の 5 分野のカテゴリーで評価した。

### (2) SICE Annual Conference Award の受賞者決定と表彰

SICE Annual Conference Award 運用規則に基づき、選考委員会を組織し(委員長：京都工芸繊維大学黒江康明氏)、International Award 6 件および Young Author's Award 4 件の Finalists および International Award 2 件、Young Author's Award 1 件の受賞者を決定、9 月 17 日の Closing Ceremony で表彰し、理事会に報告した。

### (3) 学術奨励賞の選考

学術奨励賞の候補を選考し、研究奨励賞 10 件、技術奨励賞 2 件を理事会に報告した。

## 2. 4 SICE 50 周年記念事業 (Y 5 0) 組織委員会・実行委員会

### 2. 4. 1 SICE 50 周年記念事業 (Y 5 0) 組織委員会

Y50組織委員会(委員長：舘 暉元会長、共同委員長：永島 晃元会長)は、2010年8月にSICEを支える有識者(有力賛助会員をはじめとする産業界の代表など)をメンバーとして、2011年のSICE 50周年記念事業(2010-2012年の3年間に実行する予定)をより充実するために組織された。現在は40社40名が委員を務めている。2011年度は2月22日に第2回組織委員会を開催し、記念事業実行委員会の企画する記念事業計画の報告を受けるとともに助言を行った。また、記念事業を実行するために必要な産業界からの募金、協力、協賛を推進した。具体的には、企業に対する協賛特別会費の協力依頼や、パネルディスカッション・見学会・セミナー・ビジョンプロデュースプログラムなどへの産業界からの協賛・協力を推進した。

### 2. 4. 2 SICE 50周年記念事業 (Y 5 0) 実行委員会

2010年度に引き続き50周年記念事業の企画・遂行した。前記のY 5 0組織委員会と協力して、産業界からの募金、協力、協賛の活動を正会員への特別会費のお願いとともに推進し、協賛特別会費として35企業/団体より計11,000千円、個人特別会費として350件5,906千円の寄付をいただいた。2011年度事業としては2010年度の8月に発行した事業計画どおり、以下を遂行した。

#### (a) 9月15日に創立50周年記念式典を早稲田大学井深ホールで開催

式典には、文部科学省、経済産業省、日本学術会議および産業界から国内外のご来賓を含む約250名のご参列をいただき、ご来賓ご祝辞、事業報告、本会の将来展望、50年会員表彰、全賛助会員への50周年記念表彰、記念講演を行った。記念式典を含めた本会50周年記念事業に関しては新聞など6紙に掲載された。また、10月27日には日刊工業新聞にSICE 5 0周年記念特集(賛助会員の広告を含む全4面)が掲載された。

#### (b) 記念誌「計測自動制御学会50年史」(総294ページ)の発行

本会関連分野を振り返り、新たな本会の将来展望を示す50年間の正史を会誌『計測と制御』Vol.50, No.8/9合併号として発行

#### (c) 計測・制御・システムに関わる学問・技術の産業界と社会への発信

創立50周年記念事業Webシステムを利用した発信の充実 (<http://www.sice.jp/portal/>)とコンテンツの追加・更新に加え部門・支部を中心とした26の冠記念事業を実施。

#### (d) 計測・制御・システムの将来に向けた取り組み

各種イベントの企画

- ・SICE未来予測パネル討論会の実施(3回)・・・After 3.11 我々はどう行動すべきか」など
- ・SICEものづくり現場見学会の実施(6社)
- ・SICE易しい計測・制御・システム体験セミナーの実施(11回)
- ・SICEビジョンプロデュースプログラム(VPP)～SICEと育む未来の芽～

産学からの委員による計9回の検討ののち「SICE Smart Water City構想」を提案し、中間発表会を9月13日

に開催

- ・ライフエンジニアリング部門の設立
- (e) その他のイベント
- ・物理化学関連JIS改正の報告会：pH・粘度・密度(比重)
- ・功績賞受賞者を囲みSICEの歴史と未来を語る夕べ

など

なお、東日本大震災による影響が大きく、記念事業計画の見直しも行う中で準備が大幅に遅れることになったが、5月以降の新管理ワーキング(三平満司, 大谷哲也, 両共同主査)をはじめとする関係者による献身的な回復と効果的な新企画実現の努力は特筆に価する。

## 2.5 SICE 技術史委員会

本委員会(委員長は示村悦二郎元会長, 副委員長は江木紀彦元会長)はSICE関連分野の技術史をまとめるために2007年8月1日に発足以来、鋭意活動を重ね本年9月に『計測自動制御学会50年史』を発刊した。この50年史はSICE関連分野の歴史を振り返り、新たなSICEの将来展望を示すもので、約300ページ/総著者100名以上におよぶものである。

- 第1章：組織と運営(設立から組織の拡大, 財政など)
- 第2章：事業の展開(会誌, 論文集, Annual Conf., 部門, 支部など)
- 第3章：計測と制御の科学技術の発展(学会を取り巻く計測制御技術)
- 第4章：学会活動を通してみる科学技術の50年(部門ごとの現状と展望)
- 資料：歴代会長・副会長, フェロー, 学会賞受賞者など

50年史を編集するにあたり、学会の成立から今日までの貴重な資料のうち、すでに散逸したもの、また毀損しつつあるものが多々あることは残念なことであった。学会の活動を示す貴重な資料を整理し、長く保存することは先人の努力を後世に正しく伝えるうえで極めて重要であり、我々の使命であると考えた。そのため、過去の資料の整理と保存とともに、これから生じる様々な資料を追加していける資料保存のシステムの早急な確立を理事会に提言し、技術史委員会としての活動を終了した。

## 2.6 会誌編集委員会

会誌『計測と制御』の刊行目的である、SICE 会員への有用な学術・技術情報・学会情報の提供、会員間の意見交流などのより一層の充実を目指し、前年度までの活動を継承し、会員・会員外を問わず SICE の活動について広く情報発信するメディアとして活用される会誌を目指して編集・発行した。本年度の具体的な実施項目を以下に挙げる。

(1) 会誌「計測と制御」を年11回(8・9月号は合併号)発行した。技術史委員会が中心となって編纂した50年史を含む創立50周年記念誌を、記念式典にあわせ8・9月号の合併号として発行した。また、会誌編集を行うために、年6回の編集委員会および特集号企画などのための特別委員会1回を開催した。

(2) 会誌の魅力ある記事掲載に向け、以下の活動を推進した。

1) SICE の横断的な技術分野を他学会会員にも活用してもらうために、他学会の会誌との共同企画にも継続的かつ積極的に取組んだ。共同企画においては、個別に著作権等を含む内容について覚書を締結して実施した。

2) 教育関係者(大学人など)向けだけではなく、産業人・学生・定年退職者向けにも有用な情報を提供する記事を企画し、次年度より掲載する予定である。また、部門・支部の情報発信を促進するよう働きかけを進めている。具体的には部門講演会の開催情報をもとに、開催前から掲載依頼をするなどの活動を進めた。

3) 賛助会員数・会員数の維持に貢献するため、読み易くタイムリーな記事の増加、大学・産業界の両者からの利用を増進するような内容を目指した。企業会員からの製品紹介や研究室紹介など下記の情報発信記事に継続して取組みいくつかの記事を掲載した。

- ①企業会員からの随想・提言・展望・報告・製品紹介などの記事
- ②博士課程修了学生からの学位論文を基盤にした解説記事
- ③企業会員が興味をもつ大学・ベンチャー企業などからの特許技術の解説記事
- ④研究室紹介などの研究機関からの情報発信記事

(3) 会員への情報提供をより多く掲載でき、情報発信を円滑に行うために行った記事の種類および掲載料の整理や、企業広告を出しやすき環境を整えるための施策(賛助会員の製品紹介記事掲載料無料化や採用・就職活動学生向けの広告の新設)をより広く認知させ、積極的な記事の投稿がされるように検討をした。広告代理店と連携し、特集記事情報を活用した広告募集などを進めた。また、記事内の図表などがより理解しやすいように動画などの関連電子データの Web への掲載を継続し、この拡充を図った。

(4) 解説記事の読みやすきの向上をはかるため継続的に収集している会誌に関するアンケートや評価を踏まえるとともに、表紙や広告のあり方、さらに新たな会誌改善策を検討した。

(5) 編集委員会委員は、従来どおり部門・支部推薦の委員で構成し、部門や支部の活動と連携を図った。

(6) 会誌編集・発行などに関わる経費コントロールについて、2009年度からの施策を継続するとともに、総合的な会誌改善や広告活動の活性化など会員サービスの向上を目指した対応を検討した。会告については、情報の維持の関係から行事の最低限の情報を本誌に掲載することとして運用した。

(7) 会誌の電子化については、J-STAGEへ掲載することで調整を進めている。

なお、本会刊行物関連の経常収支の改善のため、論文集委員会および英文論文集委員会と連携して、2011年度も継続して「お知らせページ」のホームページ掲載、和文論文集および英文論文集の会誌との同梱発送を基本的に行った。読者の利便性に低下が最小限にとどまるように工夫して実施した。

## 2. 7 論文集委員会

知の集積たる論文集は、SICEの学会活動における中心的な役割を担うものの1つであり、本学会で長年にわたり培ってきた確固たる編集理念を守らなければならない。一方で学会のおかれた社会情勢にも対応すべく、学会の顔としての論文集の価値を高め、SICE全体に利をもたらす役目を果たす必要がある。特にSICEが有する産業界とのつながりを効果的に宣伝流布するため、2011年までの論文集（和文誌）、産業論文、英文誌の3誌からなる体制を見直し、統合整理する必要があった。以上の観点から、2010年度までの論文集検討委員会に参画してのSICEの論文集改革の検討も含めた活動を継承し、本年度の論文集委員会活動の柱を以下の5つにおいた。

- 1) 発行形態の電子化
- 2) 論文集（和文誌）と産業論文の統合
- 3) 論文集委員会のAE制への移行
- 4) 部門活動ならびに関係委員会などとの連携を通じた論文集の価値向上
- 5) 投稿から採否決定までの期間短縮などの論文著者に対するサービスの向上

以下に、本年度におけるこれらに関する活動の結果と評価を記す。

(1) 出版形態の電子化が実現した。具体的には2012年1月号よりJ-STAGEを利用した電子版論文誌が発行となる（既に創刊号までの過去の論文を電子版アーカイブとして公開している）。これに伴って論文誌購読の料金体系を見直し、2012年1月号より安価な電子版のみの論文誌購読が選択できるようになる。

(2) 2012年1月号から論文集と産業論文を統合し、ひとつの論文誌としての発刊が実現した。

(3) 委員会制の下で行われてきた査読体制は、論文集統合にあわせ2012年1月よりAE制へと移行した。体制づくり、査読フローを刷新し、AE制への移行を滞りなく実行できるよう準備した。

(4) 論文の質および数の充実のため、特集号の企画、シンポジウム等との連携による優秀論文の投稿への誘導などを実施した。

(5) 査読期間の短縮、質の高い査読の実現のため、電子化システムによる査読体制を検討した。具体的には2012年7月より導入することを目指し、J-STAGEが提供するEditorial Managerを第一候補として決定した。

## 2. 8 産業論文委員会

2012年度の論文集統合に向けて以下の活動を推進し実行した。

(1) 統合に関する混乱を防止するための実務的なスケジュールを策定し実行した。具体的には、産業論文での投稿受付期間を2011年6月までとし、7月から12月までを移行期間として、和文論文での投稿受付とした。この移行期間は、これまでの産業論文での査読を希望する方には産業論文の査読システムで行うことで投稿者への混乱を防ぐように進め、特に和文論文の投稿票にも、産業論文の査読システムを希望する投稿者へ向けての修正をお願いしスムーズな移行が実施できた。

(2) 計測制御技術に関するSICEの存在意義の明確化や、論文誌統合の意義やメリットについては、会誌やHPに、“SICE論文集統合および電子化についてのお知らせ”としての情報を掲載し広く会員への広報と周知を行った。具体的には、2月、3月の会誌へのお知らせ記事の掲載と同時にHPへの掲載を実施し、投稿者に対しても、産業論文、和文論文、JCMSIの各HPへの掲載を行った。

これまでの産業論文で培われた文化的価値を新しい論文集に継承する方策については、産業論文がいち早く取り組んだ電子化やAE制による査読システムは、新しい論文集での基本方針となっている。また、これまでに掲載された産業論文が、広く一般の方に活用いただけるように産業論文のHPのリニューアル化に取り組み、累計154件の産業論文集が、HPから容易に閲覧できるようにした。同時に、恒久的に資産が管理できるように、独立行政法人科学技術振興機構(JST)のJournal@rchiveへの掲載も検討し、JSTの予算化時期に申し込みを行うことを確認した。

## 2. 9 英文論文集委員会

英文論文集委員会は、創刊4年目を迎えた英文論文集の国際的な情報発信源としての役割を確実に達成するため、委員会を2回開催し、隔月刊で合計6号の英文論文集を発行した。

英文論文集への投稿数は、2010年度に比べて減少し、年間で78編（一般投稿68編・特集号10編）の投稿を受けた。また、購読者数に関しても伸び悩んでおり、年間での購読申込数は182件であった。しかし、財務状況はおおむね順調である。

一方で、懸案であった論文集の電子ジャーナル化については、論文集委員会と連携しながら準備を進め、2011年11月1日より、J-STAGEにおいて、発行より1年経過した号の一般公開を行っている。また、国際的な論文データベースへの登録については、Web of Scienceへの登録のため、トムソン・ロイター社へ申請を行い、Vol. 4, No. 5より送付を開始した。

英文論文集では、委員会の下にEditor-in-Chief, Deputy Editor-in-Chief, Editor, Associate EditorよりなるEditorial Boardを構成し、投稿論文の審査をエディタ制で行っている。構成員の献身的な尽力により、短い査読期間と適切な採否決定を同時に達成している。

2011年に掲載された一般論文について、投稿から掲載までに要した期間は平均で約5.7ヶ月であり、採録率は約6割である。

## 2. 10 出版委員会

(1) 計測・制御テクノロジーシリーズの刊行継続について進捗状況を確認し、著者への執筆推進の働きかけを行った。現在計10巻が発行済み。3巻が脱稿となり、2012年春ごろの発行予定。動きのない巻については、執筆者・テーマの変更や取り下げ等の検討を行った。

(2) 出版物の新企画について委員会で議論し、上記シリーズへの組み込みや先端学術シリーズとしての発行について、検討を行った。

(3) Y50を契機とした、新しい出版シリーズ（「先端学術シリーズ」含む）あるいは出版形態（インターネット利用etc.）のあり方および50周年記念HPにあるオンライン・ハンドブックやデジタル・ミュージアムの今後の活用・維持方法などを委員会にて議論を継続中である。

## 2. 11 国際委員会

「計測・制御・システム情報分野におけるアジアの中核学会を目指す」という中長期ビジョン（2002年11月開催の拡大理事会）ならびに「SICEにおける真の国際化の在り方」の議論（2010年11月開催の拡大理事会）を踏まえ、円滑な国際関連活動を展開するとともに「国際化」タスクフォースを設置して、国際化の戦略的な推進・強化に努めた。SICE Annual Conferenceに関しては、SICEの国際活動の中核的活動としてAnnual Conference(AC)委員会と連携し、活動支援を行った。また、関連国際研究集会などでSICEの存在を積極的にアピールすべく活動を推進した。

### (1) SICE Annual Conference

SICE2011並びにSICE50周年記念事業の成功にむけ、Annual Conference(AC)委員会および、実行委員会等と連携して、以下の活動を行った。

- ・海外若手研究者を対象としたInternational Scholarship制度を運用し、3名を選考、表彰した。
- ・VIP Reception, ICROS-SICE Friendship Lunchを開催し、国際的な協力関係の強化に努めた。

これらの活動を通じて、次の50年を目指すSICEの国際的な活動の新たなページを開く、国際会議としてのAnnual Conferenceの充実とプレゼンスの確立に貢献した。

### (2) 「国際化」タスクフォース

- 1) 「新しい国際化のあり方」タスクフォースを立ち上げ、国際化の戦略的な推進と強化に向けた取り組みを具体化すべく、部門を対象に国際関連活動に関わる情報収集を行った。
- 2) 国際関連活動に関わる情報収集結果も踏まえ、SICEの国際交流活動を通じた価値創造活動を真に促進・支援するための事業計画を立案し、予算的措置も含めた実施案の策定を進めた。

### (3) 国際研究集会の主催・共催

依頼された国際研究集会の主催（0件）、共催（3件）、協賛（21件）、後援（1件）事項に関して審議・承認し、財政的負担のある主催、共催については計画案の審議ならびに助言を行った。

### (4) 海外学術団体との連携

- 1) 共催・協賛する主要な会議について、代表者（会長、副会長など）を送り、国際交流の拡大とSICEの国際的プレゼンスの確立を促進した。
- 2) IMEKO, IFACについては各委員会を中心に関係強化をはかった。特に、IMEKOについては、IMEKO理事会への委員出席の旅費支援を行うとともに、日本学術会議IMEKO分科会の設置に協力した。

## 2. 12 事業推進協議会

### (1) 体制作り

事業推進協議会のミッションは会員サービスの拡充と会員外に対する教育・啓発活動を行うこととし、従来からの活動を引き継ぎながら、新しい活動を企画・実施していく。グループ体制導入により、編成された事業グル

ープの体制をさらに定着化させていくとともに、過渡期の委員会においてその会務に支障がないようにバックアップを行っていく。

さらに、SICE を活性化させていくため、将来ビジョン委員会を中心に部門協議会、支部協議会、産官学連携委員会との連携を深めていく。

#### (2) 共催・協賛依頼の承認

SICE 本体への共催・協賛依頼の承認についても、産官学連携をも視野に入れて、引き続き公共性や内規との整合性を確認して審議を進める。

#### (3) JIS 原案作成委員会

密度（比重）関係 2 件の JIS 規格（JIS Z 8804（液体の密度及び比重の測定方法）、JIS Z 8807（固体の密度及び比重の測定方法））について、成果物を 3 月末に（財）日本規格協会に提出した。今後、JISC 基本技術専門委員会の審議を経て官報への公示となる（2 件の原案の審議は 2012 年 1 月 27 日に予定）。

また、前年度改正した JIS をもとに、振動式粘度計の国際標準化に向けて、国際標準化委員会に粘度計国際標準化 WG を設置した。さらに、Y50 主週間行事の一環として、9 月 13 日早稲田大学西早稲田キャンパス 57 号館において 2010 年度からの活動の包括説明会を行った。これらの JIS のユーザ関連業界中心に多数の参加者があり、最新の規格に関する教育・啓発の実を挙げる成果となった。

#### (4) 計測展 2011 TOKYO への出展

2009 年度から継続的に出展しているが、今年度は、Y50 事業の一環として、産業界と連携の強化について、計測・制御・システム業界からの来場者への新しい SICE の姿としての訴求を行った。

### 2. 13 産官学連携委員会

現行の自動車技術会連携 WG、鉄鋼協会連携 WG の活動を継続させるとともに、業界団体との部分的な連携実績の積上げを目指して支部組織を活用した連携の実現を試行する。

#### (1) 自動車技術会連携 WG

SICE&JSAE 合同研究会は、東日本大震災と福島第一原発事故の影響で 3 月から 8 月までの研究会活動はできなかったが、8 月より 2 ヶ月に 1 度のペースで再開した。

IFAC AAC (Advances in Automotive Control)2013 の日本開催を JSAE が主幹事となることで検討を進めてきたが、IFAC と JSAE の著作権ポリシーが合わず JSAE 主幹事による開催から SICE 主幹事の方向で再調整している。産学連携を促進するために、3 つのベンチマーク問題を開発し、制御理論シンポジウムと PM シンポジウムで発表した。また、自動車技術会との合同研究会で 12 月 8 日にベンチマーク問題説明会を開催した。

OMG を通した消費者機械安全に関する国際標準化は、産官学連携のテーマとしても考えられる。SICE の国際標準化委員会の消費者機械 WG、情報処理推進機構(IPA)、産業技術総合研究所との連携で進んでいる。本件は計測展 2011 TOKYO 会期中の 2011 年 11 月 18 日に産総研臨海副都心センターで開催された JIMIMA と共催した SICE 国際標準化セミナーで発表した。

#### (2) 鉄鋼協会連携 WG

SICE システム・情報部門自律分散システム部会と日本鉄鋼協会計測・制御・システム工学部会との共同企画による公開フォーラム・研究会を 2012 年 1 月開催で企画した。他にも、鉄鋼ユーザ（新日本製鉄、住友金属工業）の委員を招いて、ユーザ視点での連携を模索した。

### 2. 14 国際標準化委員会

昨年度からの活動を継続。国際標準化活動で先行する友好工業会である日本電気計測器工業会(JEMIMA)、製造科学技術センター(MSTC)および日本ロボット工業会(JARA)との連携を中心とした活動を展開し、SICE の国際標準化活動への積極的な姿勢をアピールすべく下記事業を実施した。

#### (1) 第 2 回国際標準化賞(功績賞, 奨励賞)の贈呈

2011 年 9 月 SICE Annual Conference 2011 開催時に、各賞の贈呈を実施。

功績賞：笹嶋 久((株)山武), IEC 61158 (Protocol and Service), IEC 61784 (Communication Profile) などへの貢献

奨励賞：神徳 徹雄(産業技術総合研究所), ロボット用コンポーネントモデルの仕様書(RTC-1.0), Robotic Localization Service 仕様書案などへの貢献

#### (2) SICE2011 における国際標準化に関する OS の企画

「低炭素社会に向けた国際化」と題して、工業プロセスオートメーション分野の国際標準化活動を行っている IEC/TC65 の活動、プラントの機能安全を規定した IEC61508 Edition1 といった、エネルギー効率化、低炭素社会への遷移を促進するために、その最新の状況について 5 つの講演があった。

- (3) 計測展 2011 TOKYO に併設した「工業製品・産業システムにおける、安全・安心に向けての最新動向と国際標準化活動」のセミナー開催
- (4) 国際標準化セミナー開催日に、SICE・JEMIMA 協賛で TC65 国内委員会チュートリアル (IEC TC65 国内委員会 主催) の実施
- (5) 消費者機械 WG から OMG への提案
- (6) 制御システムセキュリティへの発起人参画
- (7) 粘土計国際標準化 WG の発足

## 2. 1 5 学会連合推進委員会

特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合(横幹連合)などと協力して学会横断的な活動を実施し、学術文化の向上発展に寄与するとともに、その成果を社会に還元することを目的として活動を行った。

2011 年度の報告は次の通りである。

- (1) 2011 年 3 月 25 日に第 1 回委員会を開催した (東日本大震災もあり、急遽、メール審議とした)。
- (2) 2011 年 4 月 25 日に山上会館にて開催された、横幹連合緊急シンポジウム「強靱な社会インフラの再構築に向けて科学技術は何をなすべきか」に出席した。
- (3) 2011 年 5 月 18 日に大阪大学吹田キャンパスにて開催された、「ISCIE-SICE 連携 pj 企画運営会議」(第 1 回) に出席した。
- (4) 2011 年 9 月 13 日に早稲田大学西早稲田キャンパスにて開催された、「JIS 改正の報告会」に出席した。
- (5) 2011 年 9 月 14-15 日に、SICE2011 における横幹-SICE 合同企画 OS (寺野先生、高玉先生) である TraFST-SICE Joint OS “Social simulation as Transdisciplinary research” を企画・実施した。
- (6) 2011 年 10 月 7 日に京都大学桂キャンパスにて開催された、「(続) プロセス塾」(北森塾長、奥津主査) に出席した。
- (7) 2011 年 10 月 7 日に京都大学桂キャンパスにて、「ISCIE-SICE 連携 pj 企画運営会議」(第 2 回) を開催した。
- (8) 2011 年 11 月 16-18 日に東京ビッグサイト (東 4 ホール) にて、「計測展 2011」(JEMIMA 主催) において、本会および横幹連合の出席を行った。
- (9) 2011 年 11 月 19-20 日に豊橋技術科学大学において「自動制御連合講演会」(本学会主催：寺嶋実行委員長) を実施し、成功裏に終了した。
- (10) 2011 年 11 月 19 日に自動制御連合講演会会場にて、「自動制御の他分野応用小委員会」(小林委員長) にオブザーバとして参加した (電気学会の共催学会への昇格問題の報告を行った)。
- (11) 2011 年 11 月 20 日にホテル日航豊橋にて、ISCIE-SICE 連携の会長、副会長懇談会を受けて開催された、「ISCIE-SICE 連携 pj ステアリング会議」(第 2 回) に出席した。
- (12) 2011 年 11 月 28 日に北陸先端科学技術大学院大学にて開催された、「横幹連合コンファレンス」において本学会企画の OS 「人と機械の連携～レーダ/自動車技術を中心として」を実施した。

上記(11)の「ISCIE-SICE 連携 pj ステアリング・企画運営委員会」において、本年度初頭の学会会長名の申し合わせの取り交わしから始まる第 1 フェーズでの連携を統括するとともに、第 2 フェーズでの連携に関して、「ISCIE-SICE チュートリアル講座」および「SICE 関西支部の若手研究発表会」などの事業における相互協力とともに、計測制御システムの価値を表現するためのアンケート実施計画、更なる連携のためのアクションプラン等について検討を行っている。

なお、横幹連合との連携では、2011 年 5 月号から横幹連合の月報を、本会役員・直轄委員会、支部長、部門長に配信することにした。

## 2. 1 6 教育・認定委員会

### (1) CPD-WG

- 1) 本年度の CPD ポイント登録者数は 117 名であった。学会規程に従い 50 点以上獲得の正会員、学生会員に対し、年会費還元特典の付与を決定 (対象者 29 名)、さらに、高ポイント得点者の上位 3 名を 9/15 の「SICE Annual Conference/(於)早稲田大学」に合わせて表彰した。
- 2) 2011 年 8 月 3 日の理事会で学会モデルシステムの本年末での利用中止が決定されたが、2013 年以降に予定されている新システム移行に際し、従来、SICE:事務局、教育・認定委員会で使用して来た「CPD ポイント集計システム」機能の復旧を IT 委員会に要望の形で申し入れた (11/11)。

①Annual Conference, 制御部門大会からの発生ポイントの自動集計機能。



②学会員のシステム上でのポイント申請機能。

同時に、CPD-WGで以前より議論されていた下記機能の希望も伝えた。実現できればSICE学会員への利便性、サービスのより向上につながると考える。

③SICE論文集からの発生ポイントの自動集計機能。

④他の学会行事への参加に伴う発生ポイントの自動集計機能。

尚、過渡期となる来年2012年のCPDポイント集計は従前のように、会員からの用紙でのポイント申請と事務局の手作業で集計を行って行く必要がある。

(2) 計測制御エンジニア試験・認定WG

- 1) 「計測制御エンジニア認定試験」を2011年10/21, 22に東京(三鷹/横河電機)で実施、合格者は計15名であった。
- 2) 東京以外での試験は、2011年9月14日に北海道地区(東京/早稲田大学のSICE Annual Conference会場)で合格者:1名、11月12日に中部地区(名古屋大学)で合格者:計27名、12/26に北海道地区(北海道大学)で合格者:計6名であった。なお、中部地区での実施は中部支部主導で行い、就職を控えた大学院生を対象に試験と教育的効果を狙った講義をセットで行う初級計測制御エンジニア向けの試験形態とし、同時に資格取得を通じて就職活動に伴うSICEの社会的認知度向上も狙った。また初となる北海道地区での実施は北海道支部主催で行われ、試験前日に計測制御エンジニアを講師に実践的話題を紹介するオープンセミナーを開催、多くの学生と企業からの参加があり、SICEおよび計測制御エンジニア資格のPRを含め盛況裡に行われ、会員・学生会員増を目指し来年度の開催も予定する。  
最終的に本年度の新合格者は、初級計測制御エンジニア34名、計測制御エンジニア補34名(2010年「続プロセス塾」修了生)、計測制御エンジニア10名、推薦認定の計測制御エンジニア5名、合計80名であった。
- 3) 計測制御エンジニアの登録制度の簡素化を目的に、2011年1月1日から登録計測制御エンジニアの呼称を無くし、年度毎の登録更新制度を廃止、資格認定試験の「合格判定」後、1回の認定登録手続きとする規定の大幅変更を行うと共に、試験合格者に対しては「計測制御エンジニア会(産業応用部門)」への同時入会を誘導、非会員には学会に入会してもらう動機付けとする流れを作った。その後、本年後半には支部開催の計測制御エンジニア資格試験の実施回数が増え、事務局側の管理作業が煩雑化してきたため、前記「認定登録」の手続きもスキップし、計測制御エンジニア資格認定試験の合格判定をもって自動的に「計測制御エンジニア」として「認定」し、認定証書を授与する形に規定を追変更した。これにより、計測制御エンジニア資格試験合格者に「認定証書」を早く届けることが可能となる上に、事務局側作業の効率化にも繋がる。
- 4) 認知度向上を目的に、第54回自動制御連合講演会(豊橋技術科学大学)において、11月20日に計測制御エンジニア会の協力を得てオーガナイズドセッションを実施、計測制御エンジニアの取組み内容の相互発表と交流の場を作ると共に認定試験の広報活動も行った。

(3) 日本工学会 CPD 協議会対応WG

2010年5月に新発足した日本工学会が主催する科学技術人材育成コンソーシアムは、理事会承認(2010年6/2)を得て教育・認定委員会から仮参加して来たが、2011年1/22開催の第1回総会において本コンソーシアムへの参加に対し年会費制度の規定(正会員:3万円)が採択された。本活動への参加は、今後のSICEでの人材育成活動、並びに、技術者継続能力開発の情報源として有益と判断されたため、2011年2/22の理事会の承認を得て正会員として年会費の支払いを済ませた。継続して同協議会、同コンソーシアムに出席、各学会の教育体制について意見交換を行ないながら関連情報を収集している。

(4) JABEE-WG

SICE 関連分野での受審に不利にならないよう、「日本機械学会」および「電気学会」からの連絡を密に、かつ円滑に行うため、各学会担当窓口の体制を継続している。

(5) 人材育成塾 WG (SICE 続プロセス塾)

SICEによる人材育成を継続していくため、SICE プロセス塾(2006年度~2007年度)の続編として2010年10月22日に再開校した「SICE 続プロセス塾」は、SICE プロセス塾の講師陣、資産、成果を活かす形で、同じく3年間計画の基、計100名のプロセス・エンジニアの育成を目指し再スタートした。

再開初年度の「SICE 続プロセス塾」では従来の講座内容に計測分野を新たに取り入れ、計測から制御まで講義内容に一貫性を持たせると共に、化学プロセス分野以外に鉄鋼プロセス分野も取り込む計画で進めた。途中、東日本大震災によるスクーリング延期もあったが2011年5月20日に好評裡に終了、34名の塾生が卒業した。

2年目の「SICE 続プロセス塾」は受講料を10万円から12万円に値上げし、2011年6月2日に開校、31名の塾生が入塾した。SICE50周年の記念行事の1つとなることも念頭に置き、「調節弁技術」、「プロセスにおける電動機制御」の新2講座、受講生から評判が高い実地見聞を行う工場見学を2回組み入れた(東京ガス/根岸工場、神戸製鋼所/加古川製鉄所)。現在までに計4回のスクーリングを終了、継続中で来年3月9,10日の最終スクーリング(5回目)と修了式を残す所となったが、熱心な講師陣と受講生との間にインタラクティブで非常に良好な関係が築かれている。

また最終年度となる2012年度の3年目:「SICE 続プロセス塾」の講義内容、スケジュールについても12月に決定を終えた。最終年度は受講生35名以上を確保し当初目標の育成塾生100名の達成を目指す。



## 2. 17 Annual Conference(AC)委員会

### (1) SICE2011

2011年9月13日(火)~17日(土), 早稲田大学西早稲田キャンパスにて, 菅野重樹実行委員長(早稲田大学), 三平満司プログラム委員長(東京工業大学)の下, SICE50周年記念事業(Y50)と連携して開催した。今回は, 3月の東日本大震災の影響を受け, 海外からの投稿を中心に, 全体の論文投稿数が減少したが, 最終的に12ヵ国から675編の論文投稿があり, 33名のTrack Chairによる査読プロセスを経て, 586件の論文発表が行われた。4件のInvited Plenary Talk, 2件のTutorial/Workshop, 105件のTechnical Session(41件のOrganized SessionとSICE50周年記念事業関連のSpecial Sessionを含む)が実施され, ワークショップやSICE Week 2011公開イベント, SICE50周年記念事業関連を含めた参加者総数は, 約1,000名であった。

### (2) 今後のSICE Annual Conferenceについて

- ・SICE2012は, 2012年8月20日(火)~23日(木)に, 秋田大学にて, 井上浩実行委員長(秋田大学), 曾根秀昭プログラム委員長(東北大学)の下, 開催の予定。
- ・SICE2013は, 名古屋大学で開催の予定。
- ・SICE2014の開催地を北海道大学に決定した。
- ・SICE2015の開催地について検討した。SICE2015は海外開催の予定であり, 候補となっている開催地に詳しい先生方等からの情報収集を行い, 過去の海外開催において生じた問題とその対応策も含め, AC委員会内で検討を行っている。
- ・今後のAnnual Conferenceのあり方について, AC委員会内のみならず, 拡大AC委員会や拡大理事会等でもご意見を伺い, 議論を行った。

## 2. 18 会員・広報委員会

会員・広報委員会の活動もこの数年順調に進展してきており, 昨年度はY50関連広報活動およびSICEのホームページの10年ぶりの全面リニューアルなどで大きな成果があった。以下, つのワーキンググループ(WG)ごとに報告する。

### (1) 会員WG

会員退会の抑制および新規会員確保を目的とし, 昨年度, 退会者の属性分析を行った結果, 1)若手会員, 2)40代の会員の退会が多いことが明らかとなった。1)は学生会員が就職した際にそれを機に退会する可能性, 2)は管理職になる段階で研究の第一線から外れるため退会する可能性があるという仮説をたてた。このうち, 今年度は, 1)の若手会員の退会抑制および会員確保に着目し活動を行った。

具体的な策とし, 若手社員向けに計測分野の講演会を開催した。2011年7月20日(水)14:00~16:50および2011年9月12日(月)14:00~16:50に早稲田大学西早稲田キャンパス62号館1階中会議室にて, 東京工業大学教授 香川利春氏, 日本電気計測器工業会 若狭 裕氏, 株式会社山武 奥津良之氏を招聘しご講演いただいた。それぞれ30名強の参加者があり, 大変好評であった。

来年度に向け, 若手社員, 中堅社員の興味を保つため, 産学連携強化を学会主導で行う策(例えば, 計測展において学会ブースから産学連携の例を展示など)を検討中である。

### (2) 広報WG

50周年記念事業報道発表をはじめ, 以下の活動を行った; 1)日刊工業新聞の9月7~9日に「計測自動制御学会創立50周年」として3回連載記事掲載, 2)50周年式典当日に石川会長が記者会見を実施(9月15日早稲田大学井深ホール), 記者会見の結果は8紙に掲載された(日刊工業新聞, 日本計量新報(週刊), オーム社「OHM」(月間), 化学工業日報, 日刊建設産業新聞社, 電気新聞, オートメレビュー, 日経産業新聞), 3)10月27日に日刊工業新聞に4ページでSICE50周年特集記事を掲載(数社の会員企業より広告出稿をいただく), 4)日刊工業新聞特集記事の抜き刷りの活用(計測展SICEブース, 会長特別講演, 会誌11月号に同梱)。

来年度は引き続きSICEのプレゼンスをアピールすべく報道活動の計画を練っている。

### (3) Web WG

今年度は, 昨年度の50周年記念サイトに引き続き, SICE本体のWebの改良を行った。

2011年1月から3月に仕様検討, 2011年4月から5月に開発委託業者選定, 2011年6月から8月に開発を行い, 2011年9月の50周年記念事業のタイミングで公開した。

今後, 部門Webに対しても, テンプレートを用意するなどにより自由度を持たせつつWebページ全体の統一感を出していく予定である。

## 2. 19 IT委員会

学会ネット社の保守体制の変更等を勘案し, 2012年度の過渡的な運営を可能とした上で, 2012年度は同社とのシステム契約の更新を行わないことを決定した(8月理事会承認)。これに伴い委員会の名称をIT委員会に変更した。

本委員会において, 今後の学会のIT・OAシステムの整備のため, 以下の4つのシステムについて, 各システム

間で必要な連携項目の洗い出しを完了し、システム候補を選定する活動を行った。

- ①イベントシステム
- ②論文査読システム
- ③会誌編集システム
- ④会員情報システム

## 2. 20 総務委員会

関連の委員会、事務局と連携し、理事会の円滑な運営を含む業務のより一層の効率化を目指す。特に、IT化への促進、50周年記念事業に向けた活動支援、学生やシニアに向けた会員サービスの向上、産業界への貢献と学会活動の参画推進などに注力した。

- (1) 各会務の引き継ぎ事項・懸案事項の整理を行い、3月中の理事担当会務および委員会の実質的引き継ぎを支援した。2010年と同様に、ほぼすべての委員会で早期の引き継ぎが実行され、具体的な活動がスタートできた。
- (2) 会長・副会長が担当した会務横断的ミッションについて協力を行った。特に、新公益法人化による新たな体制構築に関する種々の対応、今後のIT化の指針策定、50周年記念事業実施に向けた活動支援等を行った。
- (3) 財務面では、支部・部門が、新公益法人制度に対応した会計を行うように財務運営を行った。また、予算設計については、支部・部門の予算設計方式および見込みの精度向上に向けた取り組みを行った。
- (4) 会員数減少に伴う事業活動への影響、シニア会費の導入について検討を行った。SICEの将来を財政面からも考察してきた。
- (5) 事務職員の昇給、昇級、賞与などについて検討し、決定した。また、事務局員のスキルの向上と公益法人化後における業務効率向上につながる環境整備を行った。

### 2. 20. 1 制度小委員会

公益法人化にとまなない、種々の規程の整備を行った。2011年は直轄規程を重要度ならびに緊急度に応じて3段階に分類し、最も緊急度の高い第1段階について整備を行い、第2段階以降について段階的に整備する計画を立てた。第2段階以降については、事務局の高負荷などの背景で計画を延期しているが、2012年度中にはすべて完了する予定である。また、部門・支部規程については現状把握を行った。これらについても順次整備を行っていく。

### 2. 20. 2 予算小委員会

公益法人実質初年度の予算管理にあたり、新会計基準でのスムーズな会計管理と学会財務健全化を目指し、活動を行った。年度途中で論文収入の未達や会誌広告収入の不足などのリスクが顕在化し、理事会を通して会誌広告掲載の緊急のお願いを発信するなどの対策を実施した。その一方、経費執行も年度計画に対して減少が見込まれ、収支バランスとしてはほぼ計画値通りの決算見込みを維持している。しかし、近年数年間にわたる学会収入の減少による基本財産の減少傾向が継続しており、直轄、支部、部門会計全体を含めた制度改革の検討を開始する必要があると考えられる。

本年度のトピックとしては、新基準に従った決算作業の整流化を図り、4半期会計報告を目指したが、東日本大震災による業務停滞、Y50による業務増大、新会計システムの立ち上がりの遅れなどの要因により、残念ながら4半期ごとの学会全体の会計把握を行うことができなかった。現在のところ、年初予算計画に対する大きな乖離は顕在化していないが、業務効率化を目指した活動は来年度に継続する。また、会計報告が、収支計算書ではなく新書式の正味財産増減計算書によって行われるようになったため、事業ごとの実体を把握しにくくなってしまった。個々の事業の収支状況を担当業務執行理事がタイムリーに把握できるような対策が重要である。業務執行理事の責任範囲である個々の事業の収支状況を的確に把握することが重要と考える。

## 3. 部門協議会

部門は、SICEの学術・技術に関する活動の中心的存在として、各部門、部会、調査研究会が自立的あるいは相互に情報交換を行い連携して活動を活発に展開して来た。さらに加えて、一昨年度からは支部および将来ビジョン委員会と共に部門・支部グループを形成し、学会の一層の活性化を目指す体制を構築して活動して来た。学会活性化の取り組みとしては、部門と支部の連携、部門連携・活性化専門委員会(部活委)における部門横断型活動とインキュベーション活動、SICE企画委員会および将来ビジョンとの連携などがある。

以下、主要な項目ごとに報告する。

### (1) 新部門設立(ライフエンジニアリング部門)

部活委とライフサイエンス技術専門委員会における長年の活動実績と検討の結論として、ライフエンジニアリング部門の新設が提議され、部活委、部門協議会、理事会での審議を経て、Y50主週間内の9月14日をもって新部門が発足した。ライフエンジニアリング部門が対象とする領域は、ライフサイエンス分野であり、社会、家

族、個体、臓器、細胞、分子など多様なレベルに広がっている。また解析方法は、生体計測、信号処理、ハードウェアとしてのシステム解析から、脳情報処理のようなソフトウェアシステムの解析、モデリングなど、解析手法も多様であり、SICEの技術基盤であるシステム論的アプローチを駆使して、ライフエンジニアリング領域を先鋭化させることを目指す。特に、人間を含む生物を1つのシステムとして、そのメカニズムを明らかにする構成的解析手法を開発・活用する。世界的な社会の高齢化に伴う健康寿命の延伸や操作心地も含めた広い意味でのユーザインターフェースの向上など、様々な形で人間を取り巻く環境や技術の変化を体系的に捉え、QoLの向上に寄与する事を目的とする。年1回のライフエンジニアリング部門大会を始め、統合情報生物学、電気生理運動学、ユビキタスヘルスケアの各部会によるシンポジウムなどを開催し、この分野の研究者の交流や情報交換の場を提供する。

#### (2) Y50 記念行事

各部門、部会が主催するY50記念に関連する行事が多数開催された。また、Y50記念式典では新部門を含む各部門の活動を紹介するパネルを作成し、会場に展示して会員への部門活動の紹介を行った。

#### (3) 広報活動・会員サービスの充実

Y50関連の行事の他にも、各部門の活動を広く紹介するため、SSI2011やSICE2011、自動制御連合講演会などで部門や分野を越えたOSを企画・実行し、分野の連携、外部に向けてのプレゼンスの向上を図った。また、Annual Conference 2011では、SICE2007 in Takamatsuでの第1回ポスター展示(日本語)以降、3回目の英語による部門部会紹介のポスターセッションを開催し、参加者にSICEの学術・技術活動をPRするとともに、各部門、部会、調査研究会の活動について会員相互の理解を深め、活動の連携を図った。

#### (4) 部門運営

部門協議会の定例活動として、各部門の状況報告による学会活動全般の情報共有化を行った。具体的には、各部門運営委員会報告、各部会・調査研究会活動報告、行事計画・予算報告、学会賞報告とそれらの理事会への報告、部門共催・協賛などの承認およびそれらの理事会への報告、国際会議共催等の国際委員会への報告、遊休資産取り崩し申請報告・承認、などを行った。

#### (5) 部門連携・活性化専門委員会(部活委)

部活委のミッションは、新分野のインキュベーション、異分野の連携の促進、外部に向けてのプレゼンスの強化などである。この役割を果たすため、将来ビジョン委員会、産官学連携委員会、学会連合推進委員会と連携を強化して、新しい部門・部会・研究会の創出を促進した。本年度はライフエンジニアリング部門の新設が大きなミッションであった。部門制本格発足から10年目にして初の部門新設であるため、新部門設立の仕組み作り、規約の整備を行った。

#### (6) JSAE 連携専門委員会

自動車分野との連携を図るため、昨年度に設立された専門委員会である。本年度は、SICEとJSAEとの合同研究会を、SICEベンチマーク問題、非線形システムの同定、モデル予測制御によるエコドライブなどテーマで開催した。

#### (7) 先端融合システムズアプローチ創出委員会

新分野の創出の仕組みづくりのための議論を行い、従来の「問題を解決すること以外に、「問題を定義し新たなコンセプトを作る」ことをミッションとし、将来ビジョン委員会と合同で設立された委員会である。本年度はSICEの各分野から新分野の創出に関心を持つアクティブな会員を委員に加えて、委員会において活発な議論が開始された。

#### (8) 部門・支部連携

部門と支部との連携を深めるために、昨年度に引続き、部門協議会の開催を支部と合同で開催した。本年度は東北支部に調整をお願いし、支部協議会並びに東北支部運営に携わられている方々と部門協議会メンバーとで、支部の紹介、部門の紹介、地域と部門との関係、支部における運営上の問題、支部と部門とのSICE2012 in Akitaを含む連携の方法論など、多岐にわたって意見交換を行った。部門から支部に向けて、各部門および部門協議会が活動予算を有していることから、地域発(支部発)の部会あるいは調査研究会設置の提案を歓迎したいとの要請を行った。

### 3. 1 計測部門

当部門は、社会の安全・安心に資する基盤技術である計測技術の開発、進歩、普及に寄与するための活動を継続して行うとともに、新しい技術を用いた計測手法の開発や新たな計測分野の開拓に関して専門的な活動を行うことを目標に、以下の事業を展開した。

#### (1) 研究活動の場と情報の提供

第28回センシングフォーラム(計測部門大会)、傘下の部会・調査研究活動(共催・協賛行事、講習会、研究会、見学会、見学会など)を実施した。今年度のセンシングフォーラムでは、計測自動制御学会論文集2012年12月号特集号「センシングフロンティア」を企画して、積極的な論文投稿を奨励することにより、参加者をはじめと

する計測分野の研究者・技術者の活性化を図った。また、同論文集 2011 年 10 月号特集号「センシングイノベーション」では、総計 14 件の投稿があり、計測分野の研究が多岐にわたって発展していることが示された。

#### (2) 部門および部会・調査研究会の活性化への取組み

アンビエント調査研究会の活動を発展させ、「アンビエントセンシング応用部会」が新たに発足した。また「計測における逆問題調査研究会」の設置申請にこぎ着けることができた。さらに SICE2011 では、各部会および調査研究会より OS を提案し、活性化を実現した。

#### (3) 部門運営に関するトピックス

昨年度に引き続き、センシングフォーラム運営委員会と論文集委員会の計測部門が連携して、論文集における部門の活性化を企画した。

### 3. 2 制御部門

制御部門では、制御理論部会と制御技術部会を 2 つの主軸として活動を続けてきたが、第 3 の軸としてプラントモデリング部会が 2009 年度に設立された。今年度は、これら 3 つの部会を中心として、学会の内外に情報を発信するとともに、研究者、技術者、学生などの部門の構成員に対して、魅力ある活動を展開した。具体的には以下の通りである。

#### (1) 研究活動の場と情報の提供

制御部門大会、部会・調査研究会が企画運営する 4 つのシンポジウム（第 11 回適応学習制御シンポジウム、第 2 回プラントモデリングシンポジウム、第 28 回誘導制御シンポジウム、第 40 回制御理論シンポジウム）、数回のセミナー、その他部会・調査研究会が主催する研究会、ワークショップを開催して、制御部門の研究者、企業関係者、学生が活発に議論をできる場を提供した。特に、3 月に琉球大学で行った制御部門大会は東日本大震災直後であったため、一時は開催が危ぶまれたが、例年と同じように若手研究者をはじめとして数多くの制御研究者、技術者などが参集した。また、制御技術部会では途絶えていたシンポジウムをフォーラムの名称で復活させた。

#### (2) 制御部門の将来計画

会員数の減少とともに、現状の制御部門の活動を維持することが難しくなりつつある事態を鑑み、部門の構成員に対するサービスのあるべき姿を議論し、部門大会やシンポジウムのあり方、各部会の目指す方向性、部門の活動を効率的に行うための組織見直しなどの議論を開始した。

#### (3) 広報活動の充実

制御部門 HP の一層の充実と、Web システムの効率的な活用に関する議論を行い、可能なものから実行に移している。部門の構成員に対する情報提供、サービス提供を充実させるため、部門としてのメーリングリストを構築し、運用を開始した。

#### (4) 部門賞

パイオニア賞 1 名、パイオニア技術賞 1 名、制御部門大会賞 1 件、制御部門大会技術賞 2 件（今年度新設）、研究奨励賞 5 名を贈呈した。

#### (5) 対外連携の強化

1) SICE 内では他部門との連携を強化し、情報の共有による活性化を進めた。

2) 国際会議誘致のバックアップを積極的に行い、IFAC Symposium on Advances in Automotive Control 2013 への協力を進めている。

### 3. 3 システム・情報部門

当部門は、主に、基礎理論から工学的実システム、さらには社会経済システム、生命システムなど多様な広がりを持つシステム・情報分野の研究者、技術者、学生を主な対象として、SICE の会員にとって魅力ある活動を展開することを目標に、以下の事業を展開した。

#### (1) 研究活動の場と情報の提供

システム・情報部門学術講演会 (SSI2011)、ならびに傘下の部会・調査研究会の活動(共催・協賛行事、シンポジウム、研究会、サマースクール)を実施した。なお東日本大震災の影響もあり、一部の活動は中止、あるいは Web 上でのプレゼンテーションなどで振り替えた。

#### (2) 部門および部会・調査研究会の活性化への取組み

部門学術講演会 (SSI2011) では、SICE の将来を担う若手の育成を目的として昨年引き続き博士課程コースの学生だけのセッションを実施した。また SICE2011 で多数の Organized Session を企画し、システム・情報分野における国際化に大きな役割を果たした。また若手・学生向けの創発システムシンポジウムなどを通じて部門の将来を担う若手の育成にも注力した。また、システム工学部会での活動実績に基づき「社会システム部会」を 2012 年度から新設することとなった。調査研究会については関係論的システム科学調査研究会が設置され研究会などの活動を開始するとともに、先端ナチュラコンピューティングとその応用調査研究会については 1 年間活動を延

長することとした。

### (3) 部門運営に関するトピックス

本部門は独自にシンポジウムを実施する部会も複数存在するなど、部会、調査研究会が自律分散的・ボトムアップ的に活動を行っていることが特徴であるが、部門として共通の課題に取り組み、部会・調査研究会の活動を支援・補完する体制を構築してきており、将来構想委員会、企画・事業委員会など常設委員会がこの任に当たるとともに、部門ホームページや部門賞のあり方を検討するためのタスクフォースを設けて活動を行っている。さらに本年度から、部門学術講演会の幹事部会を活動の拡充と前年度からの引継ぎの円滑化を意図してローカルアレンジを担当する部会とプログラムを担当する部会の2部会体制とした。

## 3.4 システムインテグレーション部門 (SI部門)

複雑化するシステムに対処するためには、分野の垣根を超えた人と人との結びつきによる知の統合が不可欠である。産業界や社会全体との連携を深める仕組み作り積極的に取り組み、SICEの会員にとって魅力ある活動を展開することを目標に事業を展開した。

### (1) 部会・調査研究会活動の活性化

部門に所属する20部会と4調査研究会はそれぞれ独自性を持ちつつ、シンポジウム、研究会、見学会、コンテストなどの多様な企画を実施し、1年を通じて闊達な活動を展開した。

各部会・調査研究会の活動を展開する場として、オーガナイズドセッションをベースとした部門講演会を開催している。2010年12月には東北大学の川内キャンパスにて開催された1,011名が参加した2010年度部門大会(SI2010)(2011年度予算計上事業)に引き続き、2011年12月には京都大学の吉田キャンパスにて、2011年度部門大会(SI2011)(2012年度予算計上事業)を参加者1,230名を得て盛況に開催した。

インテリジェントビークル調査研究会の活動を調査活動を総括するために、1年延長するとともに、新たな課題に挑戦するために、スワームロボティクス調査研究会(2011年1月から)と、電力消費とライフスタイル変革技術調査研究会(2011年7月から)とをそれぞれ設立した。

### (2) 連携推進

部門大会と連携した企画として、2011年12月には京都大学の吉田キャンパスにて、IEEEとの共催でシステムインテグレーションをテーマとした国際会議SI International 2011(SII2011)を開催し、336名の参加者があり盛況であった。この他、3月に指宿で開催されたロボティクスシンポジウム、10月にサンフランシスコで開催されたIROS2011を共催するなど他学会との連携を進めた。

### (3) 優れた成果や人材の見える化

昨年に引き続き、部門賞の選考にあたりSICE会員に限らずに顕著な成果を挙げている業績を積極的に推薦して、システムインテグレーション分野の人材や技術の見える化を進めるとともに、会員勧誘に結びつけた。

### (4) リアルタイムな情報発信

従来の運営委員会資料の電子化によるペーパーレス化を継続するとともに、情報インフラの整備として新しい部門ホームページを立ち上げ、Googleカレンダーを活用した部門行事カレンダーを整備するなど、情報共有を進めた。今後、各部会・調査研究会の最新情報を常にアップデート出来る体制の構築が課題となっている。

## 3.5 産業応用部門

産業応用部門は、「実践が理論を超える、技術を生み、技術を役立て、技術を評価する産業応用部門」をキャッチフレーズに、計装技術交流部会、流体計測制御部会、計測・制御ネットワーク部会の3部会と計測制御エンジニア会を中心として、シンポジウム・講習会などの開催、部門表彰、各大会への協力などを実施し、学会および産業界での活動を行った。

## 3.6 ライフエンジニアリング部門 (LE部門)

ライフエンジニアリング部門は、生体の巧妙な仕組みの解明しその成果を医療・福祉・健康分野へ応用することを目的に、Y50主週間の9月14日をもって正式に発足した。ゴールは、ライフサイエンス分野におけるSICEの“顔”として、“システム力”を駆使して、社会、個体、臓器、細胞、分子の広いレベルにおいてヒト研究を先鋭化させる受け皿として機能させようとするものである。本部門は、統合情報生物工学部会、電気生理運動学部会、ユビキタスヘルスケア部会の3部会からなる。2011年9月には、The 8th International Conference on Ubiquitous Healthcareにおいて、本部門を紹介する記念講演を行った。この国際会議は、次年度以降ユビキタスヘルスケア部会の主要行事となるものである。さらに、次年度のライフエンジニアリング部門シンポジウムを始め、各部会によるシンポジウム・研究会・見学会の準備を行った。

## 4. 将来ビジョン委員会

将来ビジョン委員会は、5月25日、12月7日と2回開催した。

今年度は、東日本大震災の影響もあり、委員会開催が滞る状態であったが、昨年より活動を開始した SICE-City 委員会（生きがい都市構築委員会と並立）活動が森委員を中心に活発に行われた。

また、先端融合システムズアプローチ創出委員会も黒江委員により準備され、初会合を実施した。

現在の6名の委員はそれぞれ忙しく、かつ複数の委員会活動を実施している為、会議開催調整にも手間がかかっており、2012年度はネットミーティング等の方法を試して意見交換を出きる様に工夫して委員会を継続運営する。

#### 4. 1 SICE-City 委員会活動

2011年度は、以下の通り多くの活動を計画・実施した。

- ・首都大 SD 学部客員研究員 10名就任
- ・東京都との施策に積極的に絡む活動として  
「都市科学連携機構主催の第3回施策提案発表会」に4テーマ発表  
7月19日(火) 20日(水) 東京都庁第一本庁舎 第二本庁舎
- ・研究環のホームページ企画・作成  
研究環ホームページ用記事募集  
メンバーの活動内容紹介の原稿募集  
ホームページ骨格作成済み これから中身を入れ込む
- ・第4回横幹連合カンファレンスの企画セッション提案  
研究者交流サロン Pre 企画提案・開催  
「生きがいのある都市構築～やすらぎを求める～」  
9月28日(水) 首都大学東京(南大沢キャンパス)
- ・生きがいのある都市構築シンポジウム 企画・開催  
10月19日(水) 首都大学東京(日野キャンパス)

なお、合宿勉強会は次年度に持ち越した。

#### 4. 2 先端融合システムズアプローチ創出委員会

黒江委員より将来ビジョン委員会と部門活性化委員会連携のもと、「先端融合システムズアプローチ創出委員会」の提案があり、12月12日に委員会メンバー候補18名が参加し第1回委員会を実施した。

具体的にはWG活動をいくつかテーマごとに決めて次年度活動をする事を決めた。委員長は黒江委員を全委員一致で選任した。

#### 5. 支部協議会

全国8支部における活動の活性化と新機軸の創出は、SICEの学会としての魅力の向上、新たな価値の創出、さらには会員数の増加などを実現するうえで極めて重要である。そこで、以下の項目について積極的な取り組みを行った。

- (1) 支部主催・共催事業の積極的な推進(支部講演会、講習会、見学会など各種事業の積極的な実施)
- (2) 新法人における支部運営の確立(新法人における新たな支部運営の定着と事業活動の活性化)
- (3) SICE Annual Conference (AC) 開催の支援(AC委員会を中心とした各種企画への協力)
- (4) 部門・支部の連携強化(部門協議会と支部協議会の合同会議の開催、具体的な連携策の検討)
- (5) 教育・認定委員会との連携強化(計測制御エンジニア資格認定試験の積極的な実施)
- (6) 支部におけるSICE 50周年(Y50)記念事業の推進(2011年を中心に前後1年間の2010~2012年)
- (7) 各種インセンティブプランの推進(会員数増加を目的としたユニークなイベントや施策を実施)
- (8) 支部からの情報発信(会誌等を活用した情報発信を含む具体策の検討)

また、これまで3回の支部協議会および1回の部門支部合同会議が開催され、以下のような積極的な議論がなされた。

##### 1) 第1回支部協議会(日時:2011年4月19日(火)14:00~17:00, 場所:計測自動制御学会会議室)

①理事会報告, ②支部における計測制御エンジニア認定試験の積極的な実施, ③各支部からの活動報告(昨年度および本年度の報告), ④SICE全体, 支部協議会および支部共通部の運営・支援方針の徹底, ⑤インセンティブプランの積極的な実施, ⑥支部・部門の連携強化, ⑦SICE50周年記念事業支部企画の推進などについて議論された。

##### 2) 第2回支部協議会(日時:2011年9月13日(火)11:30~13:00, 場所:早稲田大学西早稲田キャンパス55号館S棟2階第4会議室)

①各支部からの活動報告(インセンティブプランの実施状況・計画を含めた中間報告), ②次年度に向けたインセンティブプランの強化, ③会誌編集(支部だより等)への積極的な協力, ④2011年度決算および2012年度予算策定計画, ⑤支部・部門における外部との契約の実施方針などについて議論された。

- 3) 第3回支部協議会(日時:2011年11月21日(月)12:30~14:00,場所:ホテル日航豊橋 松の間)  
①各支部からの活動報告(インセンティブプランの実施状況および計測制御エンジニア試験実施状況),②  
会誌編集への協力に関する調査,③支部・部門の連携強化,④支部活動の活性化,⑤2011年度決算見込み  
などについて議論された。
- 4) 支部一部門合同会議(日時:2011年11月1日(水)13:00~17:00,場所:東北大学片平キャンパス GCOE  
棟3階セミナー室)  
①部門協議会活動紹介,②支部協議会活動紹介,③東日本大震災の状況報告,④東北支部活動紹介,⑤支部・  
部門連携強化に向けた各種施策などについて議論された。

## 5. 1 北海道支部

北海道地域の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者,技術者,学生を主な対象として,地域の会員など  
にとって魅力ある活動を目指し,以下の事業を展開した。

### (1) 研究活動の場と情報の提供

北海道支部学術講演会を中心として,講演会,講習会,ロボットトライアスロンへの協賛などを実施した。また,  
総会や Web,メーリングリストを通して支部における活動の情報提供を行った。

### (2) 会員増への取り組み

今年度は計測制御エンジニア試験の実施を企画・開催するとともに,試験の実施に併せて計測制御エンジニア  
セミナーを開催し,SICE の魅力を伝えるとともに入会を促す取り組みを行った。

### (3) 支部運営および事業企画・検討

支部会議,顧問会議,支部運営委員会を開催し,またメールで密接に連絡を取り合うことにより,支部の諸活  
動の立案,実施した。

## 5. 2 東北支部

東北地域の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者,技術者,学生を主な対象として,地域の会員などに  
とって魅力ある活動を目指し,東北各県における研究集会の開催,競技会の共催のほか,Web を通して支部にお  
ける活動の情報提供を行った。震災の影響により,予定していた5月研究集会は休会せざるを得なかったが,残  
り7回の研究集会等その他の事業については当初予定通り実施できた。また,支部会議・専門委員会を開催し,  
支部の諸活動の立案・実施にあたり,これまでの活動内容の検討などを行った。

## 5. 3 中部支部

中部地区の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者,技術者,学生を主な対象として,地域の会員等にと  
って魅力ある活動を目指し,以下の事業を展開した。

### (1) 研究活動の場と情報の提供

特別講演会,研究会,講義会,学術講演会,などを実施。また,総会や Web を通して支部における活動の情報  
提供を行った。

### (2) 会員増加への取り組み

今年度は「計測制御エンジニア認定事業」として「会員増をねらった計測制御エンジニア講習会・認定試験の  
実施」を企画し,11月12日に開催した。中部地区で27名の学生会員の増加見込みである。

また,賛助会員の利便性を高めるため,従来企業内の代表者1名の方に中部支部主催事業のお知らせをしてい  
たが,これを改め,登録者全員に事業の案内を送付することとした。これにより,より適切な情報がより適切な人  
員にダイレクトに伝わることになり,会員企業にも好評であった。

### (3) 支部運営および事業企画・検討

支部会議,顧問会議,支部運営委員会を開催し,支部の諸活動の立案・実施にあたり,これまでの活  
動内容の検討などを行った。

## 5. 4 北陸支部

北陸地域の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者,技術者,学生を主な対象として,地域の会員等にと  
って魅力ある活動を目指し,以下の事業を展開した。

### (1) 研究活動の場と情報の提供

特別講演会,学術講演会,講演会(地区主催)などを実施した。また,Web, E-mail を通して支部における活  
動の情報提供を行った。

### (2) 会員増加への取り組み

講演会の開催において,学生が興味を抱くテーマ選択,参加への積極的な呼びかけ,十分な質疑応答時間の設  
定を行い,SICE の魅力を伝える場を提供した。また,若手研究者の研究奨励の一環として,SICE Annual



Conference 発表者への奨励制度を実施した。

(3) インセンティブプランの実施 (学会参加費補助キャンペーンの実施)

インセンティブプランの補助を受け、新規に学生会員に入会した者が SICE 関連行事に参加する場合にかかる経費を補助する「学会参加費補助キャンペーン」を実施し、学生会員の増加をはかった。

(4) 15 周年記念講演会の実施 (Y50 記念事業)

本年、北陸支部が創立 15 周年であることにかんがみ、産学交流の場と地域への貢献という点をねらいとして、12 月 2 日に 4 件の特別講演を企画した。

(5) 支部運営および事業企画・検討

支部会議・顧問委員会、支部運営委員会を開催し、支部の諸活動の立案・実施にあたりとともに、これまでの活動内容の検討などを行った。

## 5. 5 関西支部

関西地域の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者、技術者、学生を主な対象として、地域の会員等にとって魅力ある活動を目指し、以下の事業を展開した。

(1) 研究活動の場と情報の提供

若手研究発表会、講習会、見学会、および特別講演会を実施した。また、Web、E-mail を通して支部における活動の情報提供を行った。Y50 記念事業として、「ICT を操る次世代システム制御技術・理論研究会」を設置し、4 回の研究会を開催した。また、支部長賞の審査を行い、奨励賞、技術賞を合わせて 3 組を表彰した。

(2) 会員増加への取り組み

インセンティブプランとして、見学会「低炭素社会の実現を目指すメカトロニクス・エネルギー・物流の最前線」において、学生の参加費補助を行い、6 名の学生から入会の希望があった。

(3) 運営および事業企画・検討

支部会議、運営委員会を開催し、支部の諸活動の立案・実施にあたりとともに、これまでの活動内容の検討などを行った。支部の事務アルバイトの退職に伴い、事務局を閉鎖し、4 役による運営の効率化、経費の削減を行った。特に、メールによる議事の審査に関する内規を設定し、迅速に議事の審査が可能となった。また、システム制御情報学会との連携について検討した。

## 5. 6 中国支部

中国地域の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者、技術者、学生を主な対象として、地域の会員等にとって魅力ある活動を目指し、以下の事業を展開した。

(1) 研究活動の場と情報の提供

特別講演会、グループ研究会、講演会 (チュートリアル講演会含む)、学術講演会、見学会を実施した。また、E-mail や Web を通して支部における活動の情報提供を行った。

(2) 会員増加への取り組み

支部賞の受賞資格を「学術講演会申込時に会員(申込中を含む)であること」に変更し、さらにインセンティブプランを利用して新規会員向けに「登壇記念品」制度を設けることで、学生会員 29 名 (うち、2 名は本部へ確認中) が新規に加入した。

(3) 支部運営および事業企画・検討

支部会議、支部運営委員会を開催し、支部の諸活動の立案・実施にあたりとともに、これまでの活動内容の検討などを行った。

## 5. 7 四国支部

四国地域の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者、技術者、学生を主な対象として、地域の会員などにとって魅力ある活動を目指し、以下の事業を展開した。

(1) 研究活動の場と情報の提供

今年度が第 3 回目となる支部主催の学術講演会を実施した。また企業見学会を実施した。さらに、研究会、講演会、電気関係学会四国支部連合大会、ロボットコンテストなどを実施した。また、支部会議や Web を通して支部における活動の情報提供を行った。

(2) 会員増加への取り組み

学生向けの地域人材育成のための地元工場見学バスツアーを実施した。見学を通して学生を中心とした若手研究者の啓発に重点を置くとともに、産学の連携、および事業の拡大へつなげる活動としていた。

(3) 支部運営および事業企画・検討

支部会議、運営委員会を開催し、支部の諸活動の立案・実施にあたりとともに、これまでの活動内容の検討な



どを行った。

## 5. 8 九州支部

九州・沖縄地区の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者、技術者、学生を主な対象として、地域の会員等にとって魅力ある活動为目标に、以下の事業を展開した。

### (1) 研究活動の場と情報の提供

SICE50 周年を記念して特別講演会、研究会、SICE 九州フォーラム、講義会、学術講演会、講演会、見学会などを実施した。また、支部会議や Web を通して支部における活動の情報提供を行った。特に、九州支部 40 周年記念行事を行い、支部の活性化を図った。

### (2) 会員増加への取り組み

一般会員ならびに賛助会員増加に向けて、今年度の SICE 九州フォーラムでは企業向けのテーマを設定することで、SICE の魅力を伝えた。

学生会員増加に向けて、学術講演会と同時に学生発表交流会を企画した。特に、今年度はインセンティブプランによる助成のもと、学生発表交流会の充実を図った。発表を通して学生間および一般会員との交流を深めることを目的とし、学生に気楽に参加してもらうことで、SICE の魅力を学生に伝える場を提供した。

### (3) 支部運営および事業企画・検討

支部会議、運営委員会、顧問会議、事業委員会を開催し、支部の諸活動の立案・実施にあたり、これまでの活動内容の検討や改革、新企画の発案などを行った。

## II 事業

定款第4条に定められた公益目的事業などに対応して2011年度事業報告を表形式でまとめる。

### 定款第4条に定める事業

- |                            |      |
|----------------------------|------|
| 1. 研究集会、講演会及び教育・育成のための講習会等 | 【公1】 |
| 2. 調査・研究及び資料収集             | 【公2】 |
| 3. 技術者の資格認定・付与             | 【公3】 |
| 4. 啓発・普及のための体験活動等          | 【公4】 |
| 5. 表彰及びコンクール               | 【公5】 |
| 6. その他の本会の目的を達成するための事業     | 【他】  |
| 7. 本会の法人管理・運営に関する活動        | 【法人】 |

### 1. 研究集会、講演会及び教育・育成のための講習会等

#### (1) 直轄事業

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表数	参加人数
3月24日 ～27日	2011年(平成23年)春季第58回応用物理学関係連合講演会(共催)	神奈川工科大学	—	—
5月15日 ～19日	第21回光ファイバセンサ国際会議(OFS-21)	Ottawa, Canada	—	—
5月22日 ～25日	2011 IEEE/ICME International Conference on Complx Medical Engineering(IEEE/ICME CME2011)(国際会議)	Harbin, China	—	—
6月29日 ～7月1日	The 10th International Symposium on Autonomous Decentralized System(ISADS 2011)(国際会議)	Kobe, Japan	—	—
7月6日 ～8日	第48回アイソトープ・放射線研究発表会(共催)	日本科学未来館	—	—
7月7日 ～8日	安全工学シンポジウム2011(共催)	日本学会会議講堂	—	—
7月22日 ～24日	The 30th Chinese Control Conference(CCC11)(国際会議)	Yantai, Shandong, China	—	—
9月8日 ～10日	平成23年度工学教育研究講演会(共催)	北海道大学	—	—
9月13日 ～18日	SICE Annual Conference 2011(SICE 2011) 特別講演/一般セッション/OSセッション, 創立50周年記念式典を開催	Tokyo, Japan (早稲田大学)	586	約1,000
9月17日 ～18日	SICE Week 2011	Tokyo, Japan (早稲田大学)	—	—
11月18日	「工業製品・産業システムにおける安全・安心に向けての最新動向と国際標準化活動」セミナー	産業技術総合研究所	4	52
10月19日	原子力総合シンポジウム2011(共催)	日本学会会議講堂	—	—
10月26日 ～29日	International Conference on Control, Automation and Systems 2011(ICCAS 2011)(国際会議)	KINTEX (Gyeonggi-do, KOREA)	—	—
11月19日 ～20日	第54回自動制御連合講演会(共催:幹事学会・計測自動制御学会) 特別講演/一般セッション/OSセッション	豊橋技術科学大学	467	749

11月28日 ～29日	第4回「横幹連合カンファレンス」(共催)	石川ハイテク交 流センター	132	約190
12月12日	将来ビジョン委員会ブレインストーミング 第1回 先端融合システムズアプローチ創出委員会	SICE 事務所	-	-
12月20日 ～22日	IEEE/SICE International Symposium on System Integration (SII 2011)	京都大学	-	-
<b>(2) SICE 続プロセス塾</b>				
2月4日 ～5日	SICE 続プロセス塾 2010 年度 4 回目スクーリング/愛知県北名古屋市 (タナベ研修センター)	-	-	34
5月20日	5 回目スクーリング&工場見学, 終了式/JFE スチール(株) (千葉県曾我市)			
6月2日 8月5日 ～6日 10月7日 12月9日 ～10日	SICE 続プロセス塾 2011 年度 開校式, 1 回目スクーリング/東京都文京区 (文京シビックセンター) 2 回目スクーリング/東京都三鷹市 (三鷹産業プラザ) 3 回目スクーリング/京都大学 (桂キャンパス) 4 回目スクーリング&工場見学/東芝研修センター, 東京ガス/根岸工場	-	-	31
<b>(3) 創立50周年記念事業関係</b>				
5月18日	アカデミック向け教育・研究ソリューションセミナー①	京都市	-	-
5月25日	アカデミック向け教育・研究ソリューションセミナー②	福岡市	-	-
6月1日	アカデミック向け教育・研究ソリューションセミナー③	名古屋市	-	-
6月8日	アカデミック向け教育・研究ソリューションセミナー④	東京	-	-
6月9日	山武藤沢テクノセンター体験セミナー&見学会	山武藤沢テクノ センター	-	-
6月22日	アカデミック向け教育・研究ソリューションセミナー⑤	八王子市	-	-
6月23日	アカデミック向け教育・研究ソリューションセミナー⑥	大阪市	-	-
7月12日	JFE スチール株式会社東日本製鉄所見学会	JFE スチール東 日本製鉄所	-	-
7月20日	SICE 易しい計測・制御・システム体験セミナー MATLAB 紹介セミナー (第1回)	東京	-	-
7月20日	第1回チュートリアル講演会「検出部・調節部・操作部 の現在・過去・未来」	早稲田大学	-	約30
7月22日	ARC フォーラム 2011Japan「東北大地震を契機にオー トメーションのあり方を問う」(大震災パネル第1回)	KFC ホール (東京)	-	-
7月29日	SICE 易しい計測・制御・システム体験セミナー 横河電機株式会社 体験セミナー	横河電機	-	-
9月2日	東京都水道局朝霞浄水場 見学会	朝霞浄水場	-	-
9月9日	MapleSim 体験セミナー	サイバネットシ ステム (東京)	-	-
9月12日	第2回チュートリアル講演会「検出部・調節部・操作部 の現在・過去・未来」	早稲田大学 西早稲田キャン パス	-	約30
9月13日	物理化学関連 JIS 改正の報告会: pH・粘度・密度(比重)		-	-
9月13日	パネルディスカッション「After3.11 われわれはどう行 動すべきか?」(大震災パネル第2回)		-	-
9月13日	ビジョンプロデュースプログラム発表会		-	-
9月14日	ライフエンジニアリング部門設立アナウンスメント		-	-
9月15日	Vision Produce Program		-	-
9月16日	功績賞受賞者を囲み SICE の歴史と未来を語る夕べ		-	-
9月16日	部門部会紹介ポスターセッション		-	-
9月18日	市民フォーラム 一般市民向けの技術講演および展示 &デモンストレーション「～計測・制御・システムイン テグレーションの面白さに触れる～」		-	約120

9月26日	SICE 易しい計測・制御・システム体験セミナー MATLAB 紹介セミナー (第2回)	東京	-	-
10月20日	IHI 工場見学会	IHI 瑞穂工場	-	-
10月26日	2011 計装制御技術会議パネルディスカッション「震災体験談」(大震災パネル第2回)	NNホール (東京)	-	-
11月18日	国際標準化セミナー「工業製品・産業システムにおける、安全・安心へ向けての最新動向と国際標準化活動」	産総研臨海副都心センター	4	52
11月18日	dSPASE 社モデルベース開発概要セミナー	パシフィコ横浜	-	-
11月18日 ～19日	第2回プラントモデリングシンポジウム	上智大学	-	-
11月30日	新日本製鐵君津製鐵所・技術開発本部/新日鐵エンジニアリング見学会	新日本製鐵君津製鐵所	-	-
12月13日	日産テクニカルセンター工場見学会	日産テクニカルセンター (厚木)	-	-

## (2) 部門事業

実施月日	行事・事業・会議(・委員会)など名称	開催場所	発表数	参加人数
<b>(2) 部門連携・活性化委員会</b>				
9月13日	SICE Annual Conference 2011 (SICE 2011) 部門紹介ポスターセッション	早稲田大学 西早稲田キャンパス	-	-
<b>(2) 部門連携・活性化委員会自動車技術会との連携専門委員会</b>				
6月8日	第5回モデル自動車制御研究会 自動車技術会研究専門委員会との共催	自動車技術会事務局	-	-
12月8日	自動車技術会との連携技術専門委員会の企画による公開委員会:「自動車の制御とモデリング:JSAE-SICE ベンチマーク問題」	東京神田	-	-
12月12日	第1回 先端融合システムズアプローチ創出委員会	SICE 事務所	-	-
<b>(2) ① 計測部門</b>				
1月25日	第131回温度計測部会講演会「鉄道・自動車・航空宇宙産業における温度計測」	千葉大学 けやき会館	-	-
2月4日	第85回計測自動制御学会力学量計測部会行事	横浜水道記念館, 横浜市	-	-
2月28日	第18回リモートセンシングフォーラム 部門共催行事	千葉大学けやき会館	-	-
3月3日 ～4日	DIA2011(動的画像処理実利用化ワークショップ) 部門共催行事	阿波の國 とくしま ～四国大学交流プラザ～	-	-
5月12日 ～13日	第78回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会第86回 計測自動制御学会力学量計測部会合同シンポジウム 部門共催行事	山形大学, 米沢市	-	-
7月6日	第84回パターン計測部会研究会	愛知工科大学	-	-
6月12日 ～15日	INSS2011 国際事業 運営および参加	Penghu Taiwan	-	-
7月20日 ～22日	第14回画像の認識・理解シンポジウム (MIRU2011) 部門共催行事	金沢市文化ホール	-	-

8月22日	講演会 「安全運転のための自動車制御 計測技術」	明治大学駿河台校舎	-	-
9月2日 ～3日	第16回知能メカトロニクスワークショップ 部門共催行事 (社)精密工学会 画像応用技術専門委員会との共催	高知工科大学	-	-
9月13日 ～18日	SICE Annual Conference 2011 OS OS企画 温度計測部会:1セッション6件 力学計測部会:2セッション9件 パターン計測部会:2セッション13件	早稲田大学西早稲田キャンパス	-	-
10月12日 ～13日	センサーエキスポジャパン 協力	東京ビックサイト	-	-
9月19日 ～22日	APMF 2011 国際 共催 参加	西安 中国	-	-
10月13日 ～14日	第28回センシングフォーラム計測部門大会	慶応義塾大学, 横浜市	62	90
10月15日	日本計量史学会共催 計量史をさぐる会 2011 部会共催事業	オーバル, 新宿区	-	-
10月31日	第37回リモートセンシングシンポジウム	首都大学東京南大沢キャンパス	-	-
11月4日 ～5日	第16回パターン計測シンポジウム(第85回パターン計測部会研究会)	長良川観光ホテル 石金(岐阜)	-	-
12月8日 ～9日	View2011 ビジョン技術の実利用ワークショップ	パシフィコ横浜 アネックス・ホール	-	-
<b>(2) ② 制御部門</b>				
1月24日 ～25日	第11回適応学習制御シンポジウム 特別講演:「適応ループのいくつかの構成法」大森 浩充氏(慶応義塾大学)	東京工業大学	19	-
3月7日	制御理論部会最先端ワークショップ:グリーンイノベーションが拓く制御理論応用の新潮流 講演1:「スマートグリッドと制御分野への期待」林 泰弘氏(早稲田大学) 講演2:「卸電力・燃料・排出権の市場価格変動リスク」遠藤 操氏(電力中央研究所) 講演3:「電力負荷を制御する柔軟な価格設定」松川 勇氏(武蔵大学)	京都大学東京オフィス会議室	3	-
3月16日 ～18日	第11回 計測自動制御学会 制御部門大会 特別講演:「多体力学系の運動とその制御 -宇宙機, ロボットそして生物の運動-」土屋 和雄氏(同志社大学) パイオニア賞受賞記念講演:「量子化制御:物理と情報をつなぐ新技術」東 俊一氏(京都大学) パイオニア技術賞受賞記念講演:「高速高精度なモーションコントロール -制御技術でハードウェアの限界に挑む」平田光男氏(宇都宮大学) [震災影響のため講演キャンセル]	琉球大学	197	240
5月12日 ～13日	第28回誘導制御シンポジウム 特別講演:「自動車の動特性を考慮した車線追従制御について」(山梨大学 毛利 宏氏) 特別講演:「持続可能な社会の条件と21世紀の技術」(山梨大学 鈴木 嘉彦氏)	山梨大学	22	-
9月26日 ～28日	第40回制御理論シンポジウム 特別講演:IFAC The Giorgio Quazza Medal 受賞記念講演「日本の科学技術と制御理論」(理化学研究所 木村英紀氏) 特別企画:「ラウンドテーブルディスカッション:制御工学の展望を語る」 制御技術部会共同企画:「制御をいかに継承するか -標準化と特化の視点から-」	ホテルコスモスクエア国際交流センター	87	-

10月18日 ～19日	第2回プラントモデリングシンポジウム 基調講演:「複雑系数理モデリングとその応用」(東京大学 合原一幸氏) 特別講演:「JST 研究開発戦略センターにおけるシステム科学技術およびモデリングに関する取り組み」(JST 研究開発戦略センター 本間弘一氏) 特別講演:「The Modelica Language and Technology for Cyber-Physical System Modeling and Development」(Linkoping Univ. Prof. Peter Fritzon)	上智大学	19	—
10月20日 ～21日	SICE セミナー 「実践的な制御理論 -制御への確率論的アプローチ: 基礎から応用まで-」 セミナー内容:「制御のための確率論入門」早川朋久氏, 「確率システムの状態推定入門」山北昌毅氏, 「確率密度比を用いた機械学習の新たなアプローチ」杉山 将氏	常翔学園 大阪センター	3	—
10月31日	制御理論部会最先端ワークショップ: システム科学とグリーンイノベーション 講演1:「グリーンイノベーションとシステム制御」木村 英紀氏(理化学研究所) 講演2:「新しい電力ネットワークシステムにおける需給制御の統合メカニズム」内田 健康氏(早稲田大学) 講演3:「産業界における電力・エネルギー・環境に向けた諸課題」飯野 穰氏(東芝)	京都大学東京オフィス会議室	3	—
11月16日	制御技術フォーラム 特別講演:「非線形性に挑む—幾何学的アプローチによる非線形制御—」(大阪大学 石川 将人氏)	東京工業大学	7	—
11月24日 ～25日	SICE セミナー「—ロバスト制御入門— 線型システム論の基礎から $H_{\infty}$ 制御系設計の適用法まで」 セミナー内容: ロバスト制御に関する一通りの知識と, 少なくとも実際のシステムに対する適用検討が行える程度の知識の習得 講師: 劉 康志氏(千葉大学), 平田 光男氏(宇都宮大学)	東京工業大学	2	—
<b>(2) ③ システム・情報部門</b>				
1月29日 ～30日	第23回自律分散システムシンポジウム	北海道大学	63	112
2月27日 28日	分子ロボティクス調査研究会, 合宿研究会	熱海	—	—
3月8日	生体・生理工学部会第59回講演会	玉川大学	—	120
3月10日	システム工学部会研究会「第2回社会シミュレーション&サービスシステム・シンポジウム」	東京工業大学田町キャンパス	16	—
3月16日 ～17日	第38回知能システムシンポジウム (震災のためオンライン発表として実施)	神戸大学	82	132
5月23日	分子ロボティクス調査研究会例会	名古屋大学	—	—
6月3日	離散事象システム部会第49回離散事象システム研究会	長岡技術科学大学	11	28
6月8日	マンマシンシステム部会ヒューマンシステム研究会	京都大学東京オフィス	2	12
6月24日	分子ロボティクス調査研究会例会	東京工業大学田町キャンパス	—	—
6月25日	第48回自律分散システム部会研究会	神戸大学	2	—
8月26日	分子ロボティクス調査研究会例会	東京工業大学すずかけ台キャンパス	—	—
9月3日 ～5日	第17回創発システムシンポジウム	彦根ビューホテル	24	77
9月20日 ～22日	第26回生体・生理工学シンポジウム	立命館大学	158	300
9月22日	関係論的システム科学調査研究会シンポジウム	同志社大学京田辺キャンパス	4	30

9月30日	ニューラルネットワーク部会, 第1回コンピューテーショナル・インテリジェンス研究会	京都工芸繊維大学	17	50
10月4日	分子ロボティクス調査研究会例会	東京女子医科大学	—	—
11月17日	マンマシンシステム部会研究会	筑波大学文京キャンパス	2	13
11月21日	知能工学部会研究会「賢さの先端研究会」	国立オリンピック記念青少年センター	—	18
11月21日 ～23日	システム情報部門学術講演会 2011(SSI2011)	国立オリンピック記念青少年センター	123	200
12月9日	離散事象システム部会第50回離散事象システム研究会	首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス	15	—
12月10日	先端ナチュラルコンピューティングとその応用調査研究会講演会	兵庫県立大学神戸ポートアイランド新キャンパス	4	—
12月27日	関係論的システム科学調査研究会例会	同志社大学京田辺キャンパス	4	—
<b>(2) ④ システムインテグレーション部門</b>				
1月27日 ～29日	16 <sup>th</sup> International Symposium on Artificial Life and Robots (AROB2011) (共催) 担当: 人工生命システム部会	別府	—	287
1月28日 -29日	雲仙普賢岳エリアにおける災害復旧・予防のための遠隔操作機械による施工現場見学会 担当: 活火山エリア向け遠隔ロボット技術調査研究会	雲仙普賢岳	—	10
2月20日	第6回研究成果学生発表会 担当: ロボットセラピー部会	拓殖大学		31
3月8日 ～9日	第6回力触覚の提示と計算研究会 (共催) 担当: 触覚部会	慶応義塾大学		50
3月14日 ～15日	ロボティクスシンポジウム (共催) 日本ロボット学会, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部会と共同開催。今年度はSICEが幹事学会。	指宿	—	179
3月26日	ロボット間通信と耐放射線性に関する情報交換会 担当: 活火山エリア向け遠隔ロボット技術調査研究会	東京都		18
4月18日	OMG アーリントン技術会議報告・検討会 (共催) 主催: 日本ロボット工業会 担当: RTシステムインテグレーション部会	機械振興会館	—	18
4月29日	共創セミナー・ワークショップ「未来から・身体性と共創表現」 担当: 共創システム部会	早稲田大学	—	103
5月3日 ～5日	ロボカップジャパンオープン 2011 担当: レスキュー工学部会 計測自動制御学会賞 RoboCup Rescue 実機リーグ 計測自動制御学会賞 RoboCup Rescue シミュレーションリーグ	大阪	—	25,410
6月17日	相互作用と賢さ講演会 担当: 相互作用と賢さ部会	中央大学	2	
6月24日	合同シンポジウム「現場から展望する植物工場」 主催: 日本生物環境工学会西日本支部 担当: バイオシステム部会	大阪府立大学なかもずキャンパス		124
6月26日	レスキューロボットコンテスト予選 (共催)	神戸	—	671

	担当：レスキュー工学部会			
7月1日	OMG ソルトレークシティ技術会議報告・検討会（共催）	機械振興会館	—	20
	主催：日本ロボット工業会，担当：RT システムインテグレーション部会			
7月25日	「遠隔操作・遠隔監視のための通信について」研究会	東京		31
	担当：活火山エリア向け遠隔ロボット技術調査研究会			
7月29日	オープンイノベーションPJにおける住宅モデルルーム見学会	産業技術総合研究所		58
	担当：電力消費とライフスタイル変革技術調査研究会			
8月6日 ～7日	レスキューロボットコンテスト本戦（共催）	神戸	—	6,002
	担当：レスキュー工学部会 レスキューロボットコンテスト計測自動制御学会賞			
8月5日	IEEE Robotics and Automation Society Japan Chapter 特別講演会	中央大学	—	44
	主催：IEEE Robotics and Automation Society Japan Chapter 担当：相互作用と賢さ部会，空間知部会			
8月29日 ～9月2日	RT ミドルウェアサマーキャンプ	産業技術総合研究所	—	9
	担当：RT システムインテグレーション部会			
9月25日 ～30日	IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS2011)（共催）	サンフランシスコ	—	—
	IEEE RAS, 日本ロボット学会と共催			
10月3日	研究会「次世代型遠隔エコー診断支援 RT の実用化に向けた課題」	早稲田大学	—	10
	担当：医工融合システム部会			
10月4日	OMG キシミー技術会議報告・検討会（共催）	機械振興会館	—	12
	主催：日本ロボット工業会 担当：RT システムインテグレーション部会			
10月12日 ～14日	浅間山におけるロボットの不整地走行及び無線通信による遠隔操作実験	浅間山	—	15
	担当：活火山エリア向け遠隔ロボット技術調査研究会			
10月21日	共創システムシンポジウム	東京工業大学	—	49
	担当：共創システム部会			
10月28日	触覚講習会（共催）	電気通信大学	—	80
	担当：触覚部会			
11月12日	第7回モーションメディアコンテンツコンテスト	京都工芸繊維大学	—	20
	担当：モーションメディア部会			
11月18日	第1回空間知部会研究会	秋葉原ダイビル	1	5
	担当：空間知部会			
11月19日 ～20日	ADVANTY2011 シンポジウム（共催）	同志社大学	—	45
	担当：インテリジェントビークル調査研究会			
11月25日 ～26日	第7回力触覚の提示と計算研究会（共催）	名古屋工業大学	—	34
	担当：触覚部会			
12月10日	レスキューコンテストシンポジウム	神戸	—	136
	担当：レスキュー工学部会			
12月15日	「浅間山実験の報告と今後の研究計画」研究会	東京	—	12
	担当：活火山エリア向け遠隔ロボット技術調査研究会			
12月17日	VR 工学部会秋季研究会	東京医療保険大学	—	39
	担当：VR 工学部会			
12月26日	OMG サンタクララ技術会議報告・検討会（共催）	機械振興会館	—	18
	主催：日本ロボット工業会 担当：RT システムインテグレーション部会			
12月24日	RT ミドルウェアコンテスト2011	京都大学	—	210
	担当：RT システムインテグレーション部会 計測自動制御学会RTミドルウェア賞授与			



12月20日 ～22日	2011 IEEE/SICE International Symposium on System Integration (SII2011) 会計処理の都合上、翌年度精算	京都大学	—	336
12月23日 ～25日	第12回システムインテグレーション部門講演会 (SI2011) 会計処理の都合上、翌年度精算	京都大学	—	1,230
12月23日	RTミドルウェアコンテスト2011 担当：RTシステムインテグレーション部会 計測自動制御学会RTミドルウェア賞	京都大学	15	50
12月26日	OMGサンタクララ技術会議報告・検討会（共催） 担当：安全回復システム部会	機械振興会館	—	18
12月27日	安全回復システム部会シンポジウム 担当：安全回復システム部会	産総研臨海副都心センター	5	13
<b>(2) ⑤ 産業応用部門</b>				
8月14日 ～17日	SICE Annual Conference 2011 ネット部会と流体計測部会でそれぞれOSを開催	早稲田大学	—	30
11月15日	SICE50周年(Y50)特別講演会 各部会で永年活躍された3名の講師より、これまで各部会が関係した計測制御技術の産業応用への貢献を紹介	東京工業大学	3	130
11月15日	2011年度産業応用部門大会 トピックス：部門大会は一般講演、技術交流会を行い、各部会のシンポジウムと合同で開催した。	東京工業大学	3	130
	産業システムシンポジウム テーマ：「統計的アプローチにより現場を見る！診る！見る！」と題して、下記7件の講演発表が行われた。 ・基調講演：「プロセス産業における仮想計測技術の現状と課題解決に向けた産学共同研究」加納 学氏（京都大） ・招待講演：「統計モデルによる品質推定（ソフトセンサー）を利用するメリットと問題点」渡辺雅弘氏（横河電機） ・招待講演：「三菱化学のソフトセンサーの現状と新しい状態推定法（DBモデル）に関する取り組み」森下 敏治氏（三菱化学） ・招待講演：「ポリマーの熱分解プロセスにおける製品品質推定～メンテナンスフリーソフトセンサーの実用化～」松本 卓也氏（三井化学） ・招待講演：「品質向上に向けたデータ活用」杉浦 輝伸氏（山武） ・招待講演：「ソフトセンサーモデルの予測性能および適用範囲の検証」金子 弘昌氏（東京大学） ・招待講演：「品質工学の全体と現在」立林和夫氏（統計数理研究所） 産業応用部門と制御部門との協賛による開催であり、今後さらに相互関係を深めていくこととなった。 トピックス：産業応用部門大会と併設で開催した。	東京工業大学	7	130
	計測・制御ネットワークシンポジウム テーマ：「制御系セキュリティ特集」と題して、関連する7件の講演発表が行われた。 トピックス：産業応用部門大会と併設で開催した。	東京工業大学	—	130
	第12回 流体計測制御シンポジウム 基調講演：「高効率な油圧サーボシステムを実現する新型アクチュエータ」の他、一般講演として13件の講演発表が行われた。 トピックス：産業応用部門大会と併設で開催した。	東京工業大学	14	130

## (3) 支部事業

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表数	参加人数
<b>(3) ① 北海道支部</b>				
3月1日 ～2日	第43回北海道支部学術講演会	北海道大学	42	65
1月18日	特別講演会 「ロボティックスは、少子高齢化社会に貢献できるのか？」王 碩玉氏（高知工科大学）	北海道大学	1	45
3月1日	特別講演会 「将来のロボットの進むべき方向性はどうあるべきか？」金子 真氏（大阪大学）	北海道大学	1	50
3月5日	第10回複雑系マイクロシンポジウム 協賛事業、主催：北海道エージェントスケジューリングプロジェクト	北海道大学	15	31
6月4日	特別講演会 「先端ロボット講演会：最近の手術ロボットとシミュレーター」福田 敏男氏（名古屋大学）	北海道大学	3	60
8月4日	特別講演会 「特殊作業システムへのRTの適用と次世代ロボットへの取組み」村上 弘記氏（IHI）	北海道大学	1	50
10月2日	ロボットトリアスロン 協賛事業、主催：日本機械学会	北海道工業大学	32	120
11月25日	計測制御エンジニアセミナー (1) 「鉄鋼業の発展における計測・制御の役割と、これからの若い技術者に伝えたい私の業務体験（失敗を活かして）」岩村 忠昭氏（元川崎製鉄） (2) 「抄紙機におけるBM計による測定・制御について」佐々木 尚史氏（横河電機） (3) 「工業プロセス用調節弁の流体工学」奥津 良之氏（山武） (4) 「SICE認定資格 計測制御エンジニア」淵 昌彦氏（東京ガス）	北海道大学	4	40
12月2日	講習会（オープンセミナー） 「Scilabによる制御系設計入門」川谷 亮治氏（福井大学）	北海道大学	1	8
<b>(3) ② 東北支部</b>				
1月14日	第263回研究集会（特別講演会） 特別講演「最適制御から脳科学の研究へ — 工学から脳の不思議にせまる —」北嶋 龍雄氏（山形大学）	東北大学	1	15
3月11日	第264回研究集会	東北文化学園大学	13	19
6月28日	第265回研究集会	弘前大学	17	—
7月15日	第89回システム制御研究会（共催） 「Renewable energy in Europe: Wind and solar energy, alternative fuels and future research in combustion technologies」(Czech Technical University in Prague, Jan Hrdlicka氏) 「Nonconventional neural architectures, adaptive methodology, and multi-scale analysis: challenges for biomedical engineering applications」(Czech Technical University in Prague,)	東北大学	2	—
7月20日	第266回研究集会	秋田大学	12	—
7月25日	八戸工業大学 システム情報工学科 学術講演会(共催) 「風力エネルギーの先進地・青森県（基軸電源への発展に向けて）」松坂 知行氏（八戸工業大学）	八戸工業大学	1	—
10月28日	第267回研究集会	山形大学	20	—
11月26日	第268回研究集会	日本大学	17	22
12月12日	第269回研究集会	東北学院大学	11	—
<b>(3) ③ 中部支部</b>				
主催行事				
1月22日	中部支部第42期（平成23年度）総会・特別講演会 特別講演：「バイオミメティック制御の周辺あれこれ」細江 繁幸氏（東海ゴム）	名古屋工業大学 講堂会議室	—	—

11月21日	第96回電機計測制御技術ワーキングセミナー 「アドバンスドモーションコントロールを利用した安全な車椅子の制御」 呉 世訓氏 (東京大学) 「筋電義手制御を目的とした筋電位信号高精度解析システム」 木曾 淳氏, 関 弘和氏 (千葉工業大学)	名古屋工業大学	—	—
11月25日	第1回静岡地区計測制御研究委員会講演会 「情報通信技術が切り開く未来の高度医療福祉社会」 片桐 祥雅氏 (情報通信研究機構) 「高齢社会の健康を促すロボティクス研究開発」 羅 志偉氏 (神戸大学) 「快適・健康な老後を支援する人間計測技術」 川原 靖弘氏 (放送大学) 「人にやさしい疼痛制御」 坊垣 友美氏 (愛知医科大学)	アクトシティー 浜松研修交流センター	—	—
11月26日	電機計測制御技術ワーキングセミナー 学生発表会	中部大学研修センター	—	—
11月30日	第1回組み込みシステムと制御研究委員会講演会 「最近のソフトウェア開発手法と品質向上活動: 実際の組み込みソフトウェア開発現状とソフトウェア (教育最適制御の基礎から実時間アルゴリズムと先端応用まで)」 東 俊光氏 (村田機械株式会社) 「システムの形式検証技術と制御への応用」 平石 邦彦氏 (北陸先端科学技術大学院大学)	名古屋大学 工学研究科	—	—
12月2日	光波応用技術研究会 「気液界面を利用するプラズモニクアレイの構築」 中尾 秀信氏 (物質・材料研究機構) 「近赤外光による生体組織性状計測の高度化と応用」 庭山 雅嗣氏 (静岡大学) 「低コヒーレンス動的散乱法による高濃度ナノ粒子測定と生体計測の可能性」 石井 勝弘氏 (光創成大学院大学) 「表面プラズモンセンサの高感度化に関する考察」 近藤 淳氏 (静岡大学)	静岡大学工学部	—	—
12月10日	教育工学研究会 小中学生対象のものづくり教室 ワンチップコンピュータで制御するLED装飾の製作	名城大学天白キャンパス	—	—
12月15日	平成23年度三重地区計測制御研究委員会講演会	三重大学工学部	—	—
<b>共催・協賛行事</b>				
1月21日	講習会「福祉機器の現状と将来動向」 主催学協会(日本機械学会東海支部) 「健康工学創成に向けて」 羅 志偉氏 (神戸大学) 「歩行補助ロボットの制御とリハビリテーションへの応用」 大日方 五郎氏 (名古屋大学) 「作業支援パワーアシストスーツの開発」 藤本 弘道氏 (パナソニック) 「上肢支援型起立動作補助装置の開発」 山田 宏尚氏 (岐阜大学) 「ユーザ起点の電動車いす開発」 塚田 敦史氏 (名城大学)	名城大学名駅サテライト	—	—
2月9日	平成22年度専門講習会 主催学協会(電子情報通信学会本部電子情報通信学会東海支部) 「ICT利活用による医療・介護・健康産業のイノベーション」 吉田 恭子氏 (総務省情報流通行政局) 「在宅介護サービスの今後の動向とICT利活用」 木村 隆次氏 (日本介護支援専門員協会) 「在宅医療における医薬品流通のICT利活用」 和田 茂氏 (スズケン) 「在宅医療におけるグループ診療とICT利活用」 船木 良真氏 (医療法人三つ葉) 「在宅医療・在宅介護サービスにおけるチームケアを促進する情報流通基盤」 岩田 彰氏 (名古屋工業大学)	名古屋市ローズコートホテル	—	—

3月11日	見学会	ジェイテクト 刈谷工場	—	—
	主催学協会(日本設計工学会当会支部) 工作機械に関する工場見学, および, 研削盤開発の歩みについての講演 講演: 「JTEKTにおける研削盤開発の歩み」, 見学: ジェイテクト刈谷工場			
5月20日	見学会	アイシン精機安 城工場	—	—
	主催学協会(精密工学会当会支部日本機学会東海支部) 「キレイ便座の開発」鳥居 厚男氏 (アイシン精機) 「フェムト秒ファイバーレーザーとその産業応用」上原 譲氏 (アイシン精機) 見学会: シャワートイレ製造ライン			
6月3日	講習会	名城大学名駅サ テライト	—	—
	主催学協会(日本設計工学会当会支部) 「電気自動車の時代~いつくるのか? どうなるのか?~」道木 慎二氏 (名古屋大学)			
6月3日	第147回見学会	アスモ	—	—
	主催学協会(機学会東海支部) 「自動車用小型モータにおける省エネ活動への取り組み」			
7月12日	第115回講習会	名古屋大学シン ポジオンホール	—	—
	主催学協会(機械学会東海支部) 「科学英語と技術論文 (英語で講演/質疑)」 Petros Abraha 氏 名城大学 「英語によるプレゼンテーション (英語で講演/質問は日本語可)」 Edward T.Haig 氏 名古屋大学 「技術英語の文法と基礎 (日本語で講演)」 小山 由紀江氏 名古屋工業大学			
9月2日	テクノ・フェア名大2011	名古屋大学豊田 講堂, 他	—	—
	主催学協会(名古屋大学工学研究科) 「悪魔の表面から天使の表面へ: 表面技術」齋藤 永宏氏 (グリーンモビリティ連携研究センター) 「世界を照らすLED」天野 浩氏 (名古屋大学) 研究シーズ・研究成果展示, 展示研究内容概要説明 (ミニ講演), 研究室見学			
9月12日	講習会 (全4講座中の1つめ)	名古屋大学工学 部	—	—
	主催学協会(精密工学会東海支部)『自動化技術』~ 計測からサーボ機構までの基礎を体験~			
9月13日	講習会 (全4講座中の2つめ)	アイコクアルフ ア 名古屋事務所	—	—
	主催学協会(精密工学会東海支部)『見える化・ヴァーチャル工場へのアプローチ』			
9月13日	講習会 (全4講座中の3つめ)	名古屋大学	—	—
	主催学協会(精密工学会東海支部) 『振動切削』~ 基礎的な振動切削機構から最新の超精密微細加工までを一日で体得 ~			
9月14日	第148回見学会	森精機製作所 伊賀事業所	—	—
	主催学協会(日本機械学会東海支部)			
9月16日	第72回見学会	三恵工業	—	—
	主催学協会(日本設計工学会東海支部)「イス」の製作に関する工場見学, および, 「イス」の歩みについての講演			
9月27日	講習会 (全4講座中の4つめ)	名古屋大学ベン チャービジネス ラボラトリー	—	—
	主催学協会(精密工学会東海支部) 『プラズマを利用した薄膜製造技術とトライボロジー特性の評価』			

10月21日	見学会・特別講演会	新東工業 豊川製作所	—	—
	主催学協会(精密工学会東海支部) 「液晶・有機EL・半導体マスクにおける寸法管理」青木 達也氏(新東Sプレジジョン(株)) 「精密測定・計測分野への高精度セラミックス活用」森光 英樹氏(新東工業(株)) 見学会「ショールーム, 商品体感センター, ii-アシスト」			
10月31日	第116回講習会 科学英語によるプレゼンテーションの実践	名古屋大学シン ポジオンホール	—	—
	主催学協会(機械学会東海支部) 「講演スライドの作り方(講演日本語)」遠藤 守氏(中京大学) 「科学講演における効果的な英文表現(講演英語/質疑日本語可)」エドワード・ヘイグ氏(名古屋大学) 「E-mailによる効果的なコミュニケーション(講演質疑とも英語)」スティーブン・E・クア シャ氏(椙山女学園大学)			
11月4日	イーブニングセミナー 「先進医療に貢献する機械工学」	名古屋大学ベン チャービジネス ラボラトリー	—	—
	主催学協会(日本機械学会東海支部) 「小型Cバンド加速管を用いた高精度画像誘導放射線治療装置の開発」平井 悦郎氏(三菱 重工業) 「世界の救急医療の現場から ~Trauma Center~」祖父江 恵氏(名古屋大学)			
11月11日 ~12日	第2回特別講演会と見学会	岐阜市上下水道 事業部北西部プ ラント	—	—
	主催学協会(日本設計工学会東海支部) 下水汚泥焼却灰りん回収システムと下水処理プラントの設計と実際生産革新への挑戦とそ の方法 後藤 幸造氏(岐阜市上下水道事業部) 見学会並びに岐阜地方の技術探訪: 名和昆虫博物館・岐阜市歴史博物館等々			
1月26日	第117回講習会	名城大学名駅サ テライト	—	—
	主催学協会(機械学会東海支部) 基調講演 「津波災害の特徴とその対策」原田 賢治氏(静岡大学) 「レスキューロボットコンテストの紹介と将来展望」奥川 雅之氏(愛知工業大学) 「災害対応ロボット」田所 諭氏(東北大学) 「災害現場における無人ヘリコプタの活用」鈴木 弘人氏(ヤマハ発動機) 「建設機械のロボット化」吉灘 裕主氏(小松製作所)			
<b>(3) ④ 北陸支部</b>				
1月14日	特別講演会	金沢都ホテル	1	
	「植物生体電位を活用した生育管理」大藪 多可志氏(金沢星稜大学)			
3月5日	日本機械学会北陸信越支部総会・講演会	信州大学	1	74
	共催事業, 特別講演: 「シルクの歴史を振り返り未来を探る」三浦 幹彦氏(信州大学)			
9月17日 ~18日	平成23年度電気関係学会北陸支部連合大会	福井大学	350	568
	招待講演: 「非線形フィルタリングの新しい展開」魚崎 勝司氏(福井工業大学)			
10月20日	支部講演会	北陸先端科学技 術大学院大学	1	14
	「数値最適化に基づく量子化制御」澤田 賢治氏(電気通信大学)			
10月25日	支部講演会	横河電機金沢事 業所	1	30
	「脳電磁計測による運動内容の解読と制御」平田 雅之氏(大阪大学)			
11月17日	支部講演会	福井大学	1	23
	「圧縮センシング—ランダム測定に基づく新しいサンプリング理論—」和田山 正氏(名古屋工業大学)			

11月25日	支部特別講演会・Y50 記念講演会 「ロボット制御と手先技量の力学的理解：現代制御理論誕生半世紀に寄せて」有本 卓氏（立命館大学）	富山大学	1	102
12月2日	15周年記念講演会 「産学連携における学会の役割 -制御系セイフティとセキュリティー」新 誠一氏（電気通信大学） 「産学連携における企業の役割 -知的クラスターにおける共同研究を例として-」中川 脩一氏（ほくりく健康増進クラスター） 「簡易内部モデル制御とその福祉機器への応用」小林 伸明氏（金沢工業大学） 「SICE 北陸支部創設時の回顧と今後の期待」藤原 直史（初代支部長）	ANA クラウン ラザホテル金沢	4	45
12月7日	支部講演会 「システムの周波数応答データに基づく線形多変数制御器のチューニング」楊 子江氏（茨城大学）	福井工業大学	1	14
12月8日	支部講演会 「コミュニケーションのメカニズムデザイン -ビブリオバトルによる人と書籍の記号過程-」（谷口 忠大氏 立命館大学）	富山県立大学	1	17
12月10日	平成 23 年度日本生体医用工学会北陸支部大会・特別講演 「来し方を顧みて」佐々木 和男氏（富山大学）	金沢大学サテライトプラザ	1	65
12月12日	次世代センサ協議会「フィジカルセンサとセンサの複合技術」 協賛事業	IT ビジネスプラザ武蔵	8	
<b>(3) ⑤ 関西支部</b>				
1月18日	シンポジウム「若手研究発表会」 特別講演：テーマ 企業と大学 -企業研究者の視点- 「熱延冷却帯内温度計測技術 ファウンテンパイロメーターの開発」本田 達朗氏（住友金属工業） 「企業における研究開発 -川崎重工の制御技術を中心に-」加賀谷 博昭氏（川崎重工） 「博士卒業企業研究者のケーススタディ～教育システムと昇降機の共通点とは～」田口 浩氏（三菱電機） ・優秀発表3件を表彰	常翔学園大阪センター	37	67
1月25日	特別講演会 (1)「企業における制御技術適用の実際」石見 勝弘氏（川崎重工） (2)「『陰的制御』が生物のリアルタイム環境適応機能の『核』になる!？」大須賀 公一氏（大阪大学）	中央電気倶楽部	2	41
6月18日	ICTを操る次世代システム制御技術・理論研究会第1回講演会 「ICTを操る次世代システム制御技術・理論研究会に期待すること」潮 俊光氏（大阪大学） 「システム制御理論が ICT を操ることを目指して」藤岡 久也氏（京都大学） 「量子化制御：ICTを活用した制御のために」東 俊一氏（京都大学）	京都大学宇治キャンパス	3	24
7月13日	講習会「すぐに役立つ最新画像処理技術の基礎理論と実践テクニック」 「デジタル画像処理の初めの一步」寺田 賢治氏（徳島大学） 「超解像処理技術」田中 正行氏（東京工業大学） 「動画画像処理による3次元モデル化とカメラ位置推定」神原 誠之氏（奈良先端科学技術大学院大学） 「拡張現実感とプロジェクトカメラフィードバックによる見かけの制御」天野 敏之氏（山形大学）	大阪学術センター	4	23

7月23日	ICTを操る次世代システム制御技術・理論研究会第2回講演会	京都大学吉田キャンパス	3	21
	「ICTへのゲーム理論的アプローチ～ネットワークルーチングとセンサネットワークの場合～」金澤 尚史氏 (大阪大学) 「生物モデルにもとづく自己組織型ネットワーク制御」若宮 直紀氏 (大阪大学) 「一制御屋から見た通信分野の制御」浅井 徹氏 (大阪大学)			
8月18日	ICTを操る次世代システム制御技術・理論研究会第3回講演会	大阪大学豊中キャンパス	4	21
	「永続的センシングと人間行動認識の自動化」西尾 信彦氏 (立命館大学) 「ICT技術を用いた消防隊員遠隔支援用レスキューベストの開発」土井 智晴氏 (大阪府立工業高等専門学校) 「システム同定によるモデリング」奥 宏史氏 (大阪工業大学) 「電力システム技術における力学系手法～解析からデザインへ～」薄 良彦氏 (京都大学)			
9月24日	ICTを操る次世代システム制御技術・理論研究会第4回講演会	ホテルコスモスクエア国際交流センター	6	19
	「海外における最新のPLC技術の動向」岡本 誠氏 (東洋紡エンジニアリング) 「システム制御と関係のありそうな無線通信の話題」林 和則氏 (京都大学) 「リアルタイムスケジューリングへの最適化理論の応用」原田 史子氏 (立命館大学) 「サンプル点上の応答とサンプル点間応答の設計」佐藤 孝雄氏 (兵庫県立大学) 「制御理論のネットワーク研究への応用」大崎 博之氏 (大阪大学) 「密度関数による安定解析」増淵 泉氏 (神戸大学)			
10月7日 ～8日	見学会「低炭素社会の実現を目指すメカトロニクス・エネルギー・物流の最前線」	名古屋地区	—	37
	三菱電機名古屋製作所, 東宝ガス知多緑浜工場, 中部国際空港, アサヒビール名古屋工場を見学			
<b>(3) ⑥ 中国支部</b>				
1月7日	講演会 (主催)	岡山大学	1	34
	Analysis and classification of EEG signals using a hybrid clustering technique, Yan Li (University of Southern Queensland)			
1月18日	特別講演会	岡山コンベンションセンター	1	49
	「陰的制御が運動知理解の突破口になるか? 一制御系における陰的・陽的制御の考え方」大須賀 公一氏 (大阪大学)			
1月20日	講演会 (主催)	岡山県立大	1	16
	人の感覚を模したシステムの開発, 小西 亮介 (鳥取大学)			
1月27日	講演会 (主催)	岡山県立大学	1	13
	量子化制御: 物理と情報をつなぐ新技術, 東 俊一 (京都大学)			
4月22日	講演会 (主催)	岡山大学	1	34
	究極のブレイン・マシン・インタフェースをめざして, 櫻井 芳雄 (京都大学)			
6月8日	講演会 (主催)	岡山県立大学	1	20
	マルチエージェントシステムの階層化合意形成, 原 辰次 (東京大学)			
	「歩行リハビリテーション - 社会背景・機械開発・臨床試験・歩行動作の脳計測 -」王 碩玉氏 (高知工科大学)			
	「救急搬送時に起きる血圧変動とその対策」小野 貴彦氏 (広島市立大学) 「生体情報モニタリングシステム」榎 弘倫氏 (広島工業大学) 「点滴モニタリングシステム」小川 英邦氏 (広島工業大学)			
11月26日 ～27日	第20回計測自動制御学会中国支部学術講演会	岡山大学	110	225
	特別講演1 「夢を見ている脳を見る - 脳波とfMRIの同時計測によるレム睡眠時の急速眼球運動に伴う脳活動 -」 宮内 哲氏 (情報通信研究機構未来ICT研究所) 特別講演2 「人を中心としたオートメーションへ」 曾禰 寛純氏 (山武) チュートリアル講演「大型衛星「きく8号」のロバスト制御・モデリング・制御則・軌道上実験」 木田 隆氏 (電気通信大学)			

9月22日	見学会 (主催)	トクヤマ 徳山製造所	—	10
	徳山製造所概要説明, 南陽工場車窓見学, セメント工場見学, 徳山工場車窓見学, 東工場車窓見学, ポリシリコン工場見学			
—	グループ研究会	—	—	—
	6件のグループ研究会を立ち上げた。 1) インテリジェント制御研究会 (代表: 岡山県立大学 忻 欣), 2) 機械システム制御研究会 (代表: 広島大学 佐伯 正美), 3) システム医歯工学会 (代表: 広島大学 村山 長), 4) 障害者生活支援用計測制御技術研究会 (代表: 山口大学 田中 幹也), 5) 津山地区計測制御研究会 (代表: 津山工業高等専門学校 井上 浩行), 6) 福山地区グループ研究会 (代表: 福山大学 清水 光)			
1月20日	講演会 (共催)	広島工業大学	1	90
	現代のネットワーク 複雑ネットワークとは: 奥村 浩士 (京都大学名誉教授), 電気学会中国支部主催			
4月25日	講演会 (共催)	山口大学	1	—
	「電力システムの高度利用を実現するシステム技術～ スマートグリッドを支えるシステム技術～」造賀 芳文氏 (広島大学) 電気学会中国支部主催			
6月20日	講演会 (共催)	広島工業大学	1	—
	「バイオメトリクス認証技術とその応用」松下 雅仁氏 (三菱電機), 電気学会中国支部主催			
12月2日	講演会 (共催)	山口大学	2	—
	「非線形・非平衡を導入した界面における自律運動」中田 聡氏 (広島大学) 「計算知能をベースにした動脈硬化診断支援システムの開発」内野 英治氏 (山口大学) 情報処理学会中国支部主催			
12月16日	講演会 (共催)	広島工業大学	1	—
	「フラットパネル製造工程におけるデュアルチャネルシステムに基づく非接触配線検査手法」羽森 寛氏 (オー・エイチ・ティー) 電気学会中国支部主催			
9月13日	見学会 (共催)	中国電力(株) 南原発電所 (揚水式発電所) 南原研修センター	—	38
	電気学会中国支部主催			
<b>(3) ⑦ 四国支部</b>				
3月3日 ～4日	動的画像処理実利用化ワークショップ	四国大学交流プラザ	—	219
	特別講演: 「ユビキタスな注視センシングに向けて」佐藤 洋一氏 (東京大学) 特別企画: 「AR/MR (拡張現実感・複合現実感) の実利用のための動的画像処理」斉藤 英雄氏 (慶應義塾大学) 見学会: 大塚製菓SOY JOY工場			
4月8日	光センシングの質的変革研究会	徳島大学工学部	—	196
	開会講演: 「徳島におけるフォトンクス教育・研究」福井 萬壽夫氏 (徳島大学) 特別講演: 「コヒーレンスホログラフィー: 3次元コヒーレンス場の生成・制御とセンシングへの応用」武田 光夫氏 (電気通信大学) 招待講演: 「ワンショット小型フーリエ分光イメージング」石丸 伊知郎氏 (香川大学) 「テラヘルツ・カラースキャナー」安井 武史氏 (徳島大学) 「超高速画像処理とその応用」石川 正俊氏 (東京大学)			
7月25日	講演会	香川大学工学部	—	—
	Min, Byung Chan 氏(Hanbat National University): 「ドライビングシミュレータを用いた運転行動解析」			
9月19日 ～22日	2011 International Conference on Biometrics and Kansei Engineering	サンポート高松	—	—
10月30日	四国移動型&自律型ロボットトーナメント	とくぎんトモニプラザ	—	—



11月11日	四国支部学術講演会	阿南工業高等専門学校	—	201
	特別講演：「体と場の相互作用によって生まれる陰的制御が「知」の素になる!？」大須賀公一氏(大阪大)：			
12月6日	工場見学(ジェイテクト)			
<b>(3) ⑧ 九州支部</b>				
3月2日	講演会	宮崎大学工学部	—	15
	講師：Dr. Thorsten Koch (Zuse Institute Berlin, Germany) 講演タイトル：How to survive Real-World Projects as a Mathematicians			
3月8日	研究会	九州工業大学 Kyutech プラザ	—	7
	「船舶の非線形サンプル値制御」 “Interval observers, Lyapunov functions, persistence of species in chemostat: three subjects where time is essential” Dr. Frederic Mazenc (CNRS-Supelec, France) 「船舶の非線形サンプル値制御」 “A stability test for iISS networks: a brief summary” 伊藤 博氏(九州工業大学)			
8月5日	SICE九州フォーラム	アクロス福岡	—	44
	『次世代自動車の実用化と展開』 「電気自動車の進化」 岩野 浩氏(日産自動車) 「電動パワートレーンの時代に向けて～電動化への取り組みとプラグインHVの開発～」 石川 哲浩氏(トヨタ自動車)			
8月10日	講演会	鹿児島大学工学部	—	24
	「ロボットが環境適応能力を持つには? - なぜ小さなアリが大きな蟻塚を作れるのか -」 大須賀 公一氏(大阪大学)			
9月20日	第1回事業委員会	九州工業大学 kyutech プラザ	—	13
	学術講演会 プログラム作成			
9月21日	見学会	九州旅客鉄道熊本総合車両所	—	17
	九州新幹線の検修設備見学, 車両見学ほか			
9月30日	研究会	九州工業大学 Kyutech プラザ	—	7
	“The role of monotonicity for the stability of interconnected nonlinear systems” Dr. Bjoern Rueffer (University of Paderborn, Germany) “Multi-objective decision-making problems for discrete-time stochastic systems with state- and disturbance-dependent noise” 向谷 博明氏(広島大学) “First-ever solution to the problem of integral input-to-state stability of time delay networks” 伊藤 博氏(九州工業大学)			
11月17日 ～18日	研究会 共催行事 電気学会計測研究会	—	—	75
12月1日	講演会	—	—	30
	協賛事業 みやざき産学連携研究会講演会			
12月2日	講義会	大分大学工学部	—	95
	環境・エネルギーシステム制御のトピックス 内田 健康氏 早稲田大学			
12月3日	九州支部40周年記念式典および記念講演	大分県労働福祉会館ソレイユ	—	64
	Application of mobile manipulators Professor Jangmyung Lee (Pusan National University) 記念レセプション兼学術講演会技術交流会			
12月3日 ～4日	講演会	大分県労働福祉会館ソレイユ		163
	第30回計測自動制御学会九州支部 学術講演会			

2. 調査・研究及び資料収集・・[公2]

(1) 直轄事業

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表数	参加人数
<b>(1) ①会誌</b>				
毎月発行	「計測と制御」(Vol.50, No.1~No.12) No.1 特集 運動機能・移動障害をサポートする計測制御システムー福祉の夢に向かってー No.2 特集 最新の光学形状計測と産業への応用 No.3 特集 制御技術で描く電気自動車の将来像 (JSAE, SICE 共同企画) No.4 特集 計測制御エンジニアのグローバル指向 No.5 ミニ特集 回折イメージング~位相回復の新展開~ No.6 特集 航海の安全と省エネ No.7 特集 大規模生産のためのシステム技術 No.8/9 合併 創立 50 周年記念誌「計測自動制御学会 50 年史」 No.10 特集 地球大気の状態を計測する No.11 特集 確率システム制御ー基礎理論, アプローチ, そして, 新展開ー No.12 特集 I C T化する次世代農業システム 総頁数 1,108 頁 発行部数 7,300 部	—	—	—
<b>(1) ②論文集</b>				
毎月発行	『計測自動制御学会論文集』(Vol.47, No.1~No.12) 総頁数 672 頁 掲載論文 78 件, ショート・ペーパー6 件, 開発・技術ノート0 件, 討論0 件 投稿論文数 164 件, ショート・ペーパー8 件, 開発・技術ノート0 件, 討論0 件 購読数 1,630 部 特集号「次世代イノベーションのためのシステム・インテグレーション」, 「産業応用分野に貢献する制御技術の最前線」, 「センシングイノベーション」, 「SSI2010 特集 ー潤いある社会を紡ぎだすシステム・情報技術の創出ー」を発行した。	—	—	—
随時発行	産業論文 産業論文累計 140 編, ショート・ペーパー累計 2 件, 開発・技ノート累計 13 件を Web 上で公開 特集号「移動体の誘導制御」を発行した。	—	—	—
隔月発行	英文論文「SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration」(Vol.4, No.1~6) 総頁数 464 頁 掲載論文 63 件 投稿論文数 78 件 購読数 400 部 特集号「Advances in Networking for Distributed Control and Measurement」を発行した。	—	—	—
<b>(1) ③出版</b>				
随時発行	計測・制御テクノロジーシリーズ 全 20 巻中 10 巻まで刊行済み, 継続刊行中	—	—	—
<b>(1) ④ハンドブック等</b>				
	頒布状況 ・自動制御ハンドブック(基礎編)(オーム社より販売): 累計 4,125 部 ・自動制御ハンドブック(機器・応用編)(オーム社より販売): 累計 4,060 部 ・教育用ビデオ教材 初心者のための現代制御理論ビデオ講座: 累計 665 セット ・SICE-BASE 30: 累計 164 本 ・学術用語集「計測工学編」(コロナ社より販売): 累計 370 部	—	—	—
<b>(2) 創立 50 周年記念事業関係</b>				
9 月 16 日	功績賞受賞者を囲み SICE の歴史と未来を語る夕べ	早稲田大学西早稲田キャンパス	—	—

3. 技術者の資格認定・付与 .....【公3】

(1) 直轄事業

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表数	参加人数
<b>(1) ①SICE 計測制御エンジニア認定資格合格者</b>				
—	初級計測制御エンジニア	—	—	—
	2011年10月21日・22日（2011年度総合 東京 横河電機） 5名 河原田彬夫, 森 義博, 劉 宏超, 藤川剛生, 阪本大介 2011年11月12日（中部地域 名古屋大学） 27名 川畑佑馬, 仲村真人, 高橋大樹, 小牧拓也, 高橋宏和, 松本恭平, 本田雄大, 溝口雅人, 甲木裕一, 横井宏季, 堀田克也, 中道貴仁, 太田修司, 増利拓馬, 遠藤洋樹, 小口和紀, 中尾圭佑, 石川昌義, 長谷川直紀, 渡邊敏章, 堤 勇介, 柳原寛幸, 瀬田恭平, 鈴木脩平, 熊谷善広, 柴田悠次, 望月一輝 2011年11月（北海道地域 北海道大学） 2名 山崎 壮輔, 澤田 康平	—	—	—
—	計測制御エンジニア補	—	—	—
	SICE 統プロセス塾 2010 年度修了生 34名 鳥越陽介, 油谷訓男, 丹下吉雄, 浜田英克, 永山和郎*, 常盤欣史, 藤森 晃, 藤谷賢治*, 富樫孝太, 藤原ひろ絵, 小滝喜明, 山口真砂晴, 小川智永, 河村寿雄, 猪俣孝治, 町田祐太, 澤田圭介, 上田健夫, 内田慎吾, 鈴木孝司, 川野 真*, 杉本貴史, 河口恭二郎, 高橋 剛, 松岡 寛, 錦見正紀, 都村亮平, 石躍晶彦, 伊藤健作, 黒岩朋広, 宮本浩幸, 小林俊介, 田中 覚, 鷹田陽介 (注: ※ は, 既に資格保有者または上位資格取得者)	—	—	—
—	計測制御エンジニア	—	—	—
	2011年10月21日・22日（2011年度総合 東京 横河電機） 10名 野網都夫, 榎 順司, 上田健夫, 大竹敏文, 山田哲由, 太田 泉, 中澤親志, 真木智貴, 田中哲也, 杉本貴史	—	—	—
—	計測制御エンジニア (推薦認定)	—	—	—
	2011年9月14日（北海道地域 東京 早稲田大学） 1名 小林幸徳 2011年11月26日（北海道地域 北海道大学） 4名 佐々木尚史, 川崎勝也, 村田義和, 上住好章	—	—	—

4. 啓発・普及のための体験活動等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・〔公4〕

(1) 直轄事業

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表数	参加人数
<b>(1) SICE City 委員会</b>				
9月28日	研究者交流サロン Pre-企画	首都大学東京南大沢キャンパス	—	—
	シンポジウム「生きがいのある都市構築～やすらぎを求める～」の事前企画			
10月19日	シンポジウム『生きがいのある都市構築～やすらぎを求める～』	首都大学東京日野キャンパス	—	—
	講演Ⅰ：ストレスを知り、ストレスに向き合う システムデザイン学部松井岳巳氏 講演Ⅱ：使ってみたいデザイン システムデザイン学部笠松慶子氏 講演Ⅲ：やすらぎの生活～うまく思い出すこと～ 都市教養学部人文・社会系下川昭夫氏			
<b>(2) 創立50周年記念事業関係</b>				
9月13日	物理化学関連 JIS 改正の報告会：pH・粘度・密度(比重)	早稲田大学西早稲田キャンパス	—	—
9月18日	SICE Week 2011 市民フォーラム 一般市民向けの技術講演および展示 & デモンストレーション「～計測・制御・システムインテグレーションの面白さに触れる～」	早稲田大学西早稲田キャンパス	—	—

(3) 支部事業

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表数	参加人数
<b>(3) ② 東北支部</b>				
8月20日 ～21日	2011 電気自動車エコラン競技会 in SUGO (共催) 2011 年度インセンティブプランの支援を受けた。主催：電気自動車エコラン競技大会実行委員会	宮城県村田町	—	—
12月26日 ～21日	中学生のためのコンピュータ・グラフィック講座 — 3Dゲームを作ろう — (協賛) 主催：東北大学 サイバーサイエンスセンター	東北大学	—	—

5月30日	SICE 中部支部第1回制御理論研究会セミナー	名古屋大学工学部2号館	—	—
	「ハイブリッドシステムのモデル予測制御」小林 孝一氏 (北陸先端科学技術大学院大学) 「コウモリの飛行とドライバ操舵の共通性と統一モデル」天野 真輝氏 (豊田中央研究所)			
7月8日	光波応用技術研究会	名城大学 天白キャンパス	—	—
	「高次機能超短パルスファイバレーザ光源の開発と応用」西澤 典彦氏(名古屋大学) 「ガラス蛍光体と LED を組み合わせた近赤外小型広帯域光源の開発と応用」 淵 真悟氏(名古屋大学)			
7月22日	第1回統合知能メカトロシステム研究委員会 講演会・見学会	徳田工業 可児工場	—	—
	「Application of advanced numerical techniques for solution of biomedical and multiphysics problems」Vytautas Daniulaitis 氏 (Kaunas University of Technology (リトアニア)) 「当社の紹介と沿革」徳田 泰昭氏 (徳田工業) 徳田工業可児工場見学			
7月29日	電機計測制御技術ワーキングセミナー	名古屋工業大学	—	—
	「ベアリングレスモータの小型化・低消費電力化」朝間 淳一氏 (静岡大学) 「アクチュエータの電磁界解析技術」北川 亘氏 (名古屋工業大学)			
9月27日	計測自動制御学会中部支部工場見学会	ナブテスコ	—	—
	見学場所 ナブテスコ岐阜工場と垂井工場			
9月30日	中部支部シンポジウム	信州大学繊維学部	—	—
	「超電導磁気浮上式鉄道の実用化に向けて」白國 紀行氏 (JR 東海) 「モータの高性能化および低振動・低騒音化技術」吉桑 義雄氏 (三菱電機) 「ヒトとロボットのインタラクション」ポスターセッション/ポスター発表, 製品展示・技術発表 宮崎 文夫氏 (大阪大学)			
9月30日	第2回制御理論ワーキングセミナー	名古屋大学工学部	—	—
	「Hellinger vs Itakura-Saito distance for multivariate spectral estimation」 Prof. Michele Pavon (Department of Pure and Applied Mathematics University of Padova, Padova, Italy)			
10月14日	第2回統合知能メカトロシステム研究委員会 講演会・見学会	富士機械製造岡崎工場	—	—
	見学場所 富士機械製造(株) 岡崎工場 「生産革新への挑戦とその方法」山口 和幸氏 (豊田自動織機) 「NXT コンセプトがもたらす生産性の向上」櫻山 岳史氏(富士機械製造)			
11月12日	教育工学研究会	名城大学天白キャンパス	—	—
	教育工学に関する研究発表会			
11月18日	人間・ロボット共生委員会講演会	豊橋技術科学大学	—	—
	「ボール運動の物理モデルに基づく卓球ロボットの打撃運動の生成」中島 明氏 (名古屋大学) 「絶対節点座標法による柔軟構造物の定式化と制御系設計」菅原 佳城氏 (秋田大学)			
11月19日 ～20日	計測自動制御学会中部支部オープンラボ	豊橋技術科学大学	—	—
	研究シーズ・研究成果展示・基調講演・展示研究内容概要説明			
11月21日	制御理論研究委員会 第3回制御理論ワーキングセミナー	名古屋大学工学 研究科	—	—
	「非線形モデル予測制御入門」大塚 敏之氏 (大阪大学)			

5. 表彰及びコンクール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・[公5]

(1) 直轄事業

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表数	参加人数
<b>(1) 計測自動制御学会学会賞</b>				
9月15日	功績賞 山崎弘郎, 示村悦二郎	早稲田大学 国際会議場	-	-
9月15日	論文賞 ・三菱電機(株)・中島利郎, 仲嶋 一, 神戸大学・的場 修「偏光特性を利用したプラント点検用蒸気漏れセンサの開発」(計測自動制御学会論文集 Vol.45, No.6) <b>(蓮沼賞)</b> ・名古屋大学・鈴木秀俊, 坂本 登, チェコ工科大学・Sergej CELIKOVSKY「非線形出力レギュレーション問題における中心多様体の近似解法」(計測自動制御学会論文集 Vol.45, No.9) <b>(武田賞)</b> ・(株)山武・小河守正「バッチ重合プロセスのモデルベース B2B 制御」(計測自動制御学会論文集 Vol.46, No.3) ・Osaka University・Yoshimichi ITO, Hiroshi SHIRAHAMA, Kyoto University・Tomomichi HAGIWARA「On Sensitivity Reduction Problems of Sampled-Data Systems: Relationships to the Problems of Discrete-Time Systems」(SICE JCMSI Vol.3, No.6) ・京都大学・吉村僚太「変調器のモデルベース設計による DC/AC インバータの高効率化」(計測自動制御学会論文集 Vol.46, No.8) ・(株)山武・上田 悠, 太幸龍太, 総田長生, 慶應義塾大学・伊香賀俊治, 東京ガス(株)・加藤章浩「学習/多目的最適化機能を組み込んだ空調制御技術の実験的研究」(計測自動制御学会論文集 Vol.46, No.8) ・東北大学・吉原佑器, 牧野悌也, 富田 望, 矢野雅文「関節の動きやすさのリアルタイム最適化は大域的最適な腕運動を生成するか?」(計測自動制御学会論文集 Vol.45, No.11) ・セコム(株)・井部鮎子, 東京工業大学・郷古 学, 伊藤宏司「表面筋電位を用いた前腕義手の複合動作識別」(計測自動制御学会論文集 Vol.45, No.12) ・鹿児島大学・林 良太, 石嶺友康, 川平和美, 余 永, 辻尾昇三「脳卒中片麻痺上肢の運動機能回復訓練を支援するための電磁石を用いた伸張反射誘発装置の開発」(計測自動制御学会論文集 Vol.45, No.12) ・宇都宮大学・平田光男, 飯野郁与, 日産自動車(株)・安達和孝, 金子 豊「安定余裕を考慮したゲインスケジュールド $H_{\infty}$ 制御によるロックアップクラッチのスリップ回転速度制御」(計測自動制御学会産業論文 Vol.9, No.2)	早稲田大学 国際会議場	-	-
9月15日	技術賞 ・宇宙航空研究開発機構・植松洋彦, 山中浩二, 堀田成紀, 葛西 徹, 植田聡史, 和田恵一, 三菱電機(株)・吉河章二, 蒲原信治, 鈴木雅青, 三菱スペース・ソフトウェア(株)・小林 聡「宇宙ステーション補給機 (HTV) 自動ランデブ技術の開発」(日本航空宇宙学会第 41 期年会講演会, 他) <b>(友田賞)</b> ・京都大学・加納 学, (株)山武・小河守正, 京都大学・田坂謙一, 昭和電工(株)・高橋慎一, 滝波明敏, 出光興産(株)・吉井清次, 三井化学(株)・大寶茂樹, 首都大学東京・増田士朗「モデル不要 PID 調整法 E-FRIT の開発と実用化」(SICE プロセス塾テキスト, 他) ・住友金属工業(株)・本田達朗, 中川繁政, 植松千尋, 橋 久好, 武衛康彦, 阪上浩一「熱延冷却帯内の注水環境下における鋼板温度計測技術の開発と高張力鋼板製造への応用」(ICCAS-SICE 2009, 他) ・宇宙航空研究開発機構・大谷 崇, 濱田吉郎, 電気通信大学・長塩知之, 木田 隆, 防衛大学校・山口 功, 宇宙航空研究開発機構・葛西時雄, 井川寛隆, 巳谷真司, 砂川 圭, 池田正文「きく 8号 (ETS-VIII) の軌道上ロバスト姿勢制御実験」(第 10 回 SICE 制御部門大会, 他)	早稲田大学 国際会議場	-	-

9月15日	著述賞	早稲田大学 国際会議場	-	-
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本県立技術短期大学校・岩井善太, 熊本大学・水本郁朗, 熊本電波工業高等専門学校・大塚弘文(著)『単純適応制御 SAC』(2008年・森北出版)</li> <li>・大阪大学・池田雅夫, 藤崎泰正(著)『多変数システム制御』システム制御工学シリーズ9(2010年・コロナ社)</li> </ul>			
9月15日	新製品開発賞	早稲田大学 国際会議場	-	-
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横河電機株式会社「光学式塗工・多層膜厚センサ」</li> <li>・株式会社東芝「産業用サーバ FS1000S model 2000」</li> </ul>			
(2012年度 事業にて 授与)	学術奨励賞	東京大学 山上会館	-	-
	候補者決定 研究奨励賞(候補10名) 技術奨励賞(候補5名)			
9月17日	SICE Annual Conference Award	早稲田大学 国際会議場	-	-
	(International Award) <ul style="list-style-type: none"> <li>・Tomohiko NAKAMURA 「Local Stability Analysis for a class of Quorum-Sensing Networks with Cyclic Gene Regulatory Networks」.</li> <li>・Kenji KASHIMA 「Connection Profile Robustness in a Heterogeneous Network of Piecewise Affine FitzHugh-Nagumo Models」</li> </ul> (Young Author's Award) <ul style="list-style-type: none"> <li>・Akihiro CHIBA 「Two-dimensional Localization of an RFID Tag by Using a Weighted Integral Sensor on a Square Boundary」</li> </ul>			
9月15日	国際標準化賞	早稲田大学 国際会議場	-	-
	(功績賞) <ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社山武 笹島久 IEC 61158 (Protocol and Service), IEC 61784 (Communication Profile) などへの貢献</li> </ul> (奨励賞) <ul style="list-style-type: none"> <li>・独立法人産業技術総合研究所 神徳徹雄 ロボット用コンポーネントモデルの仕様書 (RTC-1.0), Robotic Localization Service 仕様書案などへの貢献</li> </ul>			
<b>(1) フェロー</b>				
9月15日	フェロー称号贈呈	早稲田大学 国際会議場	-	-
	飯野 穰, 岩岡秀人, 植田敏嗣, 香川利春, 黒谷憲一, 菅野重樹, 田所 諭, 則次俊郎, 本多 敏, 松日楽信人			
<b>(2) 創立50周年記念事業関係</b>				
9月15日	創立50周年記念 50年会員表彰	早稲田大学井深 大記念ホール	-	-
	50年以上会員であった100名の会員を表彰			
9月15日	創立50周年記念 賛助会員表彰	早稲田大学井深 大記念ホール	-	-
	賛助会員191社を表彰			
9月15日	創立50周年記念 事務局職員表彰	早稲田大学井深 大記念ホール	-	-
	事務局職員10名を表彰			

## (2) 部門事業

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表数	参加人数
<b>(2) ① 計測部門</b>				
10月14日	計測部門論文賞 ・東京大学・佐藤世智, 栗原 徹, 安藤 繁荷重積分法に基づく白色光干渉信号の直接中心決定アルゴリズム 計測自動制御学会論文集 vol.46 No.9 ・広島大学・石井 抱, 奥田寿和, 聶 余満, 高木 健, 麻布大学・折戸謙介, 東京農工大学・田中あかね, 松田浩珍「高速ビデオ画像を用いた心筋梗塞モデルラットの心運動解析」計測自動制御学会論文集 vol.46 No.9	—	—	—
10月14日	計測部門技術奨励賞 ・向山 新登(東京工業大学)「四角型超音波 CT による温度・風速分布の同時計測」 ・仲摩 崇((株)チノー)「植物がもち温度制御機構の実用化と適用」 ・高 尚逸(東京工業大学)「一般化したバーニア効果による高精度伝搬時間計測と無線センサネットワークへの応用」 ・梶原 康嗣(東京大学)「高速光周波数掃引によるヘテロダイナミック周波数差を利用したコヒーレンスピーク間分離測定」 ・猪瀬 世親(群馬大学)「電気インピーダンス CT を用いた 3 次元体脂肪分計測の検討」	—	—	—
11月5日	パターン計測部会優秀論文賞 高橋巧一, 満倉靖恵 (慶應義塾大学)	—	—	—
<b>(2) ② 制御部門</b>				
3月17日 琉球大学	パイオニア賞 ・京都大学 東 俊一氏 受賞研究: 量子化制御: 物理と情報をつなぐ新技術	—	—	—
	パイオニア技術賞 ・宇都宮大学 平田 光男氏 受賞研究: 高速高精度なモーションコントロールに関する研究	—	—	—
	制御部門大会賞 ・本田技術研究所 安井 裕司氏, 水野 隆英氏, 中野 慎也氏, 川澄 郁絵氏, 岩城 喜久氏 発表論文: F-1 用適応トラクションコントロールの研究	—	—	—
	制御部門大会技術賞 (今回より新設) ・日産自動車 西 羅光氏, 高木 良貴氏, 出口 欣高氏 発表論文: ドライバーとの協調制御のための回避経路算出手法の研究 ・慶應義塾大学 滑川 徹氏, 金沢大学 藤田 裕之氏 (現中部電力), 武田 孝史氏 (現オムロン), 北陸電力 金尾 則一氏 発表論文: 需要曲線の特徴を考慮した $H_{\infty}$ フィルタによる電力需要予測	—	—	—
	研究奨励賞 ・東京工業大学 石崎 孝幸氏 「スケール変換を利用した連続極限解析による大規模カスケードシステムの低次元化」(第 10 回制御部門大会にて発表) ・慶應義塾大学 (現(株)リコー) 室井 秀夫氏 「局所線形 PLS 法による非線形システム同定法」(第 10 回制御部門大会にて発表) ・京都大学 吉村 僚太氏 「マルチエージェントシステムのブロードキャスト制御」(第 39 回制御理論シンポジウムにて発表) ・横浜国立大学 坂田 晃一氏 「超精密ステージにおける複数センサを用いたフィードバック制御系の高帯域化」(第 39 回制御理論シンポジウムにて発表) ・東京大学 堀 豊氏 「時間遅れを考慮した環状遺伝子制御ネットワークの振動特性解析」(第 39 回制御理論シンポジウムにて発表)	—	—	—



(2) ③ システム・情報部門				
9月21日	生体・生理工学部会奨励賞	—	—	—
	産業技術総合研究所 細川 千絵氏「Optical Perturbation of Neuronal Network by a Focused Laser Beam」 東京大学 中村 亨氏「身体活動時系列にみる行動組織化とその生成機序：精神行動異常の統一的理解に向けて」			
11月22日	システム・情報部門優秀論文賞	—	—	—
	森禎弘氏, 黒江 康明氏「周期発現パターンをもつ遺伝子ネットワークの設計と安定解析法」			
11月23日	システム・情報部門奨励賞	—	—	—
	福井 文平氏「自己連想記憶の精度向上を目的とした追加記録パターンの最適生成法」 山口 拓真氏「分散型故障診断における確率的アプローチ-KL 情報量を用いたベイジアンネットワークの構築」 澁谷 長史氏, 「複素強化学習における状態遷移軌道の制御に関する一考察」			
(2) ④ システムインテグレーション部門				
12月24日	部門賞	京都大学 (SI2011 会場)	—	—
	<p>【功績賞】1件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園山隆輔 (TF-D/Robot &amp; Interaction Design)</li> </ul> <p>【学術業績賞】1件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前野隆司 (慶応義塾大学)</li> </ul> <p>【技術業績賞】1件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北陽電機株式会社</li> </ul> <p>【研究奨励賞】2件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『肌の客観的な感性評価のための皮膚柔軟感センサシステムの開発』 (SI2010にて発表) 仲谷正史, 川副智行 (資生堂), 福田達, 尾股定夫 (日本大学)</li> <li>・『高速多指ハンドシステムによる面状柔軟物体の動的操り』 (第16回ロボティクスシンポジウムにて発表) 山川雄司 (東京大学), 並木明夫 (千葉大学), 石川正俊 (東京大学)</li> </ul> <p>【若手奨励賞】5件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『局所的な齟齬に基づく位相制御と筋緊張制御の有機的連関様式』 (SI2010にて発表) 佐藤貴英 (東北大学)</li> <li>・『能動ウイルスフィルタを用いた単一ウイルス操作』 (SI2010にて発表) 益田泰輔 (名古屋大学)</li> <li>・『Trilateral filter と Belief Propagation を用いた距離画像の平滑化及び欠損修復』 (第16回ロボティクスシンポジウムにて発表) 大石修士 (九州大学)</li> <li>・『果樹園 UGV の全方位カメラの画像に基づく制御』 (第16回ロボティクスシンポジウムにて発表) 永田純平 (神戸大学)</li> <li>・『連結関節を有する多指ロボットハンド』 (第16回ロボティクスシンポジウムにて発表) 園田隆 (福岡県産業・科学振興財団)</li> </ul>			
12月24日	部門貢献表彰	京都大学 (SI2011 会場)	—	—
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『SI2010 に実行委員長およびプログラム委員長として貢献』 橋本 浩一 (東北大学), 平田 泰久 (東北大学)</li> <li>・『SII2010 に実行委員長およびプログラム委員長として貢献』 橋本 浩一 (東北大学), 妻木 勇一 (山形大学)</li> <li>・『第16回ロボティクスシンポジウムに実行委員長およびプログラム委員長として貢献』 余 永 (鹿児島大学), 栗栖 正充 (東京電機大学)</li> </ul>			

(2) ⑤ 産業応用部門				
	産業応用部門賞	—	—	—
	<b>【功績賞】</b> ・北川 能 (東京工業大学) 「流体計測制御技術への寄与」 <b>【奨励賞】</b> ・小比賀 理延 (ADAPTEX) 対象論文: 「運転データを活用したPID制御とその応用」 <b>【技術賞】</b> ・温井 一光 (日本アプライドフロー) 「共鳴振動数による液体ガスボンベ内の液面計の実用化」 ・石橋 政三 (チノー) 「ザゼンソウが持つ温度制御機構を産業に応用する」			

### (3) 支部事業

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表数	参加人数
<b>(3) ② 東北支部</b>				
7月8日	支部優秀発表奨励賞	—	—	—
	弘前大学 鈴木 佑太 「マスタ・スレーブ機構のための柔軟物検出と柔軟さ提示」(第265回研究集会)			
7月29日	支部優秀発表奨励賞	—	—	—
	秋田大学 大須賀 智洋 「画像による主観評価に用いる視線計測システムの開発」(第266回研究集会)			
12月3日	支部優秀発表奨励賞	—	—	—
	山形大学 小林 慧吾 「円筒型MR流体ブレーキを用いたバーチャルリアリティー自転車の開発」(第267回研究集会)			
12月7日	支部優秀発表奨励賞	—	—	—
	日本大学 渡辺 暁 「基板のテクスチャ処理による塗膜の付着性制御」(第268回研究集会)			
12月16日	支部優秀発表奨励賞	—	—	—
	福島大学 大室 拓哉 「湖沼調査用小型水中ロボットのためのワイヤレススラストモジュールの推力向上」(第268回研究集会)			
12月19日	支部優秀発表奨励賞	—	—	—
	東北大学 長澤 昂 「身体の力学的特性を活用した脚間協調に基づく四脚ロボットの適応的ロコモーション生成」(第269回研究集会)			
<b>(3) ③ 中部支部</b>				
	学業優秀賞	—	—	—
	愛知県立大学 情報科学部 地域情報科学科 水谷 春菜 愛知工業大学 工学部 電気学科 石川 真也 岐阜工業高等専門学校 電子制御工学科 福井 一輝 岐阜大学 工学部 人間情報システム工学科 竹田 幸市 三重大学 電気電子工学科 石崎 将崇 三重大学 機械工学科 佐藤 洋一 沼津工業高等専門学校 機械・電気システム工学専攻 藤田 将喜 静岡大学 工学部 システム工学科 水野 祐輔 豊橋技術科学大学 機械システム工学課程 片江 龍太 豊橋技術科学大学 生産システム工学課程 今井 涼介 豊田工業大学 先端工学基礎学科 近藤 恵美子 名古屋工業大学 電気電子工学科 古橋 雄介 名古屋大学 工学部 機械・航空工学科 機械システム工学コース 飯岡 弘基 名古屋大学 工学部 機械・航空工学科 電子機械工学コース 山田 靖高 名古屋大学 工学部 機械・航空工学科 航空宇宙工学コース 鈴木 秀明 鈴鹿工業高等専門学校 電子情報工学科 舛井 さゆみ 信州大学 工学部 機械システム工学科 関口 彰太			

<b>(3) ④ 北陸支部</b>				
8月6日	SICE Annual Conference 学生会員参加奨励賞		—	—
	本年度は2件の申請。厳正なる審査の結果2件とも採択。 富山県立大学・川崎 友希恵「Development of Intuitive Tempo Adjusting Device for Metronome Interface」 富山県立大学・土肥 雅喜「Basic Performance Experiments on a Belt Transmission System using Electro-Rheological Gel」			
9月17日	平成23年度電気関係学会北陸支部連合大会優秀論文発表賞	福井大学	—	—
	富山県立大・浅野 誠之「エッジ方向特徴量とパーティクルフィルタを用いた目検出法の顔向きに対する性能評価」 金沢工業大学・佐野 圭祐「二関節筋を有する2自由度マニピュレータの安定性解析」			
<b>(3) ⑤ 関西支部</b>				
1月25日	支部長賞表彰	中央電気倶楽部	—	—
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術賞—オムロン(株)・田中 政仁, 他: 温度差モデルに基づく成形用フラットダイの均一温度制御</li> <li>・奨励賞—京都大学・金田 さやか: 「往復伝搬時間測定による小天体の自動運動およびローバ位置の推定」</li> <li>・奨励賞—大阪大学・橋本 智昭: 「Receding Horizon Control for Nonlinear Partial Differential Equations with Boundary Control Inputs」</li> </ul>			
<b>(3) ⑥ 中国支部</b>				
1月19日	中国支部賞	岡山大学	—	—
	奨励賞: 脇谷 伸 (広島大学), 野村 順 (島根大学), 藤井 温子 (弓削商船高専), 佐藤 訓志 (広島大学), 津田 尚秀 (岡山県立大学)			
<b>(3) ⑦ 四国支部</b>				
11月11日	支部長賞表彰	徳島大学	—	—
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀講演賞</li> <li>上田 宙輝 (愛媛大): 屋外環境における移動車ロボットのためのレーザースキャナーと全方位カメラを用いた人間認識手法</li> <li>大矢 俊介 (徳島大): 体積型3D表示における面間隔が視域角の評価に及ぼす影響の評価</li> <li>銀屋 真 (徳島大): ミュラー行列を用いたPLZTの全偏光特性計測</li> <li>佐藤 和樹 (徳島大): 天気予報を用いた日射量予測システムの簡略化ファジィ推論による予測値補正効果</li> <li>篠原 正旭 (香川高専): 車椅子の電動アシストに関する基礎研究</li> <li>新田 和馬 (徳島大): 画像処理を用いたバーチャルダーツ</li> <li>松下 和真 (徳島大): 多数枚の位相差フィルムの積層による偏光暗号の構築</li> <li>山下 一樹 (愛媛大): 膝を有する4足受動歩行ロボットの歩行条件</li> </ul>			
<b>(3) ⑧ 九州支部</b>				
	九州支部奨励賞	熊本大学		
	<b>【計測部門】</b> 白石 岳君 (九州工業大学) 論文番号 103B5 「固定ラグスミングを用いたオペイカルフロー推定」 <b>【制御理論部門】</b> 水本 聡君 (九州大学) 論文番号 202A3 「拡張最小二乗法を応用した薬物動態パラメータ推定」 <b>【システム応用部門】</b> 田尻 祐介君 (熊本高等専門学校) 論文番号 102A3 「Hough変換に基づく複数話者の発話時における音源数推定」			

6. その他の本会の目的を達成するための事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【他】

(1) 直轄事業

予定月日	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表数	参加人数
<b>(1) ① 国際関係</b>				
随時実施	国際計測連合(IMEKO)への協力	—	—	—
随時実施	国際自動制御連盟(IFAC)への協力	—	—	—
随時実施	ISA, CIS, IEEE, ICROS, CAA, CACS との交流	—	—	—
随時実施	来日外国学識者との交流	—	—	—
<b>(1) ② 国内関係</b>				
随時実施	日本工学会など関連学協会との協力	—	—	—
随時実施	システム制御情報学会との事業協力	—	—	—
随時実施	横断型基幹科学技術研究団体連合への協力	—	—	—
随時実施	JABEE への協力	—	—	—
随時実施	日本工学会事務研究委員会への委員としての協力	—	—	—

7. 本会の法人管理・運営に関する事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・〔法人〕

(1) 直轄事業

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表数	参加人数
1月11日	2011年度予算策定会議	SICE 事務所	—	—
1月12日	SICE2011 実行委員会	早稲田大学	—	—
1月14日	第1回学会賞委員会	SICE 事務所	—	—
1月19日	第2回国際委員会	SICE 事務所	—	—
1月19日	第6回AC委員会	早稲田大学	—	—
1月19日	第1回国際標準化委員会	SICE 事務所	—	—
1月26日	第3回総務委員会	SICE 事務所	—	—
1月26日	第3回理事会	SICE 事務所	—	—
1月27日	第1回論文集検討委員会	SICE 事務所	—	—
1月28日	第6回出版委員会	SICE 事務所	—	—
1月28日	第6回会誌編集委員会	SICE 事務所	—	—
1月31日	臨時総務委員会	SICE 事務所	—	—
2月1日	第6回論文集委員会	文京シビックセンター	—	—
2月7日	第18回技術史委員会	文京区障害者会館	—	—
2月8日	第7回Y50実行委員会	SICE 事務所	—	—
2月10日	第1回部門協議会	SICE 事務所	—	—
2月10日	第1回教育・認定委員会	SICE 事務所	—	—
2月22日	第2回Y50組織委員会	SICE 事務所	—	—
2月22日	賛助会員懇談会 2010	東京大学・山上会館	—	—
2月22日	第1回定時社員総会	東京大学・山上会館	—	—
2月22日	第1回理事会	東京大学・山上会館	—	—
2月28日	第2回JIS原案作成委員会	SICE 事務所	—	—
2月22日	第5回自動制御連合講演会実行委員会	豊橋科学技術大学	—	—
3月7日	会長・総務引継会議	SICE 事務所	—	—
3月8日	第8回Y50実行委員会	SICE 事務所	—	—
3月8日	第1回英文論文集委員会	SICE 事務所	—	—
3月9日	第1回産業論文委員会	SICE 事務所	—	—
3月10日	第1回会誌編集委員会	SICE 事務所	—	—
3月24日	予算小委員会幹事会	SICE 事務所	—	—
3月30日	第1回国際委員会	SICE 事務所	—	—
3月30日	第1回AC委員会	SICE 事務所	—	—
3月31日	第1回制度小委員会	SICE 事務所	—	—
4月5日	第2回総務委員会	SICE 事務所	—	—
4月5日	第2回理事会	SICE 事務所	—	—
4月12日	続プロセス塾拡大WG	SICE 事務所	—	—
4月19日	第1回支部協議会	SICE 事務所	—	—
4月19日	第1回予算小委員会	SICE 事務所	—	—
4月19日	Y50新管理WG adohoc	SICE 事務所	—	—
4月26日	第1回学会賞委員会	東京大学	—	—
4月27日	第1回Y50新管理WG	SICE 事務所	—	—
5月10日	第1回産官学連携委員会	SICE 事務所	—	—

5月10日	第2回国際標準化委員会	SICE 事務所	—	—
5月10日	第1回国際標準化賞推薦小委員会	SICE 事務所	—	—
5月11日	第1回企画委員会	SICE 事務所	—	—
5月11日	第2回 Y50 新管理 WG	SICE 事務所	—	—
5月12日	第2回会誌編集委員会	SICE 事務所	—	—
5月13日	第9回 Y 5 0 実行委員会	SICE 事務所	—	—
5月16日	2011 年度フェロー選考委員会	SICE 事務所	—	—
5月16日	2011 年度功績賞選考委員会	SICE 事務所	—	—
5月17日	第2回論文集委員会	SICE 事務所	—	—
5月18日	第1回 ISICIE-SICE 連携 PJ 企画運営会議	大阪大学吹田キャンパス	—	—
5月18日	第1回 I-S 連携企画 STC 会議	大阪大学	—	—
5月20日	第3回続プロセス塾スクーリング	JFE スチール(株)	—	—
5月20日	続プロセス塾 2010 修了式	JFE スチール(株)	—	—
5月20日	第3回 Y50 新管理 WG	SICE 事務所	—	—
5月23日	技術史委員会 adhoc	SICE 事務所	—	—
5月23日	第7回 VPP 小委員会	SICE 事務所	—	—
5月24日	第1回 IT・学会モデル委員会	SICE 事務所	—	—
5月25日	第1回部門連携・活性化専門委員会	SICE 事務所	—	—
5月25日	第1回将来委ビジョン委員会	SICE 事務所	—	—
5月27日	第1回選挙管理委員会・候補者推薦委員会 adhoc	SICE 事務所	—	—
5月27日	第1回東日本大震災 TF	SICE 事務所	—	—
5月31日	第2回学会賞委員会	SICE 事務所	—	—
6月1日	第3回部門協議会	SICE 事務所	—	—
6月1日	会員・広報委広報 WG	東京大学	—	—
6月2日	第2回国際委員会	SICE 事務所	—	—
6月2日	第2回 AC 委員会	SICE 事務所	—	—
6月3日 ～4日	特別会誌編集委員会	IHI・箱根クラブ	—	—
6月6日	第19回技術史委員会	文京シビックセンター	—	—
6月10日	第3回総務委員会	SICE 事務所	—	—
6月10日	総務委員会制度小委員会	SICE 事務所	—	—
6月10日	第3回理事会	SICE 事務所	—	—
6月10日	第2回産官学連携委員会	SICE 事務所	—	—
6月13日	第1回価値創造 TF	SICE 事務所	—	—
6月17日	自動制御多分野応用小委員会	SICE 事務所	—	—
6月21日	第10回 Y50 実行委員会	SICE 事務所	—	—
6月23日	SICE2011 実行委員会	早稲田大学	—	—
6月24日	第1回出版委員会	SICE 事務所	—	—
6月27日	第2回候補者推薦委員会	SICE 事務所	—	—
6月28日	第2回 IT・学会モデル委員会	SICE 事務所	—	—
6月28日	第2回会員・広報委員会	SICE 事務所	—	—
6月29日	第6回 Y 5 0 新管理 WG	SICE 事務所	—	—
6月30日	第1回 IMEKO 委員会	SICE 事務所	—	—
7月5日	第3回国際標準化委員会	SICE 事務所	—	—
7月5日	SICE2012 実行委員会	秋田大学	—	—
7月7日	第2回企画委員会	SICE 事務所	—	—
7月8日	第3回会誌編集委員会	SICE 事務所	—	—
7月11日	第7回 Y50 新管理 WG	SICE 事務所	—	—
7月15日	第3回論文集委員会	SICE 事務所	—	—
7月19日	第11回 Y 5 0 実行委員会	SICE 事務所	—	—
7月21日	第3回 AC 委員会	SICE 事務所	—	—

7月21日	第3回国際委員会	SICE 事務所	—	—
7月22日	第4回部門協議会	SICE 事務所	—	—
7月26日	第8回新管理 WG	SICE 事務所	—	—
7月28日	臨時8 役会議	SICE 事務所	—	—
7月29日	IT・学会モデル委員会	SICE 事務所	—	—
8月3日	役員選出意見聴取会	SICE 事務所	—	—
8月3日	震災 TF 研究会意見交換会	SICE 事務所	—	—
8月3日	第4回総務委員会	SICE 事務所	—	—
8月3日	第4回理事会	SICE 事務所	—	—
8月3日	SICE2011 実行委員会	SICE 事務所	—	—
8月4日	第1回 Y50 式典運営チーム会議	SICE 事務所	—	—
8月9日	自動制御連合講演会実行委員会	SICE 事務所	—	—
8月10日	第9回 Y50 新管理 WG	SICE 事務所	—	—
8月12日	第2回 Y50 式典運営チーム会議	SICE 事務所	—	—
8月17日	第2回価値創造 TF	SICE 事務所	—	—
8月22日	第12回 Y50 実行委員会	SICE 事務所	—	—
8月23日	第10回 Y50 新管理 WG	SICE 事務所	—	—
8月26日	第2回英文論文集委員会	SICE 事務所	—	—
8月29日	ファンック賞選考委員会	SICE 事務所	—	—
8月30日	第11回 Y50 新管理 WG	SICE 事務所	—	—
9月6日	第4回論文集委	SICE 事務所	—	—
9月7日	第3回 IT 委委員会	SICE 事務所	—	—
9月8日	第12回 Y50 新管理 WG	SICE 事務所	—	—
9月9日	倫理委員会打合せ	SICE 事務所	—	—
9月9日	第3回技術史委員会	SICE 事務所	—	—
9月12日	第13回 Y50 実行委員会	SICE 事務所	—	—
9月13日	第2回支部協議会	早稲田大学西早 稲田キャンパス	—	—
9月13日	計測制御エンジニア総会	早稲田大学西早 稲田キャンパス	—	—
9月14日	計測制御エンジニア推薦試験	北海道大学	—	—
9月16日	拡大 AC 委員会	早稲田大学西早 稲田キャンパス	—	—
9月16日	第3回企画委員会	早稲田大学西早 稲田キャンパス	—	—
9月20日	第3回予算小委員会	SICE 事務所	—	—
9月22日	第4回会誌編集委員会	SICE 事務所	—	—
9月22日	Y50 新管理 WG adhoc	SICE 事務所	—	—
9月30日	第4回国際標準化委員会	SICE 事務所	—	—
10月6日	第4回国際委員会	SICE 事務所	—	—
10月7日	続プロセス塾第3回スクーリング	京都大学桂キャン パス	—	—
10月7日	第2回 ISCIE-SICE 連携 PJ 企画運営会議	京都大学桂キャン パス	—	—
10月11日	第54回自動制御連合講演会実行委員会	豊橋技術科学大 学	—	—
10月12日	IT 委員会	SICE 事務所	—	—
10月12日	会員・広報委員会	SICE 事務所	—	—
10月13日	出版委員会	SICE 事務所	—	—
10月13日	計測制御エンジニア試験・認定 WG	SICE 事務所	—	—
10月19日	生きがいのある都市構築シンポジウム	首都大学東京	—	—
10月21日	計測制御エンジニア試験(東京)	横河電機(株)	—	—
10月31日	第3回役員選出意見聴取会	SICE 事務所	—	—

10月31日	第4回技術史委員会	SICE 事務所	—	—
11月1日	第5回部門協議会	東北大学片平キ ャンパス	—	—
11月4日	第1回常務理事会議	筑波大学	—	—
11月4日	役員・代議員懇談会	筑波大学	—	—
11月7日	第9回連合講演会実行委員会	豊橋技術科学大 学	—	—
11月9日	第6回IT委員会	SICE 事務所	—	—
11月10日	(Y50実)新管理WG	SICE 事務所	—	—
11月11日	第2回候補者推薦委員会	SICE 事務所	—	—
11月16日	第5回論文集委員会	SICE 事務所	—	—
11月16日 ～18日	計測展 2011	東京ビックサイ ト	—	—
11月18日	国際標準化セミナー	東京ビックサイ ト	—	—
11月19日 ～20日	第54回自動制御連合講演会	豊橋技術科学大 学	—	—
11月20日	ISICE との会長懇談会	SICE 事務所	—	—
11月20日	ISCIE-SICE 連携PJ 第3回企画運営会議	ホテル日航豊橋	—	—
11月20日	ISCIE-SICE 連携PJ 第2回ステアリング会議	ホテル日航豊橋	—	—
11月21日	第5回総務委員会	ホテル日航豊橋	—	—
11月21日	第3回支部協議会	ホテル日航豊橋	—	—
11月21日	拡大理事会 2011	ホテル日航豊橋	—	—
11月22日	第5回理事会	ホテル日航豊橋	—	—
11月24日	第2回将来ビジョン委員会	文京シビックセ ンター	—	—
11月24日	第5回会誌編集委員会	SICE 事務所	—	—
11月24日	北海道支部セミナー	北海道大学	—	—
11月26日	北海道地域計測制御エンジニア資格認定試験	北海道大学	—	—
11月30日	機械系学協会懇談会	SICE 事務所	—	—
12月1日	第6回部門協議会	SICE 事務所	—	—
12月5日	第4回会員・広報委員会	SICE 事務所	—	—
12月7日	第5回IT委員会	SICE 事務所	—	—
12月9日	第14回Y50実行委員会	SICE 事務所	—	—
12月13日	第5回国際標準化委員会	SICE 事務所	—	—
12月14日	第3回産業論文委員会	SICE 事務所	—	—
12月21日	第6回総務委員会	SICE 事務所	—	—
12月21日	第6回理事会	SICE 事務所	—	—
12月21日	先端融合システムズアプローチ創出委員会	SICE 事務所	—	—

## (2) 部門事業

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表数	参加人数
<b>(2) ① 計測部門</b>				
1月25日	第1回温度計測部会運営委員会	千葉大学 けやき 会館	—	—
2月18日	第1回運営委員会／第1回センシングフォーラム運営委員会	SICE 事務所	—	—
3月11日	第1回先端電子計測部会運営委員会	SICE 事務所	—	—
7月1日	第2回運営委員会／第2回センシングフォーラム運営委員会	SICE 事務所	—	—
7月6日	第1回パターン計測部会運営委員会	愛知工科大学	—	—



10月13日	第3回運営委員会/第3回センシングフォーラム運営委員会	慶応義塾大学	-	-
11月3日	第2回パターン計測部会運営委員会	長良川観光ホテル石金(岐阜)	-	-
<b>(2) ② 制御部門</b>				
3月17日	第1回制御部門運営委員会	琉球大学	-	17
	2011年度の事業計画, 予算計画を具体的に検討した。次年度の制御部門大会を奈良県立文化会館で2012年3月に開催することを承認した。			
5月12日	第2回制御部門運営委員会	東京工業大学	-	13
	論文集活性化のための方策, 一般向けメーリングリストの運用方法, 運営委員執行部の充実化の審議した。			
9月27日	第3回制御部門運営委員会	ホテルコスモスクエア国際交流センター	-	20
	エネルギー・環境システム制御技術調査研究会の後継調査研究会について承認, 学会ネット社システム使用停止と2012制御部門大会での対応, 制御部門賞新設, IFAC AAC 2013主催について議論した。			
11月20日	第4回制御部門運営委員会	豊橋技術科学大学	-	15
	適応学習調査研究会の後継調査研究会提案 IFAC AAC に対する人的協力支援について承認した。2011年度の事業と予算執行報告を取りまとめ, 2012年度の運営委員会体制, 事業計画, 予算計画について議論した。また行事運営負荷低減のため, 小規模の行事(シンポジウム等)を取り纏めて Multi-Symposium on Systems Control (MSSC) なる形で一括開催する案などについても議論した。			
<b>(2) ③ システム・情報部門</b>				
1月29日	第23回自律分散システム部会運営委員会	北海道大学	-	-
3月3日	システム・情報部門幹事団引継ぎ会	SICE 事務局	-	6
3月8日	生体・生理工学部会運営委員会	玉川大学	-	-
3月16日	知能工学部会運営委員会 (震災のためメール審議)	神戸大学	-	-
3月31日	システム・情報部門運営委員会	SICE 事務局	-	19
5月1日	先端ナチュラルコンピューティングとその応用調査研究会運営委員会	兵庫県立大姫路書写キャンパス	-	-
6月25日	第48回自律分散システム部会運営委員会	神戸大学	-	-
6月28日	システム・情報部門運営委員会	常翔学園 大阪センター	-	15
7月13日	関係論的システム科学調査研究会運営委員会	HCI2011 会場	-	-
9月4日	自律分散システム部会運営委員会	彦根ビューホテル	-	15
9月14日	システム・情報部門将来構想委員会	早稲田大学	-	-
9月15日	システム・情報部門運営委員会	早稲田大学	-	-
9月20日	生体・生理工学部会運営委員会	立命館大学	-	-
9月22日	関係論的システム科学調査研究会運営委員会	同志社大学京田辺キャンパス	-	-
11月17日	マンマシンシステム部会運営委員会	筑波大学文京キャンパス	-	-
11月21日	知能工学部会運営委員会	国立オリンピック記念青少年センター	-	-
11月21日	システム工学部会運営委員会	国立オリンピック記念青少年センター	-	-

11月22日 ～23日	システム・情報部門運営委員会	国立オリンピック 記念青少年セ ンター	—	25
11月22日	先端ナチュラルコンピューティングとその応用調査研 究会運営委員会	国立オリンピック 記念青少年セ ンター	—	—
11月23日	関係論的システム科学調査研究会運営委員会	国立オリンピック 記念青少年セ ンター	—	—
12月10日	先端ナチュラルコンピューティングとその応用調査研 究会運営委員会	兵庫県立大学神 戸ポートアイラ ンド新キャンパ ス	—	—
<b>(2) ④ システムインテグレーション部門</b>				
2月15日	第1回 SI 部門運営委員会 (新旧合同)	関西学院大学 東京丸の内キャ ンパス	—	26
	自己紹介, 部門運営内規, 旅費の補助内規改訂			
3月28日	第2回 SI 部門運営委員会	メール審議 (震災のため)	—	—
	共催・協賛依頼承認, 新体制確認			
5月28日	第3回 SI 部門運営委員会	岡山コンベンシ ョンセンター	—	34
	表彰推薦依頼, SI2011/SII2011 の予算案および進捗状況, 電力消費とライフスタイル変革技 術調査研究会の設立申請			
7月19日	第4回 SI 部門運営委員会	SICE 事務局	—	18
	部門ホームページ移転, ファナック賞選考進捗報告			
9月19日	第5回 SI 部門運営委員会	早稲田大学西早 稲田キャンパス	—	23
	SI2011/SII2011 の進捗確認			
11月1日	第6回 SI 部門運営委員会	SICE 事務局	—	19
	部門表彰の承認, 活動報告および次年度体制の依頼, 部門長と副部門長の選出			
12月24日	第7回 SI 部門運営委員会	京都大学 (SI2011 会場)	—	29
	部門表彰規程の改定, インテリジェントビークル部会設置申請, 相互作用と賢さ部会の終了 とロボット工学部会への合流, 新年度体制確認			
<b>(2) ⑤ 産業応用部門</b>				
2月8日	第1回産業応用部門運営委員会	SICE 事務局	—	6
	2011年の運営委員会の体制, 2010年の決算および2011年の予算, 部門大会などについて 協議した.			
4月22日	第2回産業応用部門運営委員会	SICE 事務局	—	7
	部門大会などについて協議した.			
7月15日	第3回産業応用部門運営委員会	SICE 事務局	—	10
	部門大会などについて協議した.			
9月14日	エンジニア会総会	SICE 事務局	—	17
	活動実績報告, 活動計画, 体制説明, スケジュールについて			
10月4日	第4回産業応用部門運営委員会	SICE 事務局	—	9
	決算・予算, 部門大会の運営, 部門賞などについてした.			
10月20日	計測・制御ネットワーク部会	東芝本社	—	11
	産業応用部門大会の発表原案を元に論点, 不明点を議論.			
12月13日	第5回産業応用部門運営委員会	シビックセンタ ー	—	9

2012年の運営委員会の体制，部門大会などについて協議した。
--------------------------------

### (3) 支部事業

<b>(3) ① 北海道支部</b>				
1月13日	第48回北海道支部支部会議	北海道大学	—	7
1月13日	2011年度第1回北海道支部運営会議	北海道大学	—	6
6月17日	2011年度第2回北海道支部運営会議	北海道大学	—	4
11月25日	2011年度第3回北海道支部運営会議	北海道大学	—	4
<b>(3) ② 東北支部</b>				
1月14日	支部会議	東北大学	—	6
2月17日	支部運営専門委員会	東北大学	—	6
5月24日	支部運営専門委員会	東北大学	—	4
6月17日	支部運営専門委員会	東北大学	—	4
10月6日	支部運営専門委員会	東北大学	—	5
10月18日	支部運営専門委員会	東北大学	—	4
11月18日	支部運営専門委員会	東北大学	—	4
12月12日	支部運営委員・顧問・専門委員合同委員会	東北学院大学	—	10
<b>(3) ③ 中部支部</b>				
1月22日	第42期支部会議	名古屋工業大学 講堂会議室	—	—
	前期事業報告，同会計報告，今期事業計画案，同予算案，支部賞授賞式，特別講演			
1月22日	第1回運営委員会	名古屋工業大学 講堂会議室	—	—
	前回議事録の承認，本部関係報告と審議，支部事業関係報告及び研究委員会報告ならびに審議			
1月22日	中部支部第42期（平成23年度）支部会員交流会	浩養園	—	—
	中部支部第42期（平成23年度）支部会員交流会			
5月11日	第2回運営委員会	名古屋工業大学	—	—
	前回議事録の承認，本部関係報告と審議，支部事業関係報告及び研究委員会報告ならびに審議			
7月12日	第3回運営委員会	名古屋工業大学	—	—
	前回議事録の承認，本部関係報告と審議，支部事業関係報告及び研究委員会報告ならびに審議			
11月11日	第4回運営委員会	名古屋工業大学	—	—
	前回議事録の承認，本部関係報告と審議，支部事業関係報告及び研究委員会報告ならびに審議，研究委員会事業／会計終了報告・中間報告，研究委員会設置申請について，平成23年度事業中間報告，同会計報告，次期運営委員候補者について，平成24年度事業計画・予算案について，平成24年度支部会議について			
11月11日	定例顧問会議	名古屋工業大学	—	—
	平成23年度事業中間報告，同会計報告，次期運営委員候補者について，平成24年度事業計画・予算案について，平成24年度支部会議について			
<b>(3) ④ 北陸支部</b>				
1月14日	第14・15期 新旧合同運営委員会ならびに支部会議・顧問会議	金沢ガーデンホテル	—	16
	第14期の事業・会計・監査報告の審議と，第15期の事業計画・予算計画の審議，および支部役員・支部顧問の審議を行った。			
5月15日	第1回北陸支部運営委員会	金沢ガーデンホテル	—	9
	支部幹部の名簿確認と，インセンティブプランの計画，支部基金の活用について審議等を行った。			

8月6日	第2回北陸支部運営委員会	金沢ガーデンホテル	-	9
	奨励賞の選考と、電気関係学会連合大会について審議を行った。また支部開催の講演会の計画を行った。			
9月17日	第3回北陸支部運営委員会	福井大学	-	7
	優秀論文賞の選考を行った。			
12月2日	第4回北陸支部運営委員会	金沢大学サテライトプラザ	-	9
	今期の事業報告案と収支計算書案の審議と、来期の行事計画案・収支予算書案・支部運営委員候補・支部顧問候補の審議、来期申し送り事項等の審議を行った。			
<b>(3) ⑤ 関西支部</b>				
1月25日	第1回(新旧合同)支部運営委員会	中央電気倶楽部	-	31
	関西支部長賞規程の審議・改定、支部会議の準備			
1月25日	支部会議	中央電気倶楽部	-	41
	2010年度の事業、収支、2011年度の事業計画、収支計画、運営委員選挙結果の報告			
7月5日	第2回支部運営委員会	学校法人常翔学園 大阪センター	-	18
	各委員会の報告、メール審議内規の承認			
9月20日	第3回支部運営委員会	学校法人常翔学園 大阪センター	-	13
	各委員会の報告、支部長賞の選考準備、次期運営委員の選定依頼			
11月4日	第4回支部運営委員会	三菱電機関西支社	-	13
	各委員会の報告、次期運営委員の内定、次年度事業・予算計画			
1月6日	第5回支部運営委員会	学校法人常翔学園 大阪センター	-	-
	各委員会の報告、支部長賞の受賞者決定			
<b>(3) ⑥ 中国支部</b>				
1月18日	支部会議	岡山コンベンションセンター	-	30
	2010年度事業報告・収支決算報告、2011年度事業計画・収支予算案について審議し、原案通り承認された。			
1月18日	第1回運営委員会	岡山コンベンションセンター	-	23
	2010年度事業報告・収支決算報告、2011年度事業計画・収支予算案等について審議し、原案を決定した。			
5月20日	拡大運営委員会	広島工業大学	-	20
	2011年度の事業計画を具体的に検討し、分担等を決定した。			
9月9日	第2回運営委員会	広島工業大学	-	18
	2011年度ならびに2012年度の事業計画を具体的に検討し、分担等を決定した。			
11月27日	第3回運営委員会	広島工業大学	-	21
	2012年度の事業計画を具体的に検討し、分担等を決定した。			
<b>(3) ⑦ 四国支部</b>				
1月23日	四国支部運営委員会	阿南高専	-	8
11月11日	四国支部運営委員会	徳島大学	-	16

(3) ⑧ 九州支部				
1月8日	新旧合同運営委員会顧問会議	熊本大学工学部	13	20
	1. 新法人移行に伴う支部規則改定 / 2. 年間活動報告 / 3. 決算および会計監査報告 4. 次期役員・協議員候補者の承認 / 5. 研究委員会継続の申請・承認 / 6. 新年度事業計画案の検討・承認 / 7. 予算案承認 8. 支部奨励賞・本部学術奨励賞推薦の決定 / 9. その他			
1月8日	支部会議	熊本大学工学部	13	20
	1. 本部新法人移行に伴う支部規則改定/ 2. 第40期(平成22年度)事業報告/ 3. 第40期収支決算報告/ 4. 第40期会計監査報告/ 5. 支部奨励賞の贈呈/ 6. 第41期事業計画案/ 7. 第41期地区委員会・研究委員会/ 8. 第41期収支予算案			
4月21日	第2回運営委員会	熊本大学工学部	—	7
	1. 中間活動報告 / 2. 会計報告 / 3. 事業計画 / 4. その他			
9月9日	第3回運営委員会			
	1. 総務幹事交代について / 2. 中間活動報告 / 3. 会計報告 / 4. 今後の主催行事について / 5. その他			
9月20日	第1回事業委員会	九州工業大学 kyutech プラザ	—	13
	学術講演会運営(プログラム作成を含む)			
12月3日	第2回事業委員会	大分県労働福祉会 館ソレイユ	—	12
	次年度事業計画ほか			
12月4日	臨時運営委員会	大分県労働福祉会 館ソレイユ	—	9

# 2011 年度(平成 23 年度) 決算書(案)



公益社団法人計測自動制御学会

# 平成23年度正味財産増減計算書

平成23年1月1日から平成23年12月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息	76,038		76,038
特定資産運用益			
特定資産受取利息	129,296		129,296
受取会費			
正会員受取会費	62,505,050		62,505,050
学生会員受取会費	2,375,650		2,375,650
賛助会員受取会費	19,054,800		19,054,800
事業収益			
広告収益	2,051,385		2,051,385
論文集収益	21,971,100		21,971,100
産業論文収益	980,000		980,000
英文論文収益	8,668,094		8,668,094
Annual Conference収益	26,375,657		26,375,657
委員会事業収益	4,115,000		4,115,000
規格調査事業収益	622,130		622,130
会誌論文集収益	6,450,092		6,450,092
教材(CD)頒布収益	21,000		21,000
学術講演会収益	18,567,710		18,567,710
部門大会収益	5,456,457		5,456,457
講演会収益	279,000		279,000
講習会収益	1,113,000		1,113,000
シンポジウム収益	19,565,949		19,565,949
研究会収益	837,500		837,500
見学会収益	533,000		533,000
国際交流活動収益	4,408,355		4,408,355
受取補助金等			
受取補助金	1,465,000		1,465,000
受取負担金			
受取負担金	58,717		58,717
受取寄付金			
受取寄付金	12,381,000		12,381,000
受取寄付金振替額	3,390,240		3,390,240
雑収益			
受取利息	105,359		105,359
国際会議分配金収益	2,780,455		2,780,455
会誌翻訳者著作権収益	445,530		445,530
共催事業分配金収益	282,335		282,335
雑収益	7,418,734		7,418,734
経常収益計	234,483,633		234,483,633
(2) 経常費用			
事業費			
給料手当	42,044,972		42,044,972
臨時雇用賃金	6,866,012		6,866,012
退職給付費用	1,200,000		1,200,000
旅費交通費	22,076,492		22,076,492
通信運搬費	12,055,873		12,055,873
建物減価償却費	958,868		958,868
備品減価償却費	129,714		129,714
消耗品費	4,024,029		4,024,029
事務所費	326,625		326,625
印刷製本費	43,121,567		43,121,567

保険料	154,530	154,530
諸謝金	6,901,737	6,901,737
OA関係諸雑費	3,522,750	3,522,750
租税公課	31,699	31,699
支払負担金	2,110,265	2,110,265
委託費	8,524,306	8,524,306
会場費	13,384,000	13,384,000
原稿料	1,078,519	1,078,519
技術交流会費	16,959,705	16,959,705
表彰関係費	4,216,903	4,216,903
広告宣伝費	75,000	75,000
事業未収金回収不能費	366,300	366,300
雑費	5,875,114	5,875,114
管理費		
給料手当	11,727,016	11,727,016
臨時雇用賃金	1,888,590	1,888,590
退職給付費用	300,000	300,000
福利厚生費	8,192,312	8,192,312
会場費	401,676	401,676
旅費交通費	5,535,005	5,535,005
通信運搬費	2,366,618	2,366,618
建物減価償却費	239,717	239,717
備品減価償却費	31,586	31,586
消耗品費	2,440,893	2,440,893
修繕費	35,010	35,010
印刷製本費	1,221,740	1,221,740
賃借料	414,645	414,645
事務所費	3,531,749	3,531,749
OA関係諸雑費	4,030,262	4,030,262
会費自動引落費	455,966	455,966
会費還元費	59,500	59,500
会費未収金回収不能額費	3,755,920	3,755,920
保険料	14,060	14,060
諸謝金	817,500	817,500
雑費	1,254,864	1,254,864
経常費用計	244,719,609	244,719,609
当期経常増減額	△ 10,235,976	△ 10,235,976
2. 経常外増減の部		
(1) 経常外収益	0	0
経常外収益計	0	0
(2) 経常外費用	17,916	17,916
経常外費用計	17,916	17,916
当期経常外増減額	△ 17,916	△ 17,916
当期一般正味財産増減額	△ 10,253,892	△ 10,253,892
一般正味財産期首残高	214,061,260	214,061,260
一般正味財産期末残高	203,807,368	203,807,368
II 指定正味財産増減の部		
一般正味財産への振替額	3,390,240	3,390,240
当期指定正味財産増減額	△ 3,390,240	△ 3,390,240
指定正味財産期首残高	24,358,165	24,358,165
指定正味財産期末残高	20,967,925	20,967,925
III 正味財産期末残高	224,775,293	224,775,293



## 平成23年度貸借対照表

平成23年12月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	137,912,861	144,348,743	△ 6,435,882
未 収 金	16,009,932	18,335,038	△ 2,325,106
前 払 金	0	2,202,250	△ 2,202,250
立 替 金	49,920	1,197,345	△ 1,147,425
仮 払 金	7,050,345	3,283,931	3,766,414
流動資産合計	161,023,058	169,367,307	△ 8,344,249
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	19,000,000	19,000,000	0
土 地	17,775,830	17,775,830	0
基本財産合計	36,775,830	36,775,830	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	37,355,942	35,855,942	1,500,000
建物建築資金	5,600,000	2,800,000	2,800,000
事務所営繕引当資産	3,003,636	3,003,636	0
預り保証金引当資産	5,000,000	5,000,000	0
蓮沼賞積立資産	1,196,417	1,260,992	△ 64,575
友田賞積立資産	1,020,121	1,235,371	△ 215,250
武田賞積立資産	2,412,745	2,477,320	△ 64,575
武田記念事業積立資産	16,338,642	19,384,482	△ 3,045,840
東北支部記念事業特定費用準備資金	199,997	100,000	99,997
中部支部創立50周年記念事業特定費用準備資金	350,044	180,000	170,044
特定資産合計	72,477,544	71,297,743	1,179,801
(3) その他固定資産			
建 物	25,436,638	26,635,223	△ 1,198,585
什器備品	375,705	537,005	△ 161,300
その他固定資産合計	25,812,343	27,172,228	△ 1,359,885
固定資産合計	135,065,717	135,245,801	△ 180,084
資産合計	296,088,775	304,613,108	△ 8,524,333
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未 払 金	10,288,183	12,065,068	△ 1,776,885
前 受 金	1,516,865	2,115,635	△ 598,770
預 り 金	9,890,403	9,607,786	282,617
仮 受 金	7,262,089	1,549,252	5,712,837
流動負債合計	28,957,540	25,337,741	3,619,799
2. 固定負債			
退職給付引当金	37,355,942	35,855,942	1,500,000
預り保証金	5,000,000	5,000,000	0
固定負債合計	42,355,942	40,855,942	1,500,000
負債合計	71,313,482	66,193,683	5,119,799
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産	20,967,925	24,358,165	△ 3,390,240
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(20,967,925)	(24,358,165)	(△ 3,390,240)
2. 一般正味財産	203,807,368	214,061,260	△ 10,253,892
(うち基本財産への充当額)	(36,775,830)	(36,775,830)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(9,153,677)	(6,083,636)	(3,070,041)
正味財産合計	224,775,293	238,419,425	△ 13,644,132
負債及び正味財産合計	296,088,775	304,613,108	△ 8,524,333

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

建物および什器備品・・・・・・定率法によっている。

(2) 引当金の計上基準

退職給付引当金・・・・・・職員の退職給付に備えるため当事業年度末における自己都合要支給額に相当する金額を計上している。

(3) 消費税の会計処理

消費税の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 会計方針の変更

当期より、一般社団法人および一般財団法人に関する法律並びに公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の関連する規定に基づく会計基準に変更した。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	19,000,000	0	0	19,000,000
土 地	17,775,830	0	0	17,775,830
小 計	36,775,830	0	0	36,775,830
特定資産				
退職給付引当資産	35,855,942	1,500,000	0	37,355,942
建物建築資金積立金	2,800,000	2,800,000	0	5,600,000
事務所営繕引当資産	3,003,636	0	0	3,003,636
蓮沼賞積立資産	1,260,992	0	64,575	1,196,417
友田賞積立資産	1,235,371	0	215,250	1,020,121
武田賞積立資産	2,477,320	0	64,575	2,412,745
武田賞記念事業積立資産	19,384,482	0	3,045,840	16,338,642
東北支部記念事業特定費用準備資金	100,000	100,013	16	199,997
中部支部創立50周年記念事業特定費用準備資金	180,000	170,044	0	350,044
預り保証金引当資産	5,000,000	0	0	5,000,000
小 計	71,297,743	4,570,057	3,390,256	72,477,544
合 計	108,073,573	4,570,057	3,390,256	109,253,374

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味 財産からの充当)	(うち一般正味 財産からの充当)	(うち負債に対 応する額)
基本財産				
定期預金	19,000,000	(0)	(19,000,000)	—
土 地	17,775,830	(0)	(17,775,830)	—
小 計	36,775,830	(0)	(36,775,830)	0
特定資産				
退職給付引当資産	37,355,942	—	—	(37,355,942)
建物建築資金積立金	5,600,000	(0)	(5,600,000)	—
事務所営繕引当資産	3,003,636	(0)	(3,003,636)	—
蓮沼賞積立資産	1,196,417	(1,196,417)	(0)	—
友田賞積立資産	1,020,121	(1,020,121)	(0)	—
武田賞積立資産	2,412,745	(2,412,745)	(0)	—
武田賞記念事業積立資産	16,338,642	(16,338,642)	(0)	—
東北支部記念事業特定費用準備資金	199,997	(0)	(199,997)	—
中部支部創立50周年記念事業特定費用準備資金	350,044	(0)	(350,044)	—
預り保証金引当資産	5,000,000	—	—	(5,000,000)
小 計	72,477,544	(20,967,925)	(9,153,677)	(42,355,942)
合 計	109,253,374	(20,967,925)	(45,929,507)	(42,355,942)

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高  
 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物	70,224,170	44,787,532	25,436,638
什器備品	15,650,257	15,274,552	375,705
合 計	85,874,427	60,062,084	25,812,343

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高  
 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
助成金						
SII2010	仙台市		700,000	700,000	0	
SII2010	東北大学 青葉工学振興会		200,000	200,000	0	
SI2010	仙台市		100,000	100,000	0	
SI2010	仙台市		100,000	100,000	0	
第28回センシングフォーラム 開催助成金	慶應義塾大学	0	150,000	150,000	0	
第26回生体・生理工学シンポジウム開催助成金	立命館大学	0	100,000	100,000	0	
中国支部学術講演会	岡山工学振興会 学術研究集会	0	55,000	55,000	0	現金預金
SICE九州フォーラム協賛金	計装研究会	0	60,000	60,000	0	
小 計		0	1,465,000	1,465,000		
合 計		0	1,465,000	1,465,000	0	

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳  
 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
当該資産による事業実施のための振替額	3,390,240
合 計	3,390,240

財 産 目 録

平成23年12月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金 預金	手元保管	運転資金として	368,523
		普通預金・定期預金	運転資金として	137,544,338
		普通預金 三菱東京UFJ銀行本郷支店:0108600		3,067,423
		普通預金 三菱東京UFJ銀行春日町支店:0522585		87,720
		普通預金 住友信託銀行東京営業部:3455199		28,733
		普通預金 みずほ銀行本郷支店:1663609		1,339
		普通預金 住友信託銀行東京営業部:100604		667,997
		普通預金 住友信託銀行東京営業部:3525579		5,143,587
		普通預金 住友信託銀行東京営業部:4209496		222,168
		普通預金 住友信託銀行東京営業部:3563036		232,525
		普通預金 三井住友銀行小石川支店:11734		2,628,056
		普通預金 住友信託銀行東京営業部:3474785		8,466,107
		普通預金 みずほ銀行本郷支店:1230133		6,148,351
		普通預金 みずほ銀行本郷支店:1259425		29,450
		普通預金 みずほ銀行本郷支店:2418101		98,346
		普通預金 みずほ銀行本郷支店:2806144		5,877,039
		普通預金 住友信託銀行東京営業部:3502411		7,783,364
		普通預金 みずほ銀行本郷支店:2801088		500,000
		普通預金 住友信託銀行東京営業部:6783169		1,053,002
		定期預金 住友信託銀行東京営業部:7291127-13		2,000,000
		普通預金 住友信託銀行東京営業部:3548912		1,735,513
		定期預金 住友信託銀行東京営業部:7291127-14		2,000,000
		郵便振替貯金 00160-9-127863		1,097,205
		普通預金 みずほ銀行本郷支店:1967063		23,974,616
		普通預金 三井住友銀行小石川支店:0529986		4,355,516
		普通預金 三菱東京UFJ銀行春日支店:0368547		201,596
		定期預金 三菱東京UFJ銀行春日支店:1083103		561,863
		普通預金 三菱東京UFJ銀行春日支店:1082160		8,006,099
		定期預金 みずほ銀行本郷支店:6653903		242,245
		普通預金 みずほ銀行本郷支店:2550301		399,754
		定期預金 みずほ銀行本郷支店:6653911		5,053,265
		普通預金 みずほ銀行本郷支店:2550077		3,668,148
		普通預金 みずほ銀行本郷支店:2549818		1,082,408
		普通預金 みずほ銀行本郷支店:2604940		498,994
		郵便振替貯金 00130-7-581382		7,329,159
		普通預金 三菱東京UFJ銀行鶴舞支店:0091883		2,953,026
		普通預金 三菱東京UFJ銀行鶴舞支店:0089883		465,102
		普通預金 みずほ銀行福岡支店:2759146		2,001,000
		普通預金 みずほ銀行福岡支店:2291726		1,501,000
		普通預金 北洋銀行北七条支店		412,210
		普通預金 北洋銀行北七条支店		1,642,952
		普通預金 七十七銀行本店営業部		533,966
		普通預金 三井住友銀行本山支店		2,771,857
		普通預金 三井住友銀行本山支店		1,046,796
		普通預金 ゆうちょ銀行		395,748
		普通預金 ゆうちょ銀行		2,241,715
		普通預金 ゆうちょ銀行1(オンライン)		2,044,404
普通預金 ゆうちょ銀行2(オンライン)		3,349,498		
普通預金 広島銀行五日市支店		908,142		
普通預金 広島銀行五日市支店		1,812,813		
普通預金 広島銀行五日市支店		2,326,790		
普通預金 阿波銀行助任橋支店		1,470,113		
普通預金 四国銀行阿南支店		879,469		
普通預金 熊本ファミリー銀行子飼橋支店		3,469,132		
普通預金 熊本ファミリー銀行子飼橋支店		1,077,017		
未収金	会員他	2011年度会費収入未収金分他	16,009,932	
前払金	IROS2011実行委員会	国際会議運営資金貸与	49,920	
仮払金	SICE2012実行委員会	国際会議運営費用	7,050,345	
流動資産合計				161,023,058
(固定資産)	基本財産	定期預金 住友信託銀行東京営業部:7291127-02		18,820,000
		普通預金 住友信託銀行東京営業部:100604		180,000
	土地	東京都文京区本郷1-35-28-303	公益目的保有財産であり、事務局の施設に使用している	17,775,830
	特定資産	退職給付引当資産	職員退職給付引当金見合の引当資産	37,355,942
	建物建築資金積立金	定期預金 住友信託銀行東京営業部:7291127-19	建物の老朽化に備えた再取得資金	5,600,000
				0

その他固定資産	事務所賞引当資産	普通預金	住友信託銀行東京営業部:7291127-16	エレベーター取替え費用分担金、電気設備、給排水設備取替え費用分担	3,003,636
	預り保証金引当資産	定期預金	住友信託銀行東京営業部:7291127-03	保証金の返還に備えるための引当資産	2,500,000
		普通預金	住友信託銀行東京営業部:100604		2,500,000
	蓮沼賞基金積立資産	定期預金	住友信託銀行東京営業部:7291127-17		1,196,417
	友田賞基金積立資産	定期預金	住友信託銀行東京営業部:7291127-18		1,020,121
	武田賞基金積立資産	定期預金	住友信託銀行東京営業部:7291127-04		2,412,745
	武田記念事業積立資産	定期預金	住友信託銀行東京営業部:7291127-11		13,000,000
		定期預金	住友信託銀行東京営業部:7291127-11		3,338,642
	東北支店記念事業特定費用準備資金	普通預金	七十七銀行本店営業部	東北支店の50周年記念事業に備えるための準備資金	199,997
	中部支店記念事業特定費用準備資金	普通預金	三井住友銀行本山支店	中部支店の40周年記念事業に備えるための準備資金	350,044
建物	178.76㎡	東京都文京区本郷1-35-28-303	公益目的保有財産であり、事務局の施設に使用している	25,436,638	
什器備品				375,705	
固定資産合計					135,065,717
資産合計					296,088,775
(流動負債)	未払金	三美印刷(株)他に対する未払	会誌・論文集11, 12月号発行費用等	10,288,183	
	前受金	会費、論文集代金	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する翌事業年度の会費	1,516,865	
	預り金	職員他	社会保険料、源泉徴収預り分、IFAC口座、連合講演会口座等	9,890,403	
	仮受金	会員他	返金、保留分等	7,262,089	
流動負債合計					28,957,540
(固定負債)	退職給付引当金	従業員に対するもの	職員に対する退職金の支払いに備えたもの	37,355,942	
	預り保証金(広告料保証金)			5,000,000	
固定負債合計					42,355,942
負債合計					71,313,482
(指定正味財産)				20,967,925	
(一般正味財産)				203,807,368	
正味財産合計					224,775,293
負債及び正味財産合計					296,088,775

公益目的保有財産の明細

財産種別	公益認定前取得不可欠特定	公益認定後取得不可欠特定	その他の公益目的保有財産	使用事業
土地			37㎡ 東京都文京区本郷1-35-28-303 17,775,830円	公益目的事業
建物			178.76㎡ 東京都文京区本郷1-35-28-303 12階建の3階部分 25,436,638円	公益目的事業
合計			43,212,468円	

## 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細  
財務諸表に対する注記3. に記載している.

2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	35,855,942	1,500,000	0	0	37,355,942

# 証 明 書

公益社団法人計測自動制御学会における平成23年度正味財産増減計算書および貸借対照表は、監査の結果、事実と相違ないことを証明します。

平成24年2月8日

公益社団法人計測自動制御学会 監事 尾 花 英 夫 ⑩

公益社団法人計測自動制御学会 監事 貝 原 俊 也 ⑩

公益社団法人計測自動制御学会 監事 高 田 晴 夫 ⑩

# 証 明 書

公益社団法人計測自動制御学会の平成23年12月31日現在における資産総額は296,088,775円であることを証明します。

平成24年2月8日

公益社団法人計測自動制御学会 監事 尾 花 英 夫 ⑩

公益社団法人計測自動制御学会 監事 貝 原 俊 也 ⑩

公益社団法人計測自動制御学会 監事 高 田 晴 夫 ⑩



(様式2-1)

## 平成23年度(直轄)会計正味財産増減計算書

平成23年1月1日から平成23年12月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	76,038	0	76,038
基本財産受取利息	76,038	0	76,038
特定資産運用益	129,296	0	129,296
特定資産受取利息	129,296	0	129,296
受取会費	83,935,500	0	83,935,500
正会員受取会費	62,505,050	0	62,505,050
学生会員受取会費	2,375,650	0	2,375,650
賛助会員受取会費	19,054,800	0	19,054,800
事業収益	71,254,458	0	71,254,458
広告収益	2,051,385	0	2,051,385
論文集収益	21,971,100	0	21,971,100
産業論文収益	980,000	0	980,000
英文論文集収益	8,668,094	0	8,668,094
Annual Conference収益	26,375,657	0	26,375,657
委員会事業収益	4,115,000	0	4,115,000
規格調査収益	622,130	0	622,130
会誌論文集収益	6,450,092	0	6,450,092
教材(CD)頒布収益	21,000	0	21,000
受取寄付金	15,771,240	0	15,771,240
受取寄付金	12,381,000	0	12,381,000
受取寄付金振替	3,390,240	0	3,390,240
雑収益	10,647,900	0	10,647,900
受取利息	89,888	0	89,888
国際会議分配金収益	2,780,455	0	2,780,455
会誌翻訳著作権収益	445,530	0	445,530
雑収益	7,332,027	0	7,332,027
他会計からの繰入額	4,380,604	0	4,380,604
支部会計からの繰入金収入	528,831	0	528,831
部門会計からの繰入金収入	3,851,773	0	3,851,773
経常収益計	186,195,036	0	186,195,036
(2) 経常費用			
事業費	129,730,322	0	129,730,322
給料手当	41,603,498	0	41,603,498
臨時雇賃金	1,941,925	0	1,941,925
退職給付費用	1,200,000	0	1,200,000
旅費交通費	7,349,763	0	7,349,763
通信運搬費	10,377,053	0	10,377,053
建物減価償却費	958,868	0	958,868
備品減価償却費	126,344	0	126,344
消耗品費	1,545,590	0	1,545,590
印刷製本費	32,854,365	0	32,854,365
保険料	57,830	0	57,830
諸謝金	2,558,558	0	2,558,558
O A関係諸雑費	3,522,750	0	3,522,750
租税公課	31,699	0	31,699
支払負担金	1,088,496	0	1,088,496
委託費	7,232,063	0	7,232,063
会場費	1,954,098	0	1,954,098
原稿料	951,319	0	951,319
技術交流会合費	8,620,810	0	8,620,810
表彰関係費	3,328,485	0	3,328,485
事業未収金回収不能費	321,300	0	321,300

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
雑費	2,105,508	0	2,105,508
管理費	48,714,629	0	48,714,629
給与手当	11,727,016	0	11,727,016
臨時雇賃金	1,888,590	0	1,888,590
退職給付費用	300,000	0	300,000
福利厚生費	8,192,312	0	8,192,312
会場費	401,676	0	401,676
総会費	0	0	0
理事会費	0	0	0
会議費	0	0	0
旅費交通費	5,535,005	0	5,535,005
通信運搬費	2,366,618	0	2,366,618
建物減価償却費	239,717	0	239,717
備品減価償却費	31,586	0	31,586
消耗品費	2,440,893	0	2,440,893
修繕費	35,010	0	35,010
印刷製本費	1,221,740	0	1,221,740
賃借料	414,645	0	414,645
事務所費	3,531,749	0	3,531,749
〇A関係諸雑費	4,030,262	0	4,030,262
会費自動引落費	455,966	0	455,966
会費還元費	59,500	0	59,500
会費未収金回収不能額	3,755,920	0	3,755,920
保険料	14,060	0	14,060
諸謝金	817,500	0	817,500
退職給与引当金繰入	0	0	0
雑費	1,254,864	0	1,254,864
他会計への繰出額	22,007,278	0	22,007,278
部門への支出	10,406,978	0	10,406,978
支部への支出	11,577,800	0	11,577,800
事業未回収回収不能引当支出	22,500	0	22,500
経常費用計	200,452,229	0	200,452,229
評価損益調整前経常増減額	△ 14,257,193	0	△ 14,257,193
当期経常増減額	△ 14,257,193	0	△ 14,257,193
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
税引前一般正味財産増減額	△ 14,257,193	0	△ 14,257,193
一般正味財産増減額	△ 14,257,193	0	△ 14,257,193
一般正味財産期首残高	125,742,303	0	125,742,303
一般正味財産期末残高	111,485,110	0	111,485,110
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	3,390,240	0	3,390,240
一般正味財産への振替額	3,390,240	0	3,390,240
当期指定正味財産増減額	△ 3,390,240	0	△ 3,390,240
指定正味財産期首残高	24,358,165	0	24,358,165
指定正味財産期末残高	20,967,925	0	20,967,925
III 正味財産期末残高			
正味財産期末残高	132,453,035	0	132,453,035

(様式1-1)

## 平成23年度(直轄)会計貸借対照表

平成23年12月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金及び預金	49,020,828	60,918,611	△ 11,897,783
未収金	19,854,036	13,316,538	6,537,498
前払金	0	2,202,250	△ 2,202,250
立替金	49,920	1,197,345	△ 1,147,425
仮払金	1,296,120	692,856	603,264
流動資産合計	70,220,904	78,327,600	△ 8,106,696
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
土地	17,775,830	17,775,830	0
基本財産信託預金	19,000,000	19,000,000	0
基本財産合計	36,775,830	36,775,830	0
(2) 特定資産			
退職給与引当預金	37,355,942	35,855,942	1,500,000
建物建築資金	5,600,000	2,800,000	2,800,000
事務所営繕引当預金	3,003,636	3,003,636	0
預り保証金引当預金	5,000,000	5,000,000	0
蓮沼賞積立資産	1,196,417	1,260,992	△ 64,575
友田賞積立資産	1,020,121	1,235,371	△ 215,250
武田賞積立資産	2,412,745	2,477,320	△ 64,575
武田記念事業積立資産	16,338,642	19,384,482	△ 3,045,840
特定資産合計	71,927,503	71,017,743	909,760
(3) その他固定資産			
建物	25,436,638	26,635,223	△ 1,198,585
什器備品	361,042	518,972	△ 157,930
その他の固定資産合計	25,797,680	27,154,195	△ 1,356,515
固定資産合計	134,501,013	134,947,768	△ 446,755
資産合計	204,721,917	213,275,368	△ 8,553,451
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	18,455,304	11,055,673	7,399,631
前受金	1,404,365	1,719,510	△ 315,145
預り金	9,793,550	9,450,325	343,225
仮受金	259,721	93,450	166,271
流動負債合計	29,912,940	22,318,958	7,593,982
2. 固定負債			
退職給与引当金	37,355,942	35,855,942	1,500,000
預り保証金	5,000,000	5,000,000	0
固定負債合計	42,355,942	40,855,942	1,500,000
負債合計	72,268,882	63,174,900	9,093,982
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
蓮沼賞積立資産	1,196,417	1,260,992	△ 64,575
友田賞積立資産	1,020,121	1,235,371	△ 215,250
武田賞積立資産	2,412,745	2,477,320	△ 64,575
武田記念事業積立資産	16,338,642	19,384,482	△ 3,045,840

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
指定正味財産合計	20,967,925	24,358,165	△ 3,390,240
（うち特定資産への充当額）	(20,967,925)	(24,358,165)	(△3,390,240)
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	111,485,110	125,742,303	△ 14,257,193
（うち基本財産への充当額）	(36,775,830)	(36,775,830)	(0)
（うち特定資産への充当額）	(8,603,636)	(5,803,636)	(2,800,000)
正味財産合計	132,453,035	150,100,468	17,647,433
負債及び正味財産合計	204,721,917	213,275,368	△ 8,553,451

正味財産増減計算書

平成23年1月1日から平成23年12月31日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益	48,096,971	0	48,096,971
部門学術講演会収益	16,822,210	0	16,822,210
部門大会収益	5,456,457	0	5,456,457
講演会収益	225,000	0	225,000
講習会収益	890,000	0	890,000
シンポジウム収益	19,236,449	0	19,236,449
研究会収益	837,500	0	837,500
見学会収益	221,000	0	221,000
国際交流活動収益	4,408,355	0	4,408,355
受取補助金等	1,350,000	0	1,350,000
地方公共団体等補助金収益	1,350,000	0	1,350,000
受取負担金	28,717	0	28,717
受取分担金	28,717	0	28,717
雑収益	1,603,990	0	1,603,990
受取利息	10,497	0	10,497
国際会議分配金収益	1,386,978	0	1,386,978
共催事業分配金収益	202,515	0	202,515
雑収益	4,000	0	4,000
他会計からの繰入額	9,042,500	0	9,042,500
交付金収入	9,020,000	0	9,020,000
未収金補填収入	22,500	0	22,500
経常収益計	60,122,178	0	60,122,178
(2) 経常費用			
事業費	50,831,636	0	50,831,636
臨時雇賃金	3,627,600	0	3,627,600
旅費交通費	10,933,376	0	10,933,376
通信運搬費	1,163,273	0	1,163,273
消耗品費	2,248,565	0	2,248,565
印刷製本費	8,438,577	0	8,438,577
保険料	96,700	0	96,700
諸謝金	2,715,194	0	2,715,194
支払負担金	617,403	0	617,403
委託費	1,187,813	0	1,187,813
会場費	8,853,588	0	8,853,588
原稿料	107,200	0	107,200
懇親会	7,244,409	0	7,244,409
表彰関係費	298,461	0	298,461
事業未収金回収不能費	45,000	0	45,000
雑費	3,254,477	0	3,254,477
他会計への繰出額	3,851,773	0	3,851,773
一般会計繰入金支出	3,851,773	0	3,851,773
経常費用計	54,683,409	0	54,683,409
評価損益調整前経常増減額	5,438,769	0	5,438,769
当期経常増減額	5,438,769	0	5,438,769
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	0	0	0

科	目	当 年 度	前 年 度	増 減
	税引前一般正味財産増減額	5,438,769	0	5,438,769
	一般正味財産増減額	5,438,769	0	5,438,769
	一般正味財産期首残高	60,475,224	0	60,475,224
	一般正味財産期末残高	65,913,993	0	65,913,993
II	指定正味財産増減の部			
	当期指定正味財産増減額	0	0	0
	指定正味財産期首残高	0	0	0
	指定正味財産期末残高	0	0	0
III	正味財産期末残高			
	正味財産期末残高	65,913,993	0	65,913,993

貸 借 対 照 表

平成 23 年 12 月 31 日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金及び預金	62,442,608	55,894,189	6,548,419
未収金	9,579,000	4,838,500	4,740,500
仮払金	5,754,225	2,522,175	3,232,050
流動資産合計	77,775,833	63,254,864	14,520,969
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
特定資産合計	0	0	0
(3) その他固定資産			
固定資産合計	0	0	0
資産合計	77,775,833	63,254,864	14,520,969
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	4,773,352	1,009,395	3,763,957
前受金	112,500	284,000	△ 171,500
預り金	49,360	30,443	18,917
仮受金	6,926,628	1,455,802	5,470,826
流動負債合計	11,861,840	2,779,640	9,082,200
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	11,861,840	2,779,640	9,082,200
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	65,913,993	60,475,224	5,438,769
正味財産合計	65,913,993	60,475,224	5,438,769
負債及び正味財産合計	77,775,833	63,254,864	14,520,969

平成23年度旧(支部)会計正味財産増減計算書

平成23年1月1日から平成23年12月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益			
基本財産受取利息	0		0
②特定資産運用益			
特定資産受取利息	0		0
③受取会費			
正会員受取会費	0		0
学生会員受取会費	0		0
賛助会員受取会費	0		0
④事業収益			
学術講演会収益	1,745,500		1,745,500
講演会収益	54,000		54,000
講習会収益	223,000		223,000
シンポジウム収益	329,500		329,500
見学会収益	312,000		312,000
記念事業収益	0		0
⑤受取補助金等			
受取補助金	115,000		115,000
⑥受取負担金			
受取負担金	30,000		30,000
⑦受取寄付金			
受取寄付金	0		0
受取寄付金振替額	0		0
⑧雑収益			
受取利息	4,974		4,974
国際会議分配金収益	0		0
会誌翻訳者著作権収益	0		0
共催事業分配金収益	79,820		79,820
雑収益	82,707		82,707
⑨会計からの繰入額			
直轄会計からの繰入金収入	11,577,800		11,577,800
経常収益計	14,554,301		14,554,301
(2) 経常費用			
①事業費			
給料手当	441,474		441,474
臨時雇用賃金	1,296,487		1,296,487
旅費交通費	3,793,353		3,793,353
通信運搬費	515,547		515,547
備品減価償却費	3,370		3,370
消耗品費	229,874		229,874
事務所費	326,625		326,625
印刷製本費	1,828,625		1,828,625
諸謝金	1,627,985		1,627,985
支払負担金	404,366		404,366
委託費	104,430		104,430
会場費	2,576,314		2,576,314
原稿料	20,000		20,000
技術交流会費	1,094,486		1,094,486



表彰関係費	589,957	589,957
広告宣伝費	75,000	75,000
雑費	515,129	515,129
②他会計への繰出額		
直轄会計への繰出額	528,831	528,831
事業費合計	15,971,853	15,971,853
③管理費		
給料手当	0	0
臨時雇用賃金	0	0
会場費	0	0
旅費交通費	0	0
通信運搬費	0	0
備品減価償却費	0	0
消耗品費	0	0
事務所費	0	0
印刷製本費	0	0
OA関係諸雑費	0	0
雑費	0	0
管理費合計	0	0
経常費用計	15,971,853	15,971,853
当期経常増減額	△ 1,417,552	△ 1,417,552
2. 経常外増減の部		
(1)経常外収益		
経常外収益計	0	0
(2)経常外費用		
経常外費用計	17,916	17,916
当期経常外増減額	△ 17,916	△ 17,916
当期一般正味財産増減額	△ 1,435,468	△ 1,435,468
一般正味財産期首残高	27,843,733	27,843,733
一般正味財産期末残高	26,408,265	26,408,265
II. 指定正味財産増減の部		
一般正味財産への振替額		
一般正味財産への振替額	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0
指定正味財産期首残高	0	0
指定正味財産期末残高	0	0
III. 正味財産期末残高	26,408,265	26,408,265

平成23年度旧(支部)会計貸借対照表

平成23年1月1日から平成23年12月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	26,449,425	27,535,943	△ 1,086,518
未収金	46,200	180,000	△ 133,800
前払金	0	0	0
立替金	0	0	0
仮払金	0	68,900	△ 68,900
流動資産合計	26,495,625	27,784,843	△ 1,289,218
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
東北支部記念事業特定費用準備資金/東北支部	199,997	100,000	99,997
中部支部創立50周年記念事業特定費用準備資金/中部支部	350,044	180,000	170,044
特定資産合計	550,041	280,000	270,041
(3) その他固定資産			
建物	0	0	0
什器備品	14,663	18,033	△ 3,370
その他固定資産合計	14,663	18,033	△ 3,370
固定資産合計	564,704	298,033	266,671
資産合計	27,060,329	28,082,876	△ 1,022,547
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	528,831	0	528,831
前受金	0	112,125	△ 112,125
預り金	47,493	127,018	△ 79,525
仮受金	75,740	0	75,740
流動負債合計	652,064	239,143	412,921
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	652,064	239,143	412,921
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	26,408,265	27,843,733	△ 1,435,468
(うち特定資産への充当額)	(550,041)	(280,000)	(270,041)
正味財産合計	26,408,265	27,843,733	△ 1,435,468
負債及び正味財産合計	27,060,329	28,082,876	△ 1,022,547

平成23年度旧(支部)会計正味財産増減計算書総括表

平成23年1月1日から平成23年12月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減	北海道支部	東北支部	中部支部	北陸支部	関西支部	中国支部	四国支部	九州支部
I. 一般正味財産増減の部											
1. 経常増減の部											
(1) 経常収益											
① 基本財産運用利益											
基本財産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
② 特定資産運用利益											
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③ 受取会費											
正会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学生会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④ 事業収益											
学術講演会収益	1,745,500	1,745,500	343,000	0	0	0	40,000	0	527,000	60,000	775,500
講演会収益	54,000	54,000	0	0	0	0	0	54,000	0	0	0
講習会収益	223,000	223,000	64,000	0	0	0	0	159,000	0	0	0
シンポジウム収益	329,500	329,500	0	0	0	110,500	0	219,000	0	0	0
見学会収益	312,000	312,000	0	0	0	0	0	312,000	0	0	0
⑤ 受取補助金等											
受取補助金	115,000	115,000	0	0	0	0	0	0	55,000	0	60,000
⑥ 受取負担金											
受取負担金	30,000	30,000	20,000	0	0	0	0	0	10,000	0	0
⑦ 受取寄付金											
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧ 雑収益											
受取利息	4,974	4,974	283	81	571	812	1,234	587	305	1,101	0
共催事業分配金収益	79,820	79,820	0	0	0	79,820	0	0	0	0	0
雑収益	82,707	82,707	0	0	1,207	46,000	3,000	33,500	0	0	0
⑨ 会計からの繰入額											
直轄会計からの繰入金収入	11,577,800	11,577,800	553,000	909,800	2,869,200	654,600	2,830,800	1,531,200	698,600	1,530,600	0
経常収益計	14,654,301	14,654,301	980,283	909,881	2,981,478	820,232	3,679,034	2,157,287	758,905	2,367,201	0
(2) 経常費用											
① 事業費											
給料手当	441,474	441,474	0	0	0	0	359,000	82,474	0	0	0
臨時雇用賃金	1,296,487	1,296,487	86,000	109,150	596,556	32,000	0	200,000	30,000	242,781	0
旅費交通費	3,793,353	3,793,353	254,910	269,111	543,842	463,662	821,342	649,887	49,180	741,419	0
通信運搬費	515,547	515,547	29,794	38,921	101,037	20,660	154,664	111,480	7,930	51,061	0
備品減価償却費	3,370	3,370	491	2,879	0	0	0	0	0	0	0
消耗品費	229,874	229,874	8,161	0	110,174	0	7,682	86,055	4,980	12,822	0
事務所費	326,625	326,625	0	0	0	0	326,625	0	0	0	0
印刷製本費	1,828,625	1,828,625	314,564	0	409,061	0	390,125	254,100	0	460,775	0
諸謝金	1,627,985	1,627,985	188,887	11,111	472,719	158,331	185,552	262,222	129,999	219,164	0
支払負担金	404,366	404,366	70,000	80,000	0	96,000	0	7,346	137,020	12,000	0
委託費	104,430	104,430	0	0	28,080	0	0	0	0	76,350	0
会議費	2,576,314	2,576,314	40,736	9,920	59,848	567,522	594,268	186,405	39,450	1,078,165	0
原料料	20,000	20,000	0	0	20,000	0	0	0	0	0	0
技術交流会費	1,094,486	1,094,486	162,358	87,100	214,860	0	180,000	387,883	40,230	22,055	0
表彰関係費	589,957	589,957	0	30,000	129,469	110,000	113,440	50,000	40,000	117,048	0
広告宣伝費	75,000	75,000	0	0	0	0	0	75,000	0	0	0
雑費	515,129	515,129	11,565	25,348	117,685	15,062	55,913	198,962	30,241	60,353	0
② 他会計への繰出額											
直轄会計への繰出額	528,831	528,831	89,610	89,610	89,073	1,465,237	225,211	0	124,937	0	0
事業費合計	15,971,853	15,971,853	1,167,466	753,150	2,892,404	1,465,237	3,413,822	2,551,814	633,967	3,093,993	0
(3) 管理費											
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨時雇用賃金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会場費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
備品減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事務所費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
諸謝金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
OA関係諸雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
管理費合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常費用計	15,971,853	15,971,853	1,167,466	753,150	2,892,404	1,465,237	3,413,822	2,551,814	633,967	3,093,993	0
当期経常増減額	△ 1,417,552	△ 1,417,552	△ 187,183	156,731	89,074	△ 645,005	165,212	△ 394,527	124,938	△ 726,792	0
2. 経常外増減の部											
(1) 経常外収益											
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用											
経常外費用計	17,916	17,916	0	0	17,916	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	△ 17,916	△ 17,916	0	0	△ 17,916	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,435,468	△ 1,435,468	△ 187,183	156,731	71,158	△ 645,005	165,212	△ 394,527	124,938	△ 726,792	0
一般正味財産期首残高	27,843,733	27,843,733	2,283,493	537,215	4,008,466	3,256,160	4,943,479	5,442,272	2,099,707	5,272,941	0
一般正味財産期末残高	26,408,265	26,408,265	2,096,310	693,946	4,079,624	2,611,155	5,108,691	5,047,745	2,224,645	4,546,149	0
II. 指定正味財産増減の部											
一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
III. 正味財産期末残高	26,408,265	26,408,265	2,096,310	693,946	4,079,624	2,611,155	5,108,691	5,047,745	2,224,645	4,546,149	0

平成23年度支部会計貸借対照表総括表  
平成23年1月1日から平成23年12月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減	北海道	東北	中部	北陸	関西	中国	四国	九州
I. 資産の部											
1. 流動資産											
現金預金	26,449,425	27,535,943	△ 1,086,518	2,071,479	547,527	3,818,653	2,674,388	5,393,902	5,047,745	2,349,582	4,546,149
未収金	46,200	180,000	△ 133,800	24,200	22,000	0	0	0	0	0	0
前払金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前立金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
仮払金	0	68,900	△ 68,900	0	0	0	0	0	0	0	0
流動資産合計	26,495,625	27,784,843	△ 1,289,218	2,095,679	569,527	3,818,653	2,674,388	5,393,902	5,047,745	2,349,582	4,546,149
2. 固定資産											
(1) 基本財産											
基本財産合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 特定資産											
特定資産合計	199,997	100,000	99,997	0	199,997	350,044	0	0	0	0	0
<small>東北支部記念事業特定費用準備資産/東北支部 中部支部創立50周年記念事業特定費用準備資産/中部支部</small>	350,044	180,000	170,044	0	199,997	350,044	0	0	0	0	0
(3) その他固定資産	550,041	280,000	270,041	0	0	0	0	0	0	0	0
建物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
什器備品	14,663	18,033	△ 3,370	631	14,032	0	0	0	0	0	0
その他固定資産合計	14,663	18,033	△ 3,370	631	14,032	0	0	0	0	0	0
固定資産合計	564,704	298,033	266,671	631	214,029	350,044	0	0	0	0	0
資産合計	27,060,329	28,082,876	△ 1,022,547	2,096,310	783,556	4,168,697	2,674,388	5,393,902	5,047,745	2,349,582	4,546,149
II. 負債の部											
1. 流動負債											
未払金	528,831	0	528,831	0	89,610	89,073	0	225,211	0	124,937	0
前受り金	0	112,125	△ 112,125	0	0	0	0	0	0	0	0
預り金	47,493	127,018	△ 79,525	0	0	0	47,493	0	0	0	0
仮受金	75,740	0	75,740	0	0	0	15,740	60,000	0	0	0
流動負債合計	652,064	239,143	412,921	0	89,610	89,073	63,233	285,211	0	124,937	0
2. 固定負債											
固定負債合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
負債合計	652,064	239,143	412,921	0	89,610	89,073	63,233	285,211	0	124,937	0
III. 正味財産の部											
1. 指定正味財産											
指定正味財産合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 一般正味財産	26,408,265	27,843,733	△ 1,435,468	2,096,310	693,946	4,079,624	2,611,155	5,108,691	5,047,745	2,224,645	4,546,149
(うち特定資産への充当額)	(550,041)	(280,000)	(270,041)	(0)	(199,997)	(350,044)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	26,408,265	27,843,733	△ 1,435,468	2,096,310	693,946	4,079,624	2,611,155	5,108,691	5,047,745	2,224,645	4,546,149
負債及び正味財産合計	27,060,329	28,082,876	△ 1,022,547	2,096,310	783,556	4,168,697	2,674,388	5,393,902	5,047,745	2,349,582	4,546,149